

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.19 2007年度



The Board of Education in Oita City 2008

大分市 埋蔵文化財調査年報

vol.19 2007 年度

The Board of Education in Oita City 2008

序 文

本書は、平成 19 年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査の概要を収録したものです。

大分市は、古代には豊後国の国府がおかれ、また大分・海部両郡の郡衙もおかれるなど、古くから大分の政治的中心地として栄えてきました。このため祖先たちが残した文化財も数多く、埋蔵文化財については現在 417 地点が周知されています。

平成 19 年度には、大分市中心部に程近い駅南地区で、重要な発見がありました。大分駅南の大道遺跡群では土地区画整理事業に伴って平成 13 年度から継続的に発掘調査が実施されてきましたが、今から約 1700 年前の古墳時代初め頃には大規模な環濠集落がつくられていたことがわかりました。ここでは、同じ時代につくられた全国でも希少なほぼ完全な形のクスノキ製臼も出土し、注目されました。また、約 1200 年前の平安時代初め頃の、官衙遺構が発見され、近くにあったと思われる豊後国府との関連が強く想定されています。平成 12 年度に国史跡に指定されて発掘調査が続けられている大友氏館跡では、中心建物部分の発掘調査が行われ、15 世紀以降の建物の変遷が明らかになってきました。ようやく大友氏館の具体的な変遷が語れるようになってきたといえます。

市内東部の横尾貝塚は、平成 12 年度に水場の遺構や世界でも希少なカゴ入り黒曜石が出土して注目されましたが、平成 20 年度には国指定史跡に指定される運びとなりました。これに先立ち、平成 19 年度には「おおいたん縄文 ーはり絵で創ろう！横尾貝塚の縄文集落ー」と題して、親しみやすい形で横尾遺跡を知っていただくことをめざしたイベントを開催いたしました。国史跡に指定されたことを受け、横尾貝塚につきましても市民の皆様のご協力のもと、整備活用を着実に進めてまいります。

最後になりましたが、本書が市民の皆様に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成 20 年 12 月 26 日

大分市教育委員会

教育長 足立一馬

例言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容についてまとめた年報である。
2. 平成 19 年度における調査地点は、第 2 図および第 4 表に示している。
3. 本書の執筆は、各調査担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第Ⅳ章の受贈図書一覧は、平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、山下朋紀（大分市教育委員会文化財課嘱託）による。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会臨時職員が行ったものである。

佐藤良子、中山麻里子、稲穂美香、秋山かおる、小島愛、青木里水、加藤真優美、佐藤久美、橋本千代美、倉増美智代、永井勝代、平田ちはる（順不同）
6. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
7. 本書の編集・構成は、高島および各調査担当者が行った。
8. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市教育委員会文化財資料室に保管している。
9. 大友氏関連遺跡の調査・名称については、その構成要素である町屋部分を「中世大友府内町跡」とし、この範囲に含まれる「大友氏館跡」ならびに「旧万寿寺地区」は、個別に調査次数を付する。
10. 本書中第 3 章・第 4 章で使用了調査地点位置図のうち、特に断りのないものは、大分市都市計画図（1/10000）である。

本文目次

第1章	大分市教育委員会教育総務部文化財課概要	1
1	沿革	1
2	組織	1
3	大分市文化財保護審議会	2
第2章	平成19年度事業概要	3
1	開発事前審査事業	3
2	発掘調査事業	5
3	教育普及活動	9
第3章	発掘調査の概要	10
	大友氏館跡第20次調査	10
	旧万寿寺地区第4次調査	11
	中世大友府内町跡第81次調査	12
	府内城・城下町跡第18次調査	13
	大道遺跡群第22次調査	14
	大道遺跡群第23次調査	15
	大道遺跡群第24次調査	17
	宮苑井ノ口遺跡第4次調査	18
	千代丸古墳・宮苑遺跡	19
	賀来条里跡	20
	木上石切場跡確認調査・測量調査	24
	横尾遺跡群第126次・127次・128次調査	28
	横尾遺跡群第129次・130次・131次調査	29
	横尾遺跡群第132次調査	30
	野間8号墳	31
	丹生遺跡群（第12地点）	34
	丹生川・坂ノ市条里跡（第11地点）	35
	丹生川・坂ノ市条里跡（第13地点）	36
	城原・里遺跡第11次調査	37
第4章	付篇	38
	付篇1 大分市池の平出土の土師器壺	38
	付篇2 大分市西寒多神社所蔵の土器群	39
	付篇3 大分市碓山出土の弥生土器	42
第5章	受贈図書目録	45

挿 図 目 次

第 1 図 地域区分図	3
第 2 図 地区別事前審査割合（件数）	4
第 3 図 地区別事前審査割合（面積）	4
第 4 図 調査遺跡位置図	6
大友氏館跡第 20 次調査	
第 5 図 調査地点位置図	10
第 6 図 調査区全景（南から）	10
第 7 図 SX065 遺物出土状況（西より）	10
旧万寿寺地区第 4 次調査	
第 8 図 調査地点位置図	11
第 9 図 万 4SX150 検出状況（西より）	11
第 10 図 万 4SX150 土層堆積状況（北西より）	11
中世大友府内町跡第 81 次調査	
第 11 図 調査地点位置図	12
第 12 図 調査区全景空中写真	12
第 13 図 調査区東半柱穴群及び SO60 検出状況	12
府内城・城下町跡第 18 次調査	
第 14 図 調査地点位置図	13
第 15 図 A 区全景（1 面目）	13
第 16 図 A 区 掘立柱建物検出状況	13
第 17 図 A 区 SE085 井筒検出時	13
大道遺跡群第 22 次調査	
第 18 図 調査地点位置図	14
第 19 図 調査区全景（西から）	14
第 20 図 SE016 完掘状況	14
大道遺跡群第 23 次調査	
第 21 図 調査地点位置図	15
第 22 図 調査区全景（南から）	15
第 23 図 SB005（北西から）	15
第 24 図 大道遺跡群第 23 次調査検出遺構図	16
大道遺跡群第 24 次調査	
第 25 図 調査地点位置図	17
第 26 図 調査区全景（南から）	17
第 27 図 SE008 出土木製臼・半月形木製品	17
宮苑井ノ口遺跡第 4 次調査	
第 28 図 調査地点位置図	18
第 29 図 調査区全景空中写真（上が北）	18
第 30 図 調査区全景（東より）	18
千代丸古墳・宮苑遺跡	
第 31 図 調査地点位置図	19
第 32 図 墳丘西側溝状遺構（北が上）	19
第 33 図 古墳周濠南壁土層（北より）	19

賀来条里跡

第 34 図 調査地点位置図	20
第 35 図 完掘状況（南より）	20
第 36 図 遺構配置図	21
第 37 図 S001 完掘状況（南東より）	21
第 38 図 S040 土層断面状況（南西より）	21
第 39 図 掘立柱建物跡平面・見通し図	22
第 40 図 S045 平面・断面図	23
第 41 図 S045 遺物出土状況	23
第 42 図 出土遺物実測図	23
木上石切場跡確認調査・測量調査	
第 43 図 調査地点位置図	24
第 44 図 S-3 採石状況 1	24
第 45 図 S-3 採石状況 2	24
第 46 図 S-1 ウーヒトの足跡 採石状況	24
第 47 図 S-2 採石状況	24
第 48 図 石切場跡確認調査・測量調査位置図	25
第 49 図 石柱近景（北東から）	27
第 50 図 石柱近景（東から）	27
第 51 図 石切場跡測量図	27
横尾遺跡群第 126 次・127 次・128 次調査	
第 52 図 調査地点位置図	28
第 53 図 第 127 次調査区（上が北）	28
第 54 図 第 127 次調査建物群（西より）	28
横尾遺跡群第 129 次・130 次・131 次調査	
第 55 図 調査地点位置図	29
第 56 図 第 130 次調査区（南より）	29
横尾遺跡群第 132 次調査	
第 57 図 調査地点位置図	30
第 58 図 ピット列検出状況（西より）	30
野間 8 号墳	
第 59 図 調査地点位置図	31
第 60 図 試掘トレンチ配置図	31
第 61 図 野間 8 号墳近景（西から）	32
第 62 図 試掘トレンチ①（西から）	32
第 63 図 試掘トレンチ②（北西から）	32
第 64 図 試掘トレンチ②南西壁土層	32
第 65 図 試掘トレンチ土層図	32
第 66 図 試掘トレンチ②西壁遺物出土状況	33
第 67 図 試掘トレンチ出土土円筒埴輪片	33
丹生遺跡群（第 12 地点）	
第 68 図 調査地点位置図	34
第 69 図 第 12 地点全景空中写真	34
第 70 図 SX003 遺物出土状況	34

丹生川・坂ノ市条里跡（第 11 地点）

第 71 図 調査地点位置図 35

第 72 図 第 11 地点全景 35

第 73 図 遺構完掘状況 35

丹生川・坂ノ市条里跡（第 13 地点）

第 74 図 調査地点位置図 36

第 75 図 第 13 地点全景空中写真 36

第 76 図 溝（SD010）および柵列 36

城原・里遺跡第 11 次調査

第 77 図 調査地点位置図 37

第 78 図 調査区全景 37

第 79 図 SH005 遺物出土状況 37

付篇 1

第 80 図 発見地点位置図 38

第 81 図 土器出土地（中央の畑地） 38

第 82 図 出土遺物実測図 38

第 83 図 出土遺物（土師器壺） 38

第 84 図 出土遺物底部 38

付篇 2

第 85 図 西寒多神社位置図 39

第 86 図 土器実測図 1 40

第 87 図 土器実測図 2 41

付篇 3

第 88 図 位置図 42

第 89 図 立会地点実測図 42

第 90 図 土器実測図 43

第 91 図 遺物出土状況 44

第 92 図 瀬戸内系壺 44

第 93 図 瀬戸内系壺口縁部 44

表 目 次

第 1 表 開発事前審査件数一覧 4

第 2 表 大分市平成 19 年度発掘調査地一覧 7

第 3 表 大分市平成 19 年度試掘・確認調査・
立会調査地一覧 7

第1章 大分市教育委員会教育総務部文化財課概要

第1章 大分市教育委員会教育総務部文化財課概要

1. 沿革

昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成5年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成10年4月1日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成12年4月1日 大分市教育委員会文化財課に改組
平成13年4月1日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組

2. 組織

次長兼課長	玉永光洋	大分市歴史資料館
参事	岩田祐治	参事兼館長 讃岐和夫
管理係	課長補佐兼係長 福田誠一	課長補佐兼副館長 久多羅岐 明
主査	幸 俊昭 桑原 治 筒井和信（平成20年12月～）	副館長 後藤典幸 主査 広岡道代 安部幹夫
指導主事	姫野公德 植木和美	主査 武富雅宣
主任	栗田博之 加藤キヌ 竹中智美	指導主事 甲斐 猛
文化財係	課長補佐兼係長 塔鼻光司	研修教諭 瀧口佳代
専門員	坪根伸也 池邊千太郎	事務員 仲矢咲紀
主任技師	塩地潤一 河野史郎 高畠 豊 中西武尚	嘱託 古瀬美鈴 大平直子 通山志賀子 細井雅希 北原 洋之 安部和広
主任	永松正大	
主事	佐藤道文 五十川雄也 古川 匠 長 直信	
嘱託	井口あけみ 稗田智美 奥村義貴 羽田野達郎 佐藤孝則 三嶋桂司 羽田野裕之 山本哲也 若杵善満 山下朋紀 五十川慎也 上原翔平 仲町憲治 宮崎 勲 廣瀬育子	

大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1) 文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2) 文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3) 文化財保護審議会に関すること。
- (4) 歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成 18 年 4 月 1 日現在）

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・教授（会長）	建造物
豊田 寛三	大分大学・教授（副会長）	近世
下村 悟	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元日	広島大学・助教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業専門学校・助教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	王子中学校・元校長	
渡部 文雄	大分県立歴史博物館・副館長	
段上 達雄	別府大学・教授	
渡部 ひろ美	大分県立大分南高等学校・教諭	

大分市文化財保護審議会条例（平成 11 年 12 月 15 日条例第 42 号）

（設置）

第 1 条 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 190 条第 1 項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平 17 条例 13・一部改正）

（組織）

第 2 条 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第 4 条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議회를代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 5 条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

（部会）

第 6 条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶務）

第 7 条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任）

第 8 条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

2 大分市文化財調査委員会条例（昭和 51 年大分市条例第 4 号）は廃止する。

附則（平成 17 年条例第 13 号）

この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

第2章

平成19年度事業概要

1 開発事前審査事業

(1) 平成 19（2007）年度の概要

第 1 表は平成 19 年度における開発申請内容を示したものである。

平成 19 年度の申請総面積は 1,954,119.07 m²、総申請件数は 131 件を数える。

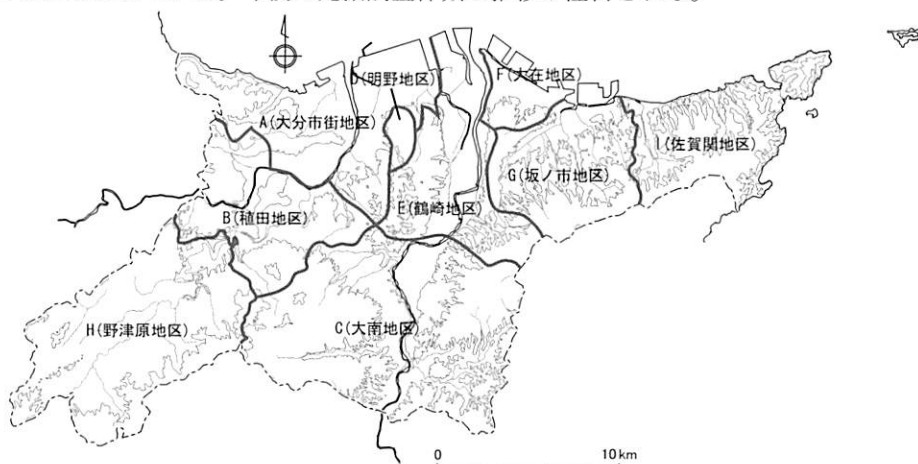
その内訳は、開発計画事前審査申請 14 件、開発行為事前協議申請 65 件、宅地造成工事事前協議申請 14 件、土地売買等の届出 26 件、森林法第 10 条の 21 第 1 項による開発行為の許可について 4 件、墓地変更許可申請に関する事前協議について 3 件、碎石法第 33 条の 6 に基づく意見の聴取等 2 件、土砂等のたい積行為にかかる事前協議申請書について 3 件である。また、本年度は開発行為事前審査申請、大規模土地取引事前指導申請については昨年度に引き続き申請件数が 0 件であった。

これを平成 18 年度の申請内容と比較すると、総件数では 7 件、約 7% の増加となっている。宅地造成工事事前協議申請が前年度より 11 件減であった一方、開発計画事前審査申請や土地売買等の届出などは増加しており、また新たに土砂等のたい積行為にかかる事前協議申請書についてが 3 件加わるなどしたため、全体では微増となった。

一方、一昨年度から昨年度にかけて大幅に増加してきた申請面積は、本年度は大幅な減少に転じ、ほぼ半減することとなった。これは、昨年度大幅増加の要因となった鉱業権の出願に関する協議が本年はなかったことによるところが大きい。これに伴い植田地区では申請面積が大幅に減少した。

申請エリアに関しては、植田地区が昨年度より大幅に減少したものの依然 42% を占める一方、大南地区は大幅に増加して 26% を占めている。これら 2 地区については 1 件あたりの面積が大きい碎石法関連や土砂たい積行為にかかる事前協議申請書についてがその要因となっている。実質的な開発申請である開発事前協議や宅地造成工事事前協議申請については、開発事前協議が明野、大南、坂ノ市地区で昨年度より減少する一方で、大在地区で大幅に増加するなど各地で増加し、全体では面積比 50% 近い大幅増であったのに対し、宅地造成工事事前協議申請については大南地区で増加したのを除いて各地で減少し、面積比 44% の大幅減となっている。土地売買等の届出に関しては面積比約 13% の増加となっており、実質的な開発行為については全体として依然増加傾向にあるといえよう。

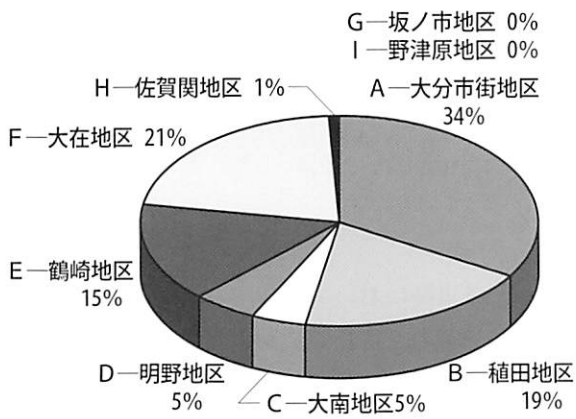
発掘調査件数と関係の深い大分市街地区については宅地造成工事事前協議申請は件数・面積ともに減少したものの、開発計画事前審査申請、開発行為事前協議申請、宅地造成工事事前協議申請、土地売買等の届出はいずれも件数・面積ともに増加している。今後の発掘調査件数の推移が注目される。



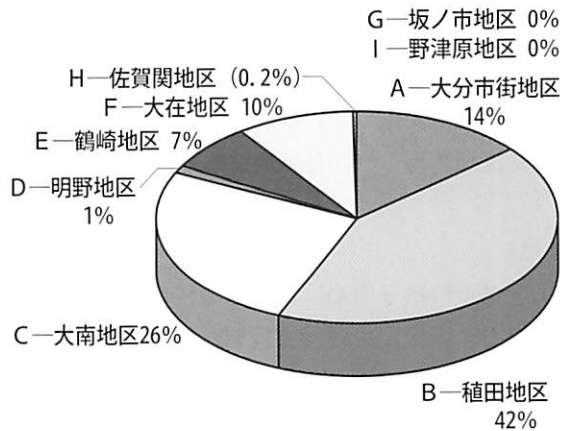
第 1 図 地域区分図

第 1 表 開発事前審査件数一覧

地区名	A-大分市街地区	B-穂田地区	C-大南地区	D-明野地区	E-鶴崎地区	F-大在地区	G-坂ノ市地区	H-佐賀関地区	I-野津原地区	合計
【開発計画事前審査申請】										
件数	4	0	0	1	4	5	0	0	0	14
面積(㎡)	133633.06	0	0	8625.88	32109.78	91022.01	0	0	0	265390.73
【開発行為事前審査申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【開発行為事前協議申請】										
件数	18	11	2	3	12	18	0	1	0	65
面積(㎡)	52818.79	128646.69	1385.45	5515.13	49098.41	63022.47	0	4645	0	305131.94
【開発行為変更事前協議申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【大規模土地取引事前指導申請】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【宅地造成工事事前協議申請】										
件数	7	3	1	2	1	0	0	0	0	14
面積(㎡)	7805.63	5284.58	10088	1330.73	862	0	0	0	0	25370.94
【森林法第10条の2第1項による開発行為の許可について】										
件数	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4
面積(㎡)	0	50957	32540	0	13779	0	0	0	0	97276
【土地売買等の届出】										
件数	14	6	0	1	1	4	0	0	0	26
面積(㎡)	69879.26	16929.11	0	2966.13	2805	23769.2	0	0	0	116348.7
【墓地経営に関する事前審査】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【墓地変更許可申請に関する事前協議について】										
件数	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
面積(㎡)	4899	2959.26	0	0	0	0	0	0	0	7858.26
【砕石法第33条の6に基づく意見の聴取等】										
件数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
面積(㎡)	0	626672	431068	0	0	0	0	0	0	1057740
【鉱業権の出願に関する協議】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【公共施設の設置計画等協議】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【市街化調整区域における大規模開発について】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【納骨堂経営許可事前審査願いについて】										
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面積(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
【土砂等のたい積行為に係る事前協議申請書について】										
件数	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3
面積(㎡)	0	0	33091.9	0	37765.6	8145	0	0	0	79002.5
【総合計】										
件数	44	25	6	7	20	28	0	1	0	131
件数比	35%	19%	4%	5%	15%	21%	0%	1%	0%	100%
面積(㎡)	269035.74	831448.64	508173.35	18437.87	136419.79	185958.68	0	4645	0	1954119.07
面積比	14%	42%	26%	1%	7%	9%	0%	1%	0%	100%



第 2 図 地区別事前審査割合（件数）



第 3 図 地区別事前審査割合（面積）

2 発掘調査事業

平成 19 年度に行った発掘調査件数は 102 件である。その内訳は、試掘確認調査が 36 件、立会調査が 43 件、本調査が 23 件である。(第 2・3 表) 以下に、その概要について、時代ごとに報告する。

(旧石器・縄文時代)

本年度において、当該期のまとまった遺構・遺物は確認されていない。賀来条里跡において、縄文土器が若干出土した程度である。

(弥生時代)

宮苑井ノ口遺跡や横尾遺跡などで、当該期の遺構を確認している。

宮苑井ノ口遺跡では、沖積低地のなかに推定されている微高地の中心部で後期の竪穴住居跡を検出している。すでにこの周辺において同時期の墓域も確認されており、集落構成を解明する大きな成果である。

横尾遺跡では、後期から古墳時代はじめ頃の粘土採掘坑を確認している。この場所のすぐ北側には、多武尾遺跡として知らせる同時期の環濠集落跡があり、その関連が注目される成果である。

この他にも、碓山山頂遺跡での立会調査では、谷部から弥生時代後期後半以降の土器が出土しており、台地上に当該期のまとまった遺跡の存在を示唆するものである。

(古墳時代)

宮苑遺跡や野間古墳、そして大道遺跡群や城原・里遺跡などで当該期の遺構を確認している。宮苑遺跡の調査は、国指定史跡千代丸古墳の範囲確認調査を目的として実施したもので、周濠と考えられる溝状遺構を検出している。出土遺物が皆無であり、遺構の年代を確認することはできていない。

野間古墳の調査は、詳細な場所が分からない 8 号墳の確認を目的として実施したもので、その所在地を確認することができている。

本年度において、当該期の成果として特に注目されるものが、大道遺跡群の調査成果である。大道遺跡群では、前期の環濠や井戸跡などが認められ、井戸跡から全形が分かる木製の臼と蓋と推定される半月形板状の木製品が出土している。その造りは丁寧で、鉋による精緻な加工が施されている。また、国立歴史民俗博物館による年代測定も行われており、臼材の伐採年代が明らかとなっている。

この他にも、城原・里遺跡や宮苑・井ノ口遺跡において、竪穴住居跡を検出している。

(古 代)

大道遺跡群や横尾遺跡などで、当該期の遺構を確認している。これらは、8 世紀末頃から 9 世紀代のものが主体で、ほぼ同じ方向に建てられた掘立柱建物跡が検出されている。大道遺跡群では南北方向、横尾遺跡では東西方向の建物跡がそれぞれ 10 棟ほど確認され、複数時期にわたる建物の変遷が認められるなかで、両者ともに建物の方向があまり変化していない点が注目される。この他にも、横尾遺跡では道路状遺構と考えられる帯状につながる柱穴群が認められ、丹生遺跡群では全形が分かる移動式竈が出土している。

(中 世)

中世大友城下町跡を中心に、横尾遺跡や賀来条里跡や丹生川・条里跡において当該期の遺構を確認している。そのなかでも、国指定史跡大友氏館跡と万寿寺跡の調査成果は特筆され、国指定史跡大友氏館跡では、16 世紀後半に大型建物関連遺構が形成される館の中心部の高まりが 15 世紀には存在し、その後掘り込み整地を繰り返しながら 16 世紀後半頃まで存続したことが判明した。この掘り込み整地は、最初の 15 世紀代に行われたものが最も大規模で、大友館の形成に関わる重要な成果と考えられる。

国指定史跡万寿寺跡では、基壇などの構造物に関わるものと推定される大規模な掘り込み地業跡が確認され、これまでの調査成果を踏まえ、禅宗式伽藍配置を示唆する成果があげられている。

中世大友府内町跡では、町屋の北側において掘立柱建物跡や溝状遺構をはじめ、土坑墓などを確認している。これらは、後述する府内城・城下町を囲む土塁が形成されたため、17世紀初頭頃には廃絶したものと判断される。

また、横尾遺跡では、16世紀後半頃に形成された半町規模の方形館に隣接して、新たに館の存在を裏付ける遺構群が確認され、賀来条里跡では、中世賀来荘における14世紀後半から15世紀にかけての建物群、丹生川・条里跡では、14世紀代の掘立柱建物群と土橋のある溝状遺構など注目される遺構群が検出されている。

(近 世)

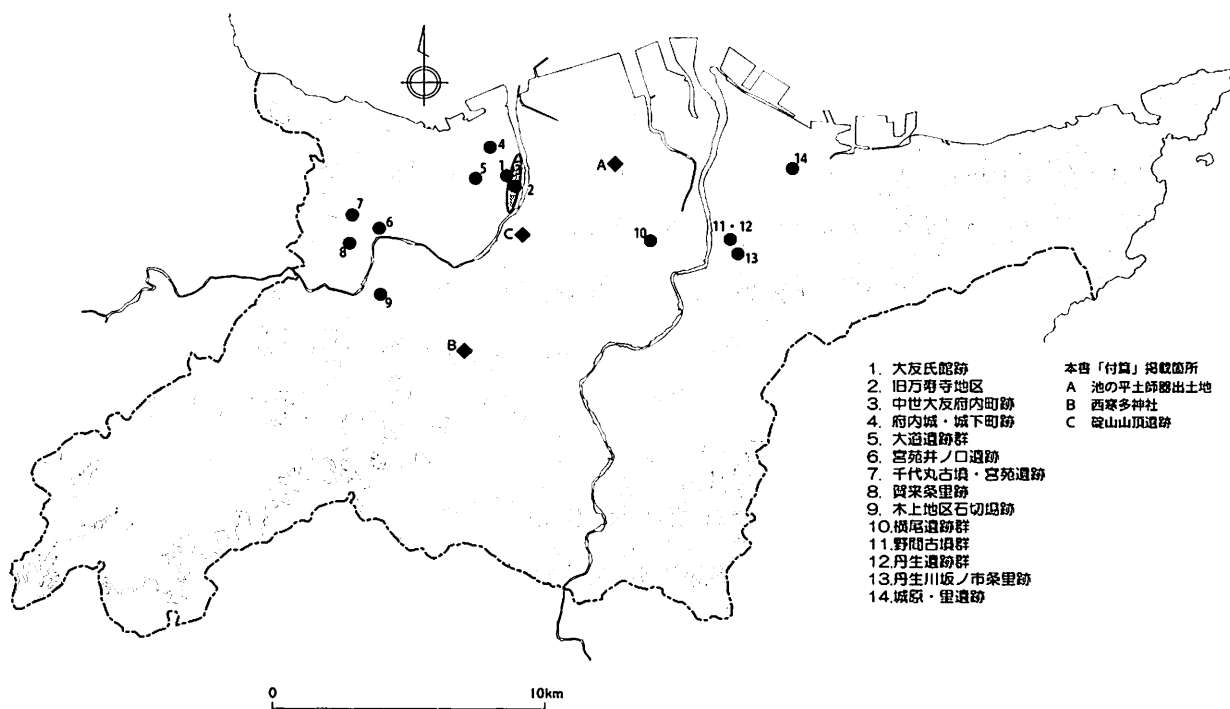
中世大友府内町跡と府内城・城下町において当該期の遺構を確認している。

とりわけ両者ともに江戸初期の調査成果が特筆され、中世大友府内町跡では、先述のとおり府内城・城下町を囲む17世紀初頭頃の土塁跡、府内城・城下町においては、規則的に並ぶ大型の掘立柱建物跡を確認している。

また、18世紀から幕末頃の遺構については、両者ともに重複する廃棄土坑をはじめ、井戸跡や道路状遺構など大型の遺構が密集して検出されている。

この他にも、詳細な年代について解明できていないものの、木上地区で実施した石切り場跡の確認調査が注目される。凝灰岩の露頭の裾部に堆積した碎石屑は厚く、下位のより古い採掘坑を検出することが困難となることから、同様の遺跡について記録作成のために発掘調査を行う場合は、事前に十分な検討が必要である。

(塩地)



第4図 調査遺跡位置図

第 2 表 大分市平成 19 年度発掘調査地一覧

調査地点	遺 跡 名	所在地	調査担当者	調査面積	調査期間	種別	事業内容
1	大友氏館跡第20次	大分市顕徳町	長 五十川 (慎)	650	070725～071117	国庫補助事業	市内遺跡
2	旧万寿寺地区第 4 次	大分市大字大分	長 五十川 (慎)	240	071116～071225	国庫補助事業	市内遺跡
3	中世大友府内町跡第81次	大分市長浜町	古川 山下	397	070618～070822	民間開発	マンション建設
4	府内城・城下町跡第18次	大分市荷揚町	佐藤 三島	404	070702～070831	民間開発	ホテル建設
5	大道遺跡群第22次	大分市金池南	高畠 羽田野 上原	573	070702～070723	公共事業	区画整理
5	大道遺跡群第23次	大分市金池南	高畠 羽田野 上原	4152	070724～071201	公共事業	区画整理
5	大道遺跡群第24次	大分市金池南	高畠 羽田野 上原	658	080204～080325	公共事業	区画整理
6	宮苑井ノ口遺跡第4次調査	大分市大字宮苑	中西 若松	375	070611～070830	民間開発	集合住宅
7	千代丸古墳・宮苑遺跡	大分市大字宮苑	古川 山下	73	080110～080201	国庫補助事業	市内遺跡
8	賀来条里跡	大分市大字東院	池邊 三島 羽田野 (裕)	330.6	071210～071214	民間開発	個人住宅
9	木の上地区石切場	大分市大字木上・田原	塩地 佐藤		070426～070502	民間開発	宅地造成
9	木の上地区石切場	大分市大字木上・田原	中西 佐藤 (孝)	1400	070523～070625	民間開発	宅地造成
10	横尾遺跡第126次	大分市大字横尾	河野 永松 山本	1020	070723～071009	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第127次	大分市大字横尾	中西 若松 山本	2610	070723～071009	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第128次	大分市大字横尾	河野 永松	570	070723～071009	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第129次	大分市大字横尾	中西 佐藤 (孝) 五十川 若松	3250	071105～080225	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第130次	大分市大字横尾	中西 若松	250	071105～080225	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第131次	大分市大字横尾	五十川 佐藤 (孝)	500	071105～080225	公共事業	区画整理
10	横尾遺跡第132次	大分市大字横尾	長 五十川 (慎)	840	071217～080218	公共事業	区画整理
11	野間8号墳	大分市大字丹川	永松 山本	6	070405～070525	公共事業	圃場整備
12	丹生遺跡群(第12地点)	大分市大字丹川	永松 山本	382	070701～080131	公共事業	圃場整備
13	丹生川坂ノ市条里跡 (第11地点)	大分市大字丹川	永松 山本	289	070701～080131	公共事業	圃場整備
13	丹生川坂ノ市条里跡 (第13地点)	大分市大字丹川	永松 山本	1007	070701～080131	公共事業	圃場整備
14	城原・里遺跡第11次	大分市大字城原	佐藤 奥村	250	071126～071207	国庫補助事業	市内遺跡

第 3 表 大分市平成 19 年度試掘・確認調査・立会調査地一覧

番号	種 別	遺 跡 名	所 在 地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因
1	立会(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡中央1丁目4～6	16	07.04.09	共同住宅建設
2	立会(民間)	賀来西遺跡	大分市賀来西土地区画整理事業B-4 1.2	4	07.04.09	ガソリンスタンド建設
3	確認(民間)	上野大友館(上原館)跡	大分市大字上野丘西373番地8	25	07.04.11	個人住宅建設
4	確認(民間)	上野遺跡群	大分市大字上野丘307-1・307-2・309-2・309-3・309-7	25	07.04.23	保育園増築
5	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字奥田字河角 650-4 650-8 651-4	14	07.04.26	共同住宅建設
6	立会(民間)	下郡遺跡群	大分市下郡中央2丁目286～2	2.23	07.05.10	個人住宅建設
7	確認(公共)	尾崎遺跡	大分市大字小池原明治北小学校内	28	07.05.23～24	学校施設建設
8	確認(公共)	尾崎遺跡	大分市大字小池原明治北小学校内	28	07.06.12～13	学校施設建設
9	立会(民間)	中世大友府内町跡	大分市錦町2丁目3番15号	0.5	07.06.18	店舗建設
10	確認(民間)	北遺跡群	大分市大字青崎1丁目348番地	9	07.06.19	工場建設
11	確認(民間)	上野遺跡群	大分市大字東上野字百合野2310番3・2310番4	0.25	07.06.19	個人住宅建設
12	立会(民間)	牧遺跡	大分市牧1丁目177	2	07.06.19	共同住宅建設
13	立会(民間)	宮苑井ノ口遺跡	大分市大字賀来字井ノ口654-1	6	07.06.26	共同住宅建設
14	立会(民間)	二目川遺跡	大分市横尾3885番1地先	1.4	07.07.10	公共下水道埋設
15	立会(公共)	庄ノ原片面遺跡	大分市大字荏隈字深河1573番10、11	6	07.07.10	擁壁建設
16	確認(民間)	米竹遺跡	大分市大字千歳字土井畑1796-1.1797-1.1797-2	28	07.07.13	宅地造成
17	確認(民間)	米竹遺跡	大分市大字千歳1700番地	57.6	07.07.18～19	宅地造成
18	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字田中404番1	8	07.07.20	店舗建設
19	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字田中404番1	10	07.07.20	店舗建設
20	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字羽屋字日吉田153番6	12	07.07.20	個人住宅建設
21	確認(民間)	浜遺跡群	大分市大字汐見1丁目297番・298番	14	07.07.23	共同住宅建設
22	確認(公共)	賀来条里跡	大分市大字中尾字楠畑495番1	22	07.07.27	校区公民館建設
23	立会(民間)	猪野遺跡	大分市大字猪野字西角750番1	30	07.08.02	個人住宅建設
24	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字花園12組の2	24	07.08.02	個人住宅建設
25	確認(公共)	府内城・城下町跡	大分市荷揚町21番 22番	24	07.08.06～10	庁舎駐車場建設
26	立会(民間)	勢家遺跡	大分市勢家町4丁目6番87号	9	07.08.10	その他建物

番号	種別	遺跡名	所在地	調査面積(m ²)	調査期間	調査原因
27	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府430-1.430-3.430-5	10	07.08.17	個人住宅建設
28	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字市66番の1	102	07.08.20~21	店舗建設
29	確認(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字横田新都心中央土地区画整理事業地区内	24	07.08.22	店舗建設
30	立会(公共)	丹川坂ノ市条里跡	大分市大字小在井3丁目1番18号	5	07.08.24	児童育成クラブ建設
31	立会(民間)	府内城・城下町跡	大分市中央町1丁目83番地	26	07.08.27	ホテル建設
32	立会(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾字猪野原360.3番1.7.8	10	07.08.28	店舗建設
33	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府430-1.430-3.430-5	10	07.09.04	共同住宅建設
34	立会(民間)	横塚遺跡2	大分市王ノ瀬1丁目164番、165番1	12	07.09.05	共同住宅建設
35	確認(民間)	横塚遺跡2	大分市王ノ瀬1丁目164番、165番1	12	07.09.05	共同住宅建設
36	立会(民間)	中世大友府内町跡	大分市金池町1472番1	5.64	07.09.05	個人住宅建設
37	立会(民間)	丹川坂ノ市条里跡	大分市大字佐野字宮ノ下4439・4440・4441・4442	42	07.09.07	店舗建設
38	確認(民間)	上野大友館(上原館)跡	大分市上野丘西369番1	15	07.09.12	個人住宅建設
39	確認(公共)	丹川坂ノ市条里跡	大分市久原南1丁目	75	07.09.18~19	公園整備
40	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字五反田612-6	18	07.09.25	店舗建設
41	確認(民間)	羽田遺跡	大分市大字羽田字穴井前467番1	18	07.09.27	共同住宅建設
42	立会(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字木上字小柳405、406	75	07.10.03	宅地造成
43	立会(公共)	米竹遺跡	大分市大字千歳地先	15	07.10.09~25	公共下水道埋設
44	立会(公共)	中世大友府内町跡	大分市錦町2丁目周辺	12	07.10.11~12.25	公共下水道埋設
45	確認(民間)	中世大友府内町跡	大分市金池町5丁目3240-1	22	07.10.19	店舗建設
46	立会(民間)	丹川坂ノ市条里跡	大分市大字坂ノ市字豊田1975-2	10	07.10.23	共同住宅建設
47	確認(公共)	横塚遺跡2	大分市横塚1丁目	140	07.10.29~11.01	公園整備
48	立会(公共)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字	6	07.11.05	公共下水道埋設
49	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字永興寺字上戸原104番3	15	07.11.07	共同住宅建設
50	立会(民間)	牧遺跡	大分市大字牧1丁目175-2 175-3	2	07.11.09	共同住宅建設
51	立会(公共)	横塚遺跡2	大分市横塚2丁目	5	07.11.09~08.01.11	公共下水道埋設
52	立会(民間)	羽田遺跡	大分市大字羽田字久保1043-8.1043-10	10	07.11.15	個人住宅建設
54	確認(民間)	宮苑井ノ口遺跡	大分市大字宮苑井ノ口73	40	07.11.20~21	共同住宅建設
55	立会(公共)	上野大友館(上原館)跡	大分市大字上野丘西385-3番地先	25	07.11.26~12.27	公共下水道埋設
56	立会(民間)	中世大友府内町跡	大分市錦町3丁目4384-1	4	07.11.29	共同住宅建設
57	確認(民間)	浜遺跡	大分市横田2丁目387番地	36	07.12.03	共同住宅建設
58	立会(民間)	羽田遺跡	大分市大字羽田字沖415番1・416番1・416番6・416番10	10	07.12.19	個人住宅建設
59	確認(民間)	浜遺跡	大分市大字沙見二丁目505番3	15	07.12.27	個人住宅建設
60	立会(民間)	玉沢地区条里跡	大分市大字下宗方字川田794番1・796番1	10	08.01.09	電波塔設置
61	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字羽屋字小田41番2	3	08.01.15	共同住宅建設
62	立会(公共)	古国府遺跡群	大分市大字永興69-10番地先 他	6	08.01.20	公共下水道埋設
63	確認(民間)	平田遺跡	大分市大字宮尾字上ノ原2087	18	08.01.23	電波塔設置
64	確認(民間)	葛木遺跡	大分市大字葛木字中原423番1・423番2	65	08.01.30	宅地造成
65	確認(民間)	上ノ原北遺跡	大分市大字角子原字新山1867-1他2筆	60	08.02.05~06	宅地造成
66	立会(民間)	府内城・城下町跡	大分市大字荷揚町5	3	08.02.09	ガス管埋設
67	立会(公共)	古国府遺跡群	大分市大字羽屋1015番2地先	12	08.02.09	公共下水道埋設
68	立会(民間)	中世大友府内町跡	大分市錦町2丁目5-6	25	08.02.12	個人住宅建設
69	立会(民間)	二目川遺跡	大分市大字横尾字猪野原3601番9	8	08.02.14	個人住宅建設
70	確認(民間)	浜遺跡	大分市大浜2丁目171番の一部・176番	36	08.02.15	共同住宅建設
71	立会(民間)	府内城・城下町跡	大分市荷揚町3	3	08.02.16~18	NTT通信管埋設
72	立会(民間)	古国府遺跡群	大分市大字奥田字上太田687番1	4	08.02.18	共同住宅建設
73	確認(公共)	浜遺跡	大分市青崎1丁目	36	08.02.19~20	公園整備
74	立会(民間)	丹生川坂ノ市条里跡	大分市大字里2620番地	2	08.02.25	コンクリート水槽建設
75	確認(民間)	古国府遺跡群	大分市大字古国府字五反田612-2 616	67.5	08.02.27~29	店舗建設
76	確認(民間)	丹川坂ノ市条里跡	大分市大字丹川字下緑187番2	18	08.03.04	共同住宅建設
77	立会(民間)	丹生川坂ノ市条里跡	大分市大字佐野字東柳原425	10	08.03.04	工場建設
78	確認(民間)	王越遺跡	大分市大字庄境144番・145番・146番	36	08.03.11	店舗建設
79	確認(公共)	若宮八幡宮遺跡	大分市上野町4番5号	80	08.03.13	学校グラウンド整備
80	確認(民間)	中世大友府内町跡	大分市金池町5丁目5-1	13	08.03.25	個人住宅建設

3 教育普及活動

(1) 大分市文化財だより 2007 年号の発行

平成3年度から発行を続けている文化財だよりの2007年号(第16号)の作成、配布を行った。

今回の特集は、大分市歴史資料館開館20周年記念特別展の「時代を駆けた風雲児 松平忠直展」に視点を当てた内容を取りあげ、市民に向けて広く情報の発信を図った。

内 容 ・時代を駆けた風雲児 松平忠直
・開発にあたっての遺跡の取り扱いについて

配布先 市内全戸

(2) 啓発活動

・ 大友氏遺跡関連フェスタ

日時：10月6日(土) 場所：大分銀行赤レンガ館 参加者数：250名

大友氏遺跡の調査成果及び遺跡の概要を広く市民に知ってもらうため、現地説明会及び公開展示、講演会を行った。

・ おおいたん縄文 ーはり絵で創ろう！横尾貝塚の縄文集落ー

日時：8月25日(土) 場所：コンパルホール文化ホール 参加者数：200名

横尾貝塚の調査成果を広く市民に公開し、遺跡とその保護の重要性について周知を図るとともに、遺跡への関心を深めてもらうため、紙芝居を作成し、分かりやすく紹介したフォーラムを開催した。

(3) 現地説明会

今年度は、現地説明会を計2回開催し、延べ350人の参加を得た。

- ・ 大友氏遺跡現地説明会 日時：10月6日 参加者数：200名
- ・ 大道遺跡群現地説明会 日時：10月14日 参加者数：150名

(4) 講師の派遣

学校や公民館、一般団体の依頼により、文化財や地域の歴史等について、講師の派遣を行った。

件数：11件

(5) 新指定文化財

市指定有形文化財として新規に3件指定された。

- ・ 靈山寺山門
- ・ 常楽寺文書
- ・ 光西寺真宗関係資料

4 海部古墳資料館

平成12年4月28日に開館した海部古墳資料館において、以下の事業を行った。

(1) 特別展

平成19年度の特別展は、「タイムトラベラー 2007 海を渡ったやきものくん」を10月10日から11月25日まで開催した。

入館者数：2980名

(2) 入館者

団 体	6,147 人
個 人	7,407 人
合 計	13,554 人

I 大友氏館跡第20次調査

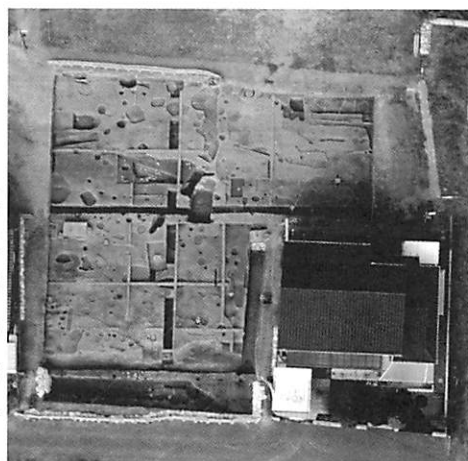
調査面積 650㎡
地域 A

調査期間 07.07.25～07.11.17
調査担当 長直信 五十川慎也

第20次調査は、推定大友氏館跡の中央部にあたる方形地割南側に位置する。これまでの調査同様、館の規模が最大となる16世紀後半の館内部の様相を把握することが主目的であることに変わりはないが、今回の調査では、17次調査で検出された中心施設と考えられる16世紀後半頃の大型建物関連遺構の南側延長部分の確認。17次調査で確認した16世紀代の掘り込み整地の分布範囲の確認と検証。館中心部における16世紀以前の土地利用状況の把握の3点を目的として調査をおこなった。今回の調査の大きな成果として①館17次で確認された掘り込み整地の南側の続きは検出されず、これとは別のプランとなる16世紀後半頃の掘り込み整地を確認した点（以下では、17次最後の掘り込み整地を「掘り込み整地①」、20次最後の掘り込み整地を「掘り込み整地②」と呼称する）。②館17次調査でその存在が示唆されていた15世紀末～16世紀初頭の掘り込み整地の存在が土層断面で確認できた点。③館20次では15世紀代の整地が少なくとも2度行われ、その一部は、「掘り込み整地②」や15世紀末～16世紀初頭の掘り込み整地に削られずに16世紀中頃～後半の遺構と同一レベルで確認されたことから、館中心部の「高まり」は15世紀には形成されていたことが分かった点である。以上のことから、現在、大友氏館跡と呼ばれるこの地が15世紀から16世紀後半まで連綿と整地や掘り込み整地を繰り返しながら居住空間として使用されていたことが明らかとなり、この契機となる15世紀の最初の整地は最も規模が大きく、館中心部の高まりはこの段階ですでに形成されていた可能性が高まった。このことは大友館形成を知るうえで非常に重要な意味をもつものと考えられる。主要遺構として、根締め石と考えられる遺構SX145a・145bは17次調査の大型建物関連遺構の南側延長部分にあたり、建物遺構の南限となるものである。これから推測される大型建物関連遺構の規模は、東西15m+α、東西29m程度となる。また、この建物のそばには16世紀中頃のかかわり大量廃棄土坑SX065・SX070が存在し、SX065は、東西11m、南北2.6m、断面形状はV字で、最大深さ1.6mを測る巨大な遺構で、夥しい数の京都系土師器が出土した。今後の課題として、今回の調査では、15世紀から16世紀までの遺物が出土しているが、館形成のプロセスを読み解くうえで、豊後在地の土師器類を中心とした遺物の詳細な検討が今まで以上に必要となる。同時に大内氏館跡で集中的に出土する白色系土師器の府内での位置付けや、20次調査で出土した15世紀末の土器様相下で出土した京都系土師器皿の位置付けなども今後非常に重要な意味を持っていくと考えられ、遺物に主眼を置いた検討が重要となる。また、こうした土器の型式学的検討を行うなかで、土器様相にどのような暦年代を付与するべきか、遺跡の解釈のうえで最も重要な問題であり、慎重に考えていく必要がある。（長直信）



第5図 調査地点位置図



第6図 調査区全景（南から）



第7図 SX065 遺物出土状況
（西より）

Ⅱ 旧万寿寺地区第4次調査

調査面積 240㎡

地域 A

調査期間 07. 11. 16～07. 12. 25

調査担当 長直信 五十川慎也

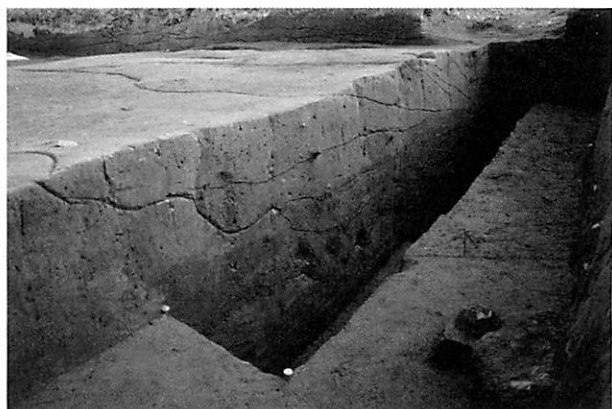
本調査区は万寿寺境内の推定伽藍中心軸上、万寿寺推定範囲のほぼ中央に位置する。調査の主眼は大友氏館跡同様、府内のまちの最盛期と考えられている16世紀後半の様相把握である。今回の調査目的は、この16世紀後半段階の万寿寺境内の伽藍配置を確認することである。調査の結果、最も特筆される事項は、大規模な掘り込み地業遺構万4SX150の検出である。万4SX150は、調査区中央より東側で検出した暗灰色系の土と黄色系の土が縞状に堆積する遺構である。調査区中央では北端を一部確認した。サブトレンチ1の土層観察からは、階段状に掘られた状態で、最も深いところで遺構面より約2.0mの深さをもつ。底から0.6mほどは黄色土・灰色土がやや水平に埋まり、これより上層は斜堆積になりながら、黄色系・灰色系の土で埋められている。万4SX150上面に展開する遺構の分布から、①15世紀代の遺構は調査区北側や東端に偏る傾向があり、調査区中央から南側では基本的には中世の遺構が展開しない。すなわち、掘り込み地業が行われた当初の段階（15世紀代）は、この地業の上に構造物（例えば盛土や基壇など）が覆っており、調査区の中央や南側は遺構が形成できないエリアとなっていたのではないかとと思われる。どの程度の広がりをもっていたかは明確ではないが、調査区西端で確認した中世の基盤層の存在から調査区全体の東西60m全体を覆うものではなかったようである。②16世紀代の遺構は調査区中央付近より東側には展開しない。中央付近より西では京都系土師器や赤絵が出土する万4SD120などが展開することから、①と同様の理由から万4SX150上部に遺構が分布しないエリアは16世紀後半の段階には中央付近に留まる可能性が高く、東西44m以上（東端は調査区外へ延びるため不明）となろうか。これらの点から、掘り込み地業SX150上面に展開する遺構の時期や分布範囲からみて、万4SX150は基壇などの構造物に関わる地業である可能性が考えられる。この点を踏まえてこれまでの万寿寺全体の調査成果全体と対比するなかで評価すると、16世紀後半段階の万4次SX150の推定プランと、町23次の基壇状遺構のプラン、万3次で検出した大型掘立柱建物や、府内古図に描かれる塔跡とされる区画とが直線的に並び、仏殿・法堂・方丈などの中心建物が直線的に配されるという禅宗式伽藍配置を想起させ興味深い。今後は、この仮説を前提に万4SX150の規模確認を行う予定であるが、今回地業とした遺構は、古代寺院に見られるような版築を施した地業とは比較にならないほど粗い整地であることから、このような土木技術の類例を探る必要がある。（長）



第8図 調査地点位置図



第9図 万4SX150 検出状況（西より）



第10図 万4SX150 土層堆積状況（北西より）

Ⅲ 中世大友府内町跡第81次調査

調査面積 397㎡

調査期間 07.06.18～07.08.22

地域 A

調査担当 古川匠 山下朋紀

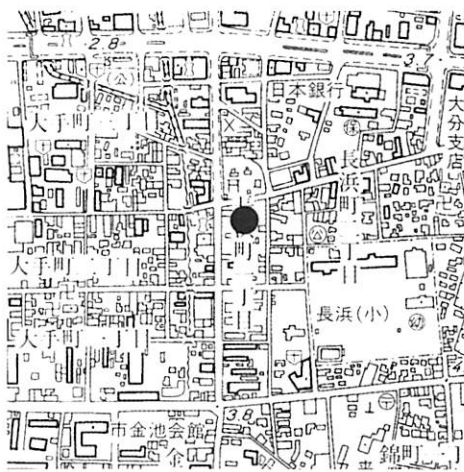
中世大友府内町跡第81次調査地点は、大分市長浜町1丁目に所在する。集合住宅建設計画が立ち上がったことを受け、発掘調査を行う事となった。

調査区の西半分を中心として、19世紀半ばから近代の廃棄土坑群、トイレ遺構、井戸跡が数多く検出された。また、調査区は明治時代の地籍図に記される地割り線上に位置するが、この地割線上で、18世紀後半から19世紀前半頃に比定される、積土堆積と石組遺構が検出された。地籍図が踏襲する町道が少なくともこの段階まで存在したものと考えられる。

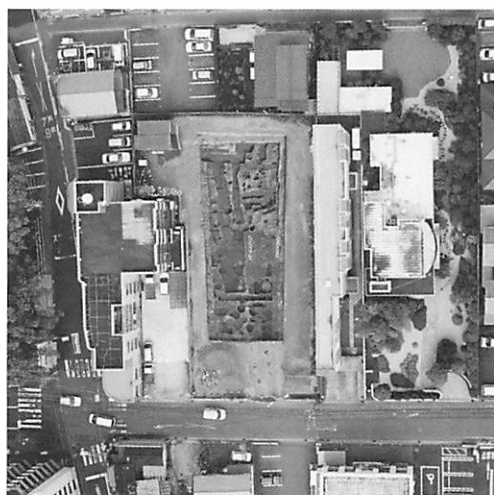
また、17世紀初頭頃の遺構として、慶長期の近世府内城下町整備に伴って形成された曲輪（土塁）跡が検出された。調査区東端で、南北方向の積土堆積が確認されたが、出土遺物の年代観から17世紀初頭段階に比定され、当該期に形成された土塁基部と考えられる。府内城・城下町跡第12次調査区では、この時期の整地層が一面を覆い、近世城下町形成に係る大規模な造成工事を示しているが、本調査区では整地層は検出されなかった。

16世紀末～17世紀初頭段階には、掘立柱建物が重複して2棟検出される。柱穴、柱穴の可能性のある規模の土坑が調査区東部北半部に集中的に分布しており、一般的な中世城下町の町家域とは様相が明らかに異なる。戦国期の舟入にほぼ面する立地との関係性を考慮すると、荷揚げ場に類する施設が存在したかもしれないし、また、舟入の向かいに「臼杵悪六屋敷」が位置する事から、本調査地点も屋敷地であったかもしれない。これらの建物群は17世紀初頭に廃絶されるようである。また、掘立柱建物群は16世紀第4四半期をその上限とする。すなわち極めて短期間しか存続しないにも拘らずこの地点に複数回、建物が建て替えられた事になる。

また、17世紀初頭に調査地点は大きく場の機能を転換する事となる。この他、16世紀後半頃に、土坑墓が1基造営される。また、東西方向の大型溝を検出した。これらの溝は16世紀前半頃から、掘立柱建物の形成される、16世紀末頃まで存続したようである。（古川匠）



第11図 調査地点位置図



第12図 調査区全景空中写真



第13図 調査区東半柱穴群及びS060検出状況（北から）

IV 府内城・城下町跡第18次調査

調査期間 07.07.02～07.08.31

調査担当 佐藤道文 三嶋桂司

今回の調査は、調査区を２つに分けて実施しており、その結果、それぞれの調査区で遺構の内容が異なっていることが判明した。まず、敷地北側のＡ区では、掘立柱建物跡、井戸跡、道路状遺構など生活の表空間の様相が濃い。南側のＢ区においては、便所状遺構、大型の廃棄遺構などが顕著で、生活の裏空間として使用されたエリアであることが想像できる。

A区では古代・中世・近世の3時期の遺構が確認されている。

古代の遺構は、井戸跡 2 基がある。出土遺物から 9 世紀前半～中頃に埋没したと考えられる。城下町内で、当該期の遺構が明確に確認されたのは初めてであり、当時から、人が生活可能な場であったことが判明した。市内中心部から上野台地にかけて展開する古代の遺跡の分布を見ると、調査地の立地は海・川に面し、陸地の先端地にあたる。別府湾から入ってきた場合、最初に目にする施設である。

よって、調査地周辺には、豊後に入ってくる際の表玄関的施設が存在する可能性が想定される。

近世の遺構は、17世紀代のものが注目される。大型の建物が規則的に配置されており、城下町初期整備段階の土地利用の在りかたを示す好資料といえる。

近世後半、18世紀代～幕末頃の遺構に関しては、火災処理土坑や廃棄遺構など大型のものが多く、武家屋敷を窺わせるような建物痕跡は認められなかった。

江戸時代の絵図と照合させると、三ノ丸西端の道路が調査でも確認されており、大分市史等にある推定範囲の信憑性を裏付けることとなった。(佐藤道文)



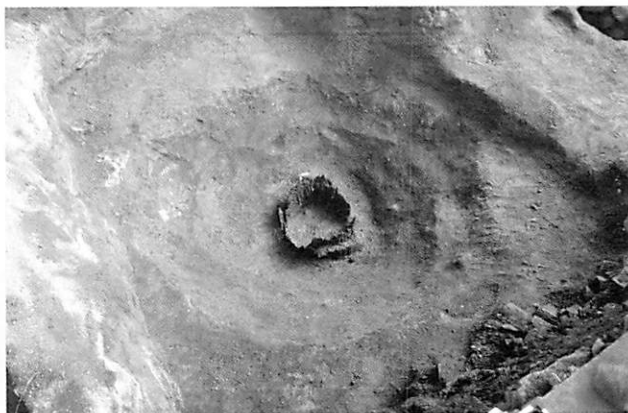
第 14 図 調査地点位置図



第15図 A区全景(1面目)



第 16 図 A 区 掘立柱建物検出状況



第 17 図 A 区 SE085 井筒検出時

V 大道遺跡群第22次調査

調査面積 573㎡
地域 A

調査期間 07. 07. 02～07. 07. 23
調査担当 高畠豊 羽田野達郎 上原翔平

今回の調査は、大分駅南土地地区画整理事業における区画街路整備事業に伴って実施したものである。

調査の結果、弥生時代中期の土坑 1、古墳時代の井戸 3、周溝遺構 1、古代の溝状遺構 1 などを検出した。

弥生時代の遺構は、土坑 S003 のみであり出土した刻目凸帯を有する甕から、弥生中期のものと推定された。近隣の東田室遺跡で検出されている当該期の貯蔵穴と類似していることから、同様の機能を有した可能性がある。

古墳時代の遺構としては、井戸跡がある。(S010・S011・S016)。これらはいずれも検出面からの深さが 1 m 程であったが、井筒は検出されておらず、そのため、掘削後から廃絶までの間に、著しく崩落したものも見られた。これら 3 基は概ね布留式古段階に比定されるもので、大きな時間差はみられなかった。この他、周溝遺構 S005 も出土遺物から当該期に比定される可能性がある。この遺構は井戸跡 S016 を切ってつくられ、幅約 1 m 程度の溝が東西約 7.5 m、南北約 6.8 m のやや不整な隅丸形状に廻るものである。

古代の遺構としては、調査区中央を斜行する溝 S002 があり、8 世紀末～9 世紀初頭に廃絶したものとみられる。N20.5° W を指向し、最大幅 1.8 m、深さ 0.4 m 程度である。このほか、出土遺物は僅少であるが、これと同一方向の溝が認められ (S013・S014)、当該期に比定される可能性がある。

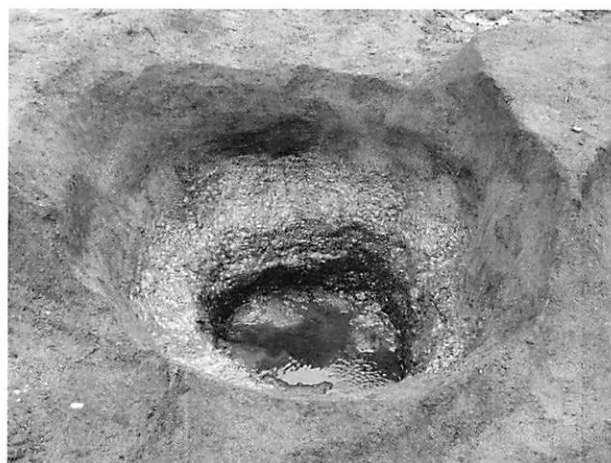
今回の調査では、当該地区ではこれまでで最古となる弥生時代中期の可能性がある遺構を検出し、さらに古墳時代、古代の遺構を検出した。特に、古墳時代の周溝遺構は、当地区では例の無いもので、その性格が注目される。調査地は少なくとも 50 cm 以上の削平を受けているものと見られ、遺構の残りはよくないが、周辺 7 地点でのこれまでの調査成果をあわせ、報告時に検討を行いたい。(高畠豊)



第 18 図 調査地点位置図



第 19 図 調査区全景 (西から)



第 20 図 SE016 完掘状況

VI 大道遺跡群第23次調査

調査面積 4152㎡

地域 A

調査期間 07. 07. 24～07. 12. 01

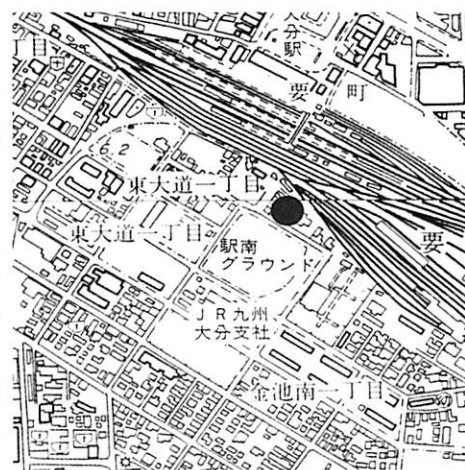
調査担当 高畠豊 羽田野達郎 上原翔平

今回の調査は、駅南区画整理事業に伴い、大分駅旧南口東側一帯において本調査を実施したものである。

調査の結果、昨年度末に実施した第20次調査で検出されたものの延長にあたる古墳時代前期の環濠をはじめとする遺構群の他、官衙遺構と推定される古代の掘立柱建物群が検出された。

古墳時代の環濠は、昨年度の20次調査で検出されたものに連続して検出された（SD001）ほか、東側拡張調査区においてはほぼ同時期と推定される大溝（S170）が検出されており、一連の環濠と考えられる。出土遺物からは古墳時代前期中葉を中心とする時期に埋没したものと推定される。SD001は幅約3m、最大深約1mで多量の土器が廃棄されていた。一方東側のSD170は幅約2m、最大深約0.8mで削平が著しいためやや小規模であり、土器の出土量も比較的少なく、特に東端部分では少量の出土にとどまった。当該期の遺構としては他に井戸跡10基、廃棄土坑2基等があり、もっとも古いものとしては弥生時代後期後葉にまで遡るものがみられるが、調査区西南部の環濠周辺に集中している。環濠の平面的な位置からは、JR大分駅側に延びていたことが推定され、JR大分駅構内を中心とする場所を囲むように掘られていたものと考えられる。

古代の遺構群は、掘立柱建物14、柵列2、井戸3、竪穴遺構1が検出されており、このほか当該期の可能性がある溝3がある。掘立柱建物群は主軸方向により大きく2グループに分かれ、少なくとも3時期の変遷が考えられ、8世紀末～9世紀前半の時期幅に位置づけられる。最も大きい建物は2間×5間で身舎面積50㎡を超えるもの（SB005・SB007）であり、それぞれの時期における中心的な建物とみられる。遺構の広がりを確認するため東側に拡張して調査を実施したが、小規模な建物SB016が検出されたのみであち、東側にはこれ以上ほとんど広がりが無いものと考えられる。南側に隣接する第5次調査区においては、奈良三彩陶器壺や円面硯・転用硯、瓦が出土しているほか、幅7mもの当該期の大溝が検出されており、大溝の方位は今回検出された建物群の一部とほぼ一致する。こうしたことから、これらの建物群は、何らかの官衙遺構と推定される。ただ、官衙特有の企画的な建物配置が認められないことから、官衙が有する一部機能を担う建物群と評価する方が妥当と思われる。（高畠豊）



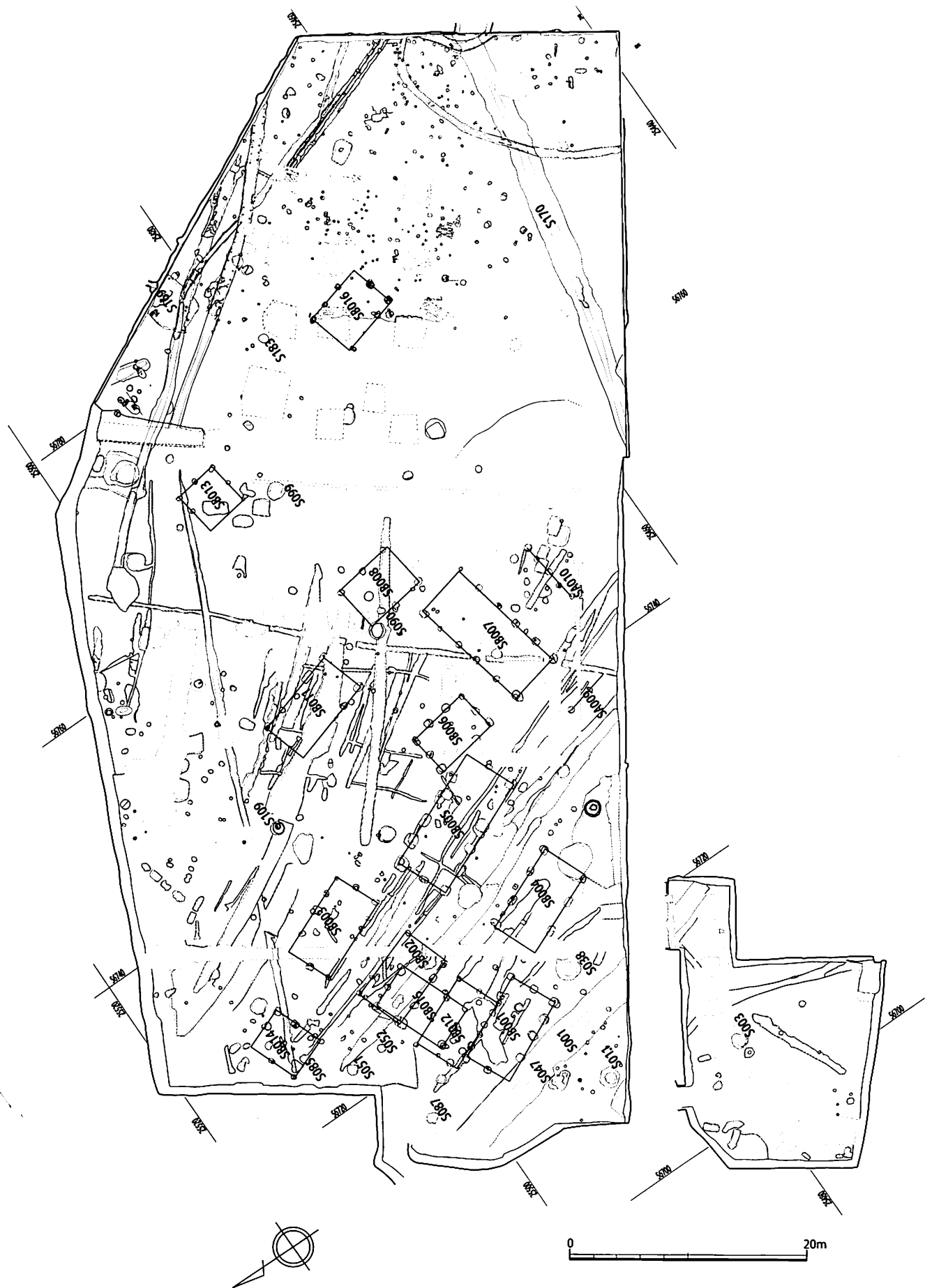
第21図 調査地点位置図



第22図 調査区全景（南から）



第23図 SB005（北西から）



第 24 図 大道遺跡群第 23 次調査検出遺構図 (1/300)

VII 大道遺跡群第24次調査

調査面積 658㎡

調査期間 08.02.04～07.03.25

地域 A

調査担当 高畠豊 羽田野達郎 上原翔平

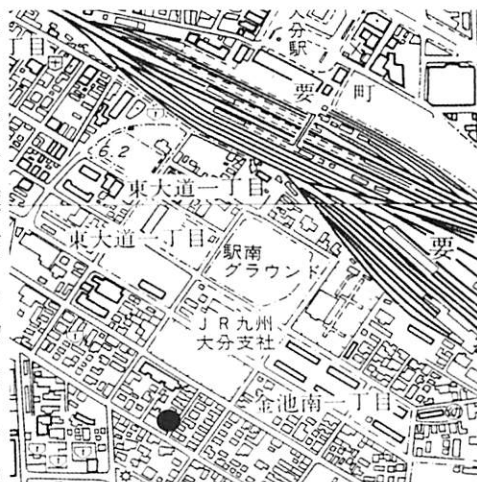
第24次調査では、古墳時代前期の井戸跡及び、古墳時代もしくは古代と推定される溝状遺構が検出された。

古墳時代の井戸跡は6基検出されているが、いずれも井戸枠等は検出されず素堀と考えられるものであり、検出面からの深さは0.8～1.0m程である。これらは、出土した土師器から、古墳時代前期前葉～中葉に位置づけられる遺構であると考えられる。井戸跡からは高い地下水位により良好に保存されていた有機物資料が多く出土した。特に、SE008から出土した木製臼は、当該期のものとしては全国的にも希少なほぼ完形のものであること、鉋により精緻な加工が施されていること、蓋と推定される半月形板状の木製品を伴うことなど、注目すべきものであった。樹種同定の結果、材質はクスノキであり、また、国立歴史民俗博物館による年代測定で伐採年代はAD269年頃と推定され、一定期間の使用の後に廃棄・埋没したことが判明した。隣接するSE007からは先端部の破片ではあるが、堅杵も出土している。

この他の遺構としては、4条の溝状遺構が検出されており、古墳時代後期以降もしくは古代の遺構と推定される。大道遺跡群の他の調査地点では8世紀末～9世紀前半頃の遺構・遺物が多く認められるが、本地点で検出された溝状遺構から出土した遺物は非常に少ないため、具体的な時期の判定には至らなかった。

今回の調査で注目された古墳時代の遺構であるが、6基の井戸跡以外の遺構は検出されておらず、住居跡等は後世の削平により残存していないものとみられる。しかし、多くの木製品の発見や有機物資料が得られたことにより、古墳時代前期における大道遺跡群における集落の評価や環境復元につながる貴重な情報として今後の分析が期待される。また、出土した木製臼の保存処理についても慎重に進める予定である。

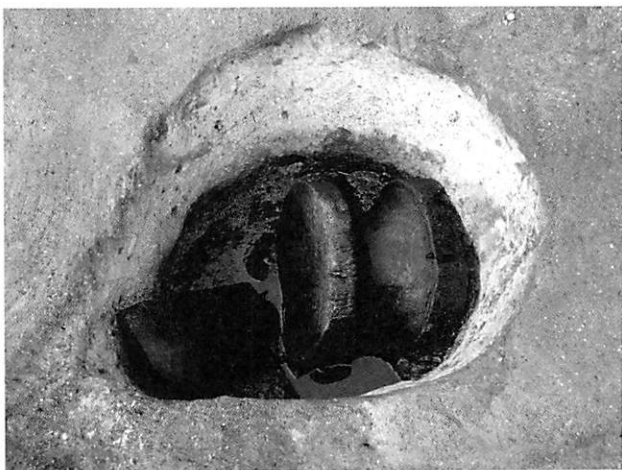
(高畠豊)



第25図 調査地点位置図



第26図 調査区全景 (南から)



第27図 SE008 出土木製臼・半月形木製品

VIII 宮苑井ノ口遺跡第4次調査

調査面積 375㎡

調査期間 07.06.11～07.08.30

地域 A

調査担当 中西武尚 若松善満

調査地は、大分市賀来西土地区画整理事業地内の西側中央に位置し、マンション建設に伴い調査を実施した。調査区は建物本体により遺構が消失する部分の内、事前の試掘調査により水田跡の検出された箇所を除いた、建設予定地西側部分に調査区を設定し、発掘調査を実施した。既往の調査の結果、周辺は弥生時代から古墳時代前期の集落の居住域と墓域が確認されており、当該調査地においても同様な遺構群の展開が予想された。

調査の結果、周辺調査で確認されているような甕棺墓などの墓域と考えられる遺構は検出されず、設定した調査区のほぼ全面に弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴住居跡や住居跡と考えられる竪穴状遺構が17基確認された。調査区東よりでは、南北に縦断する溝状遺構が検出され、これより東側が一段低くなる地形である。この溝状遺構は、地籍図にみられる字境に一致しており、これよりさらに東側にもう1つ南北方向でくの字に曲がった字境が存在する。検出された遺構の状況から後者の字境まで遺構が展開していたものと推測される。

確認された竪穴状遺構は、出土遺物から弥生時代後期・古墳時代前期・中期・後期の4時期に大別される。調査区内での各時期の位置関係をみると、弥生時代後期に帰属する遺構は、調査区北側に分布し、古墳時代中期以降ではやや南側に分布する傾向がみられる。周辺調査成果を鑑みると、当該地は集落域の中でも居住空間であったと考えられ、推定微高地の中心部に弥生時代の遺構群が展開し、古墳時代においては、その居住域が拡大したものと推定される。

その他では、古墳時代後期の住居跡を切る掘立柱建物跡1棟と井戸跡と考えられる遺構1基などを確認した。また、調査区南東隅からはわずかに水田跡を検出しており、概ね調査区東側の字境を境にして水田跡が展開している。詳細な時期については、近現代の水田跡により大きく削平をうけており不明である。

今回の調査において、これまでに確認されていなかった古墳時代中期・後期の居住空間が確認できたことは、当該地域の遺構変遷を考える上で貴重な成果と言える。(中西武尚)



第28図 調査地点位置図



第29図 調査区全景空中写真(上が北)



第30図 調査区全景(東より)

IX 千代丸古墳・宮苑遺跡

調査面積 73㎡

調査期間 08.01.10～08.02.01

地域 A

調査担当 古川匠 山下朋紀

国指定史跡千代丸古墳は、重要な歴史的意義を持つ古墳であるにも関わらず帰属年代が不明である。また、横穴式石室西北隅付近は盛土の流出が著しく、長期的な保存が危惧される状況である。このような現状をふまえ、平成 19、20 年度の二カ年にわたり、大分市教育委員会が国庫補助事業によって、墳丘形態、規模及び帰属年代の確認を当面の目的とし、調査を実施する事となった。調査対象は現存する墳丘の隣接地であり、周知遺跡としては宮苑遺跡に帰属する事となる。

調査の初年度となる平成 19 年度の第 1 次調査では、墳丘西側に 1 カ所、墳丘南側に 2 カ所の調査区を設定した。墳丘西側の平坦面に設定した第 1 トレンチでは、溝状遺構を調査区東端付近で検出した (SX005)。SX005 は幅 1.8 m、深さ 0.45 m の、南北方向の溝と推定され、埋土には多量の礫が含まれている。墳丘との位置関係と遺構の方向より、千代丸古墳周壕と推測される。但し、遺物は一点も出土していない。SX005 は墳丘復原の材料として評価できるが、SX005 から現存墳丘に至る範囲には古墳盛土の残存が確認できなかった。SX005 の直上には、中世の堆積層が水平堆積し、調査区東端まで延びている。また、SX006 で検出される中世の廃棄土坑 SK003 は、周壕状遺構 SX005 よりも墳丘側に位置している。すなわち、少なくとも 15 世紀段階には千代丸古墳墳丘西裾部は、現代とほぼ同じ地点まで削平を被っていたようである。次年度はこの成果を踏まえ、引き続き墳丘周辺の確認調査を実施する予定である。

(古川匠)



第 31 図 調査地点位置図



第 32 図 墳丘西側溝状遺構 (北が上)



第 33 図 第 1 工区古墳周濠南壁土層 (北より)

X 賀来条里跡

調査面積 330.6㎡

調査期間 07. 12. 10～07. 12. 14

地域 A

調査担当 池邊 三嶋 羽田野(裕)

申請地は、大分市大字東院字九反田に所在し、賀来条里跡の西北側に位置する。当該地は、賀来川の河岸段丘上の標高約 22 m にあり、北側に向かって緩やかに傾斜する。賀来川を挟んだ北側には、千代丸古墳とその周囲に 13 世紀後半を中心とする館跡が発見された宮苑遺跡が存在する。中世段階このあたり一帯は賀来荘として賀来氏の本貫地であったところで、賀来中学校にあたる賀来中学校遺跡内において賀来氏関連の館と推定される遺構群が確認されている。

今回の調査は、個人住宅の立会いの予定であったが、建造物の基礎部が遺跡を掘削する深度に変更されたために、緊急の発掘調査を実施するに至った。

検出された遺構は掘立柱建物跡 6 棟、溝状遺構 2 条、埋甕遺構 1 基、柵列遺構、多数のピット群で、14 世紀後半～15 世紀代の遺構群と推定される。以下に各遺構群について概略を述べる。

溝状遺構は、S001・O10 の 2 条が検出されており、堆積状況に水流痕跡が見られない。S001 は、南東から北西方向に伸びる幅 1.2 m ほどの溝状遺構である。埋土からは、14 世紀末～15 世紀代の土師器坏 (R001・002) がみついているほか縄文土器 (R003～007) が多く混入し、このあたりに縄文時代の包含層が存在していることが示唆される。S010 は真南北に指向し、床面は南にやや傾斜する。この方位は、検出された掘立柱建物と同一であることから屋敷地の区画性の高い溝と考えられる。

掘立柱建物跡は、数棟検出されているが、S010 と同じく同一方向で切り合いがないことから同時性の高い遺構である。SB001 は、北隅で確認された建物で南側に張り出しもしくは庇を有すると考えられる。SB002 も同じく北隅で確認された東西棟の建物である。SB003 は、梁行が 2 間、桁行が 3 間の東西棟である。SB004 は、東隅で確認された建物である。SB005 は、梁行が 1 間、桁行が 2 間の東西棟であるが、東と北に柵列を伴う構造である。SB006 は、梁行が 1 間、桁行が 2 間の東西棟である。

これ以外に S040 は、調査区東隅において S010 に一部を切られており、全体の形状は復元できないものの、現状では竪穴遺構と考えられる。遺物には、14 世紀末～15 世紀代の土師器坏 (R010・011) があり、建物群や S010 の溝状遺構と時期差はあまりないものである。S045 は楕円形を呈する土坑であるが、埋土に瓦質の鉢 (R012) が出土している。また、S045 の土坑は、埋設された埋甕が見つかっており、甕 (R013・014) は 14 世紀後半～15 世紀前半代の備前産である。

今回の調査は、これまで周辺において本格的な調査が皆無であった地点であり、この地域において縄文土器の確認、中世段階の遺構・遺物の確認ができたことは意義が大きい。特に 14 世紀から 15 世紀にかけての溝状遺構建物群が、賀来荘の集落の形成状況を示す重要な手がかりとなったと言えよう。今後、周辺部を含めて遺跡の解明をおこない、なかでも中世における賀来荘の実態に注視していく必要がある。

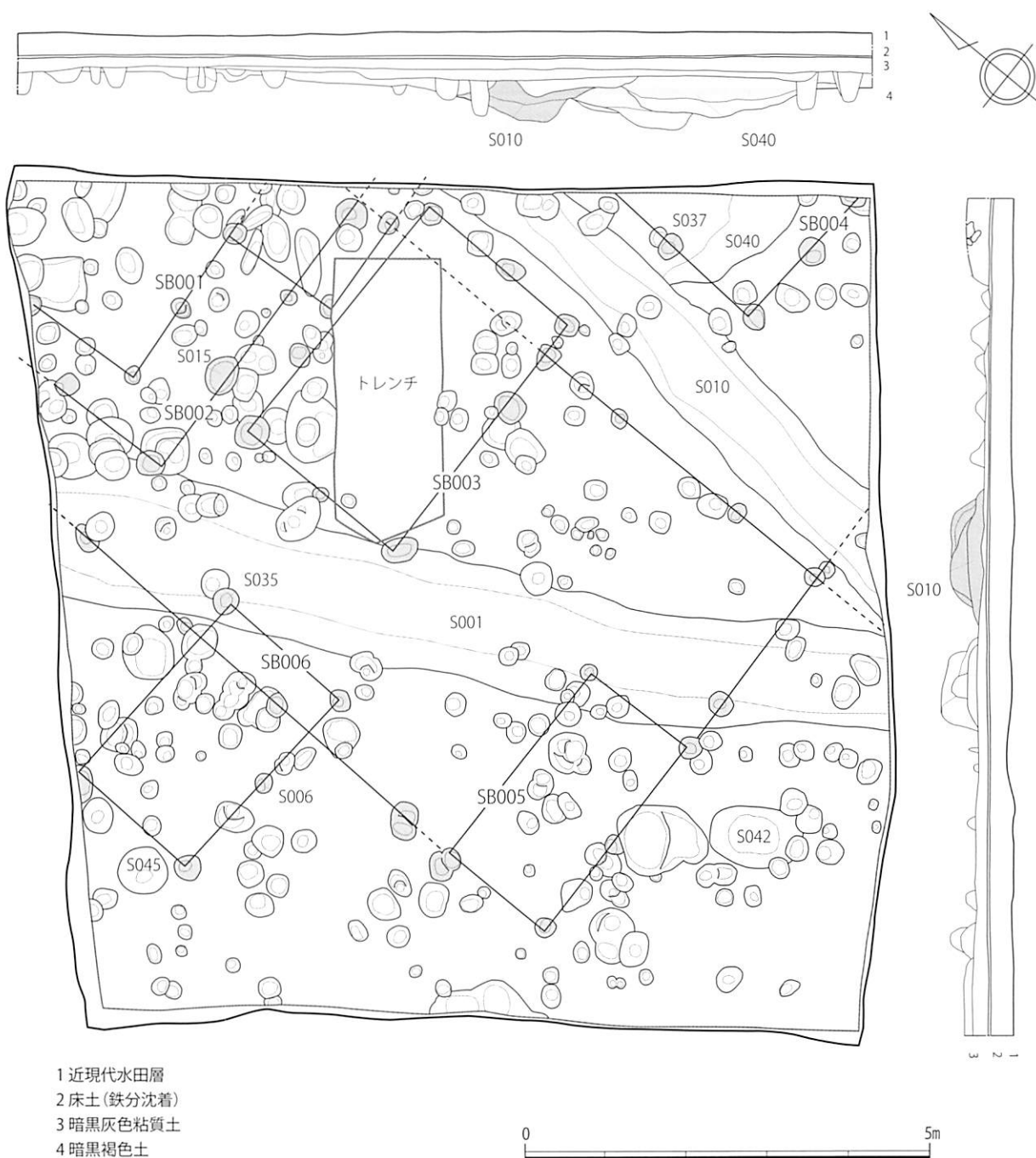
(池邊千太郎・三嶋桂司)



第 34 図 調査地点位置図



第 35 図 完掘状況 (南より)



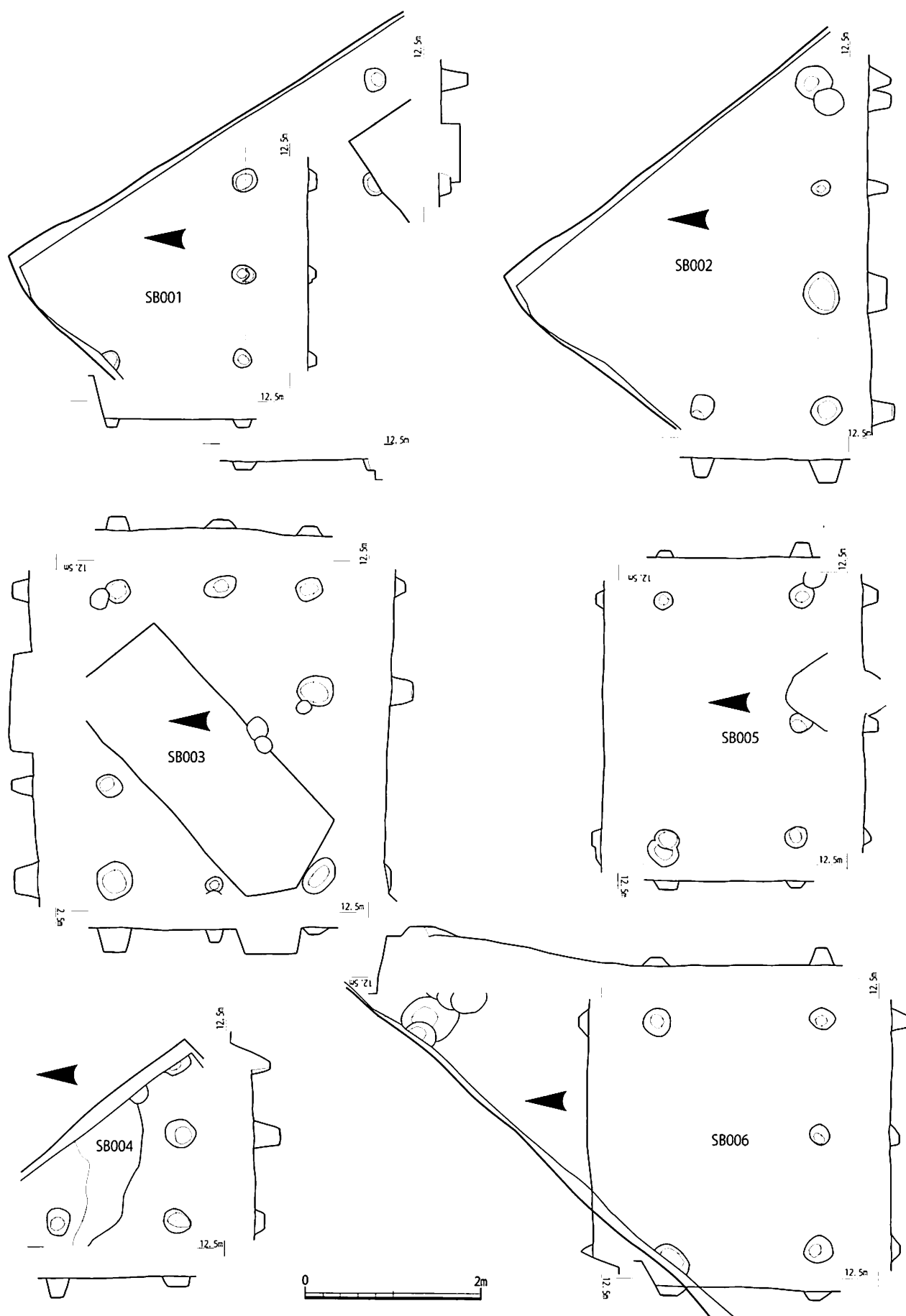
第36図 遺構配置図(1/80)



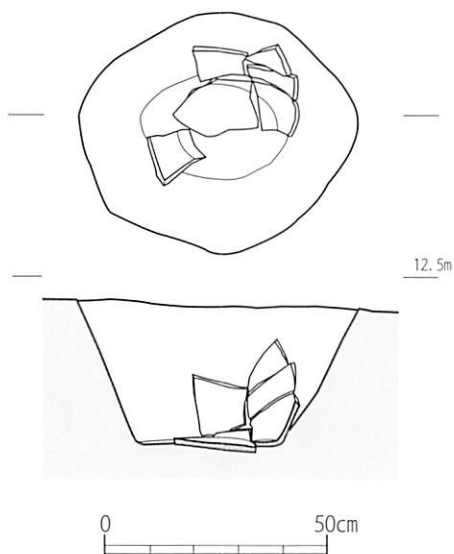
第37図 S001 完掘状況(南東より)



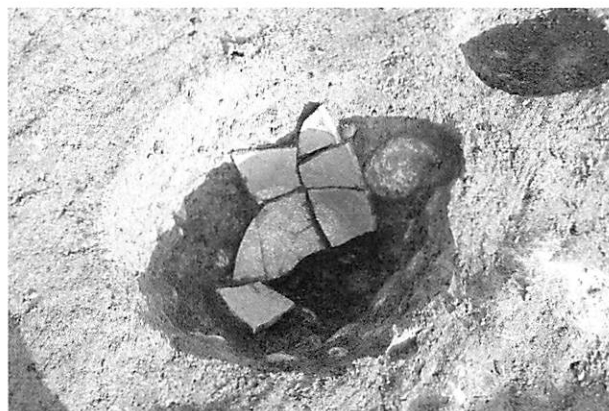
第38図 S040 土層断面状況(南西より)



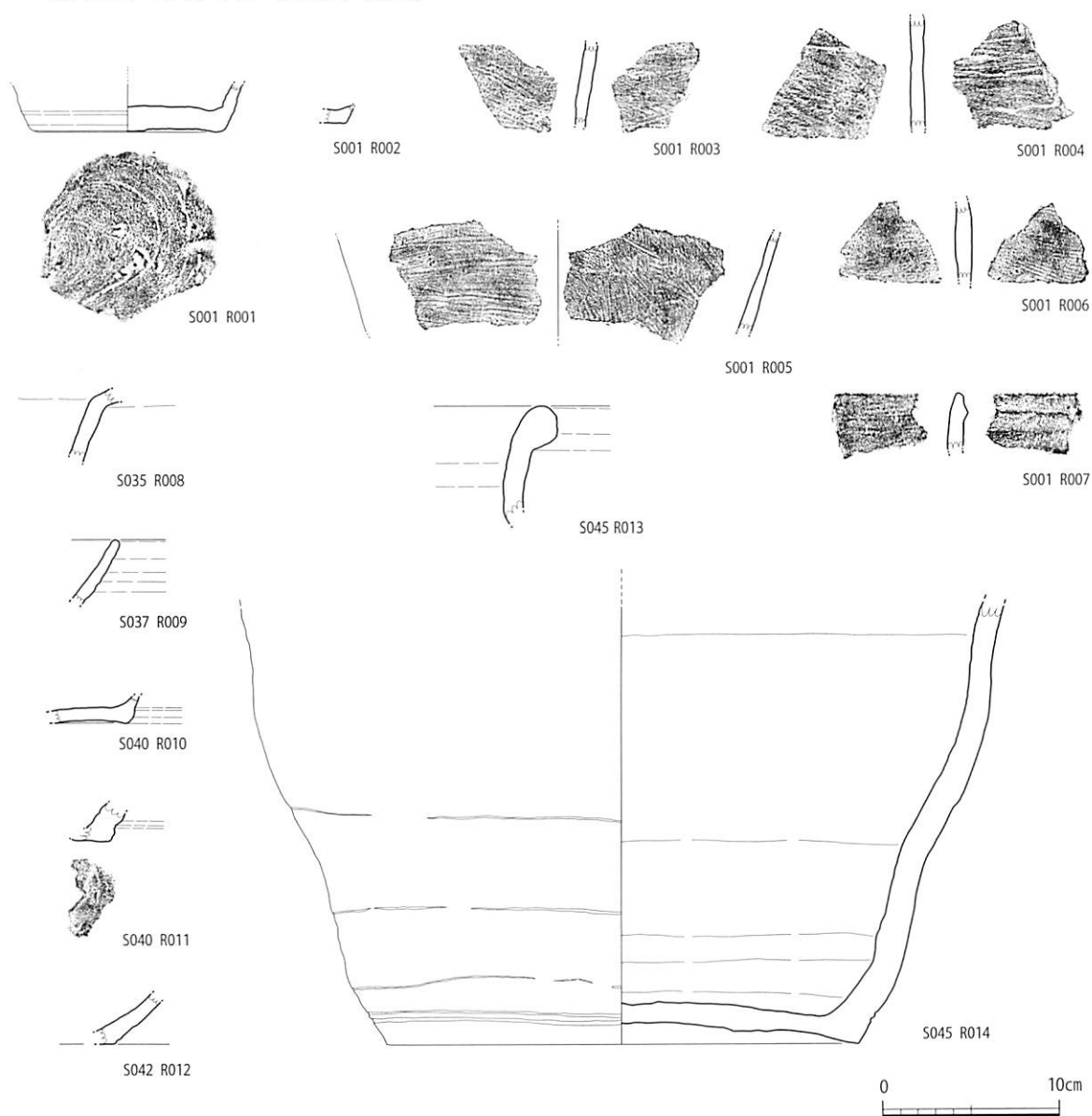
第 39 図 掘立柱建物跡平面・見通し図 (1/60)



第 40 図 S045 平面・断面図 (1/20)



第 41 図 S045 遺物出土状況



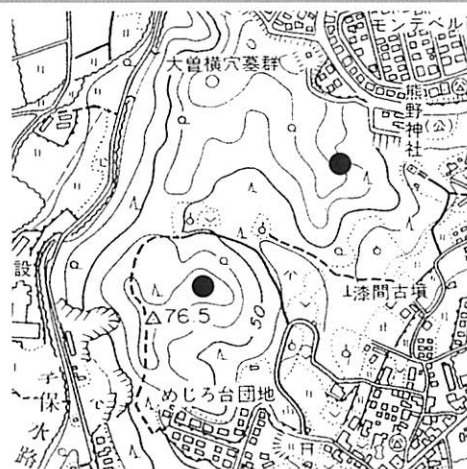
第 42 図 出土遺物実測図 (1/4)

XI 木上石切り場跡確認調査・測量調査

調査面積 1400㎡	調査期間 06.04.26~06.05.02 (確調)	07.05.23~07.06.25 (測量)
地域 B	調査担当 塩地潤一 佐藤道文 中西武尚 佐藤孝則	

本確認調査は、宅地造成工事が計画された開発事業地内の古墳や横穴墓群などの記録作成のための発掘調査をはじめめるにあたり、開発事業地内に「ウーヒトの足跡」と言い伝えられる石切り場の取り扱いを判断するために、この一帯に広がる凝灰岩の露頭と碎石層の分布、そして採石の時期決定を目的として、確認調査を実施した。

調査の結果、「ウーヒトの足跡」と虎御前古墳の周辺、そしてその間の細尾根の両側にかけて凝灰岩の露頭が広がり、露頭の裾部に8か所の採掘坑とそれに隣接して碎石層を確認した。採掘坑には、ノミの痕跡が明瞭に残り、方形に掘り出された石割（採石）の跡も認められる。碎石層は、採掘坑内から露頭の対面に広がり、採掘坑に隣接してマウンド状に厚く堆積していることから、石割で生じた碎石を採掘坑から掘り出した様子が復元できる。



第43図 調査地点位置図

遺物は碎石層から、割り石をはじめ、円柱状に加工された凝灰岩製品が出土しているものの、その帰属年代は断定し難く、石割の時期を決定することはできなかった。また、碎石層は厚く、3m以上堆積していることから、石切り場全域を対象とした発掘調査は断念した。

この石切り場から採掘された石は、西側に隣接する大きな谷から搬出されたものと判断される。（塩地潤一）



第44図 S-3 採石状況1



第45図 S-3 採石状況2



第46図 S-1 ウーヒトの足跡 採石状況



第47図 S-2 採石状況



第 48 図 石切場跡確認調査・測量調査位置図



第1期確認調査地

砕石分布範囲

0 50m

X=21172.219
Y=52963.559

測量調査

昨年度に引き続き、大分市大字木ノ上の標高約 70 ～ 75 m を測る丘陵において、大規模宅地造成の計画が俎上にあがった。前回の踏査の結果、象徴的な巨大石柱を中心とした大規模な石切場の存在が明らかとなった。当丘陵の基盤は凝灰岩で形成されており、良質の凝灰岩が採取されたと考えられる。時期についての詳細は不明であるが、近世以降の可能性が高いと推定される。18 世紀以降では享保井路や嘉永井路等の水田灌漑施設の再開発が行われており、こうした事業に関連するものの可能性も想定できようか。

地域の歴史を知る上でも貴重な資料と考えられ、その地点の地形測量をし、記録保存を図ることとした。

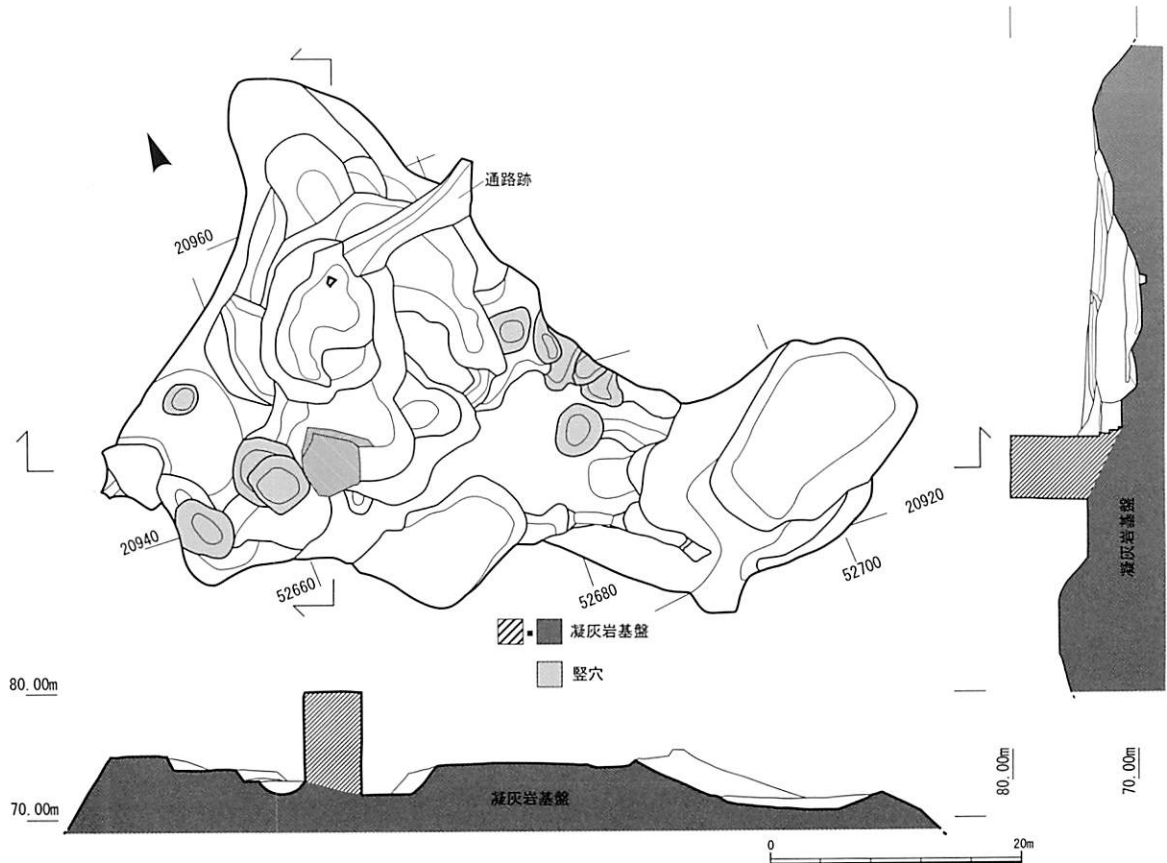
測量の結果、巨大石柱の頂部の標高が約 80 m を測り、現況の丘陵頂部付近の標高が約 70 ～ 75 m であることから、多量の凝灰岩が採取されたことが想像に難くない。巨大石柱の北東部分には、幅約 2 ～ 3 m の切り通し風の通路跡が確認され、その通路から石柱に向かって大きく採掘がなされている。一時期の採掘経路が想定される。また、巨大石柱の南東側には段状になった平坦面が形成されており、ここにも一時期の採掘経路、あるいは作業場の存在が想定される。この他、周辺に直径約 3 ～ 5 m 程度の竖穴が確認でき、部分的な採掘がなされたものと考えられる。(中西武尚)



第 49 図 石柱近景（北東から）



第 50 図 石柱近景（東から）



第 51 図 石切場跡測量図 (1/600)

XII 横尾遺跡群第126・127・128次調査

調査面積 1020㎡ 2610㎡ 570㎡ 調査期間 07.07.23～07.10.09
地域 E 調査担当 河野 永松 山本 中西 若松

調査地は、横尾土地区画整理事業地内の南西部分にあたり、道路工事部分を中心に上記の期間に3地点の調査を実施した。

調査の結果、弥生時代～近代にかけての遺構・遺物を検出した。以下、調査次ごとにその概要を記す。

第126次調査

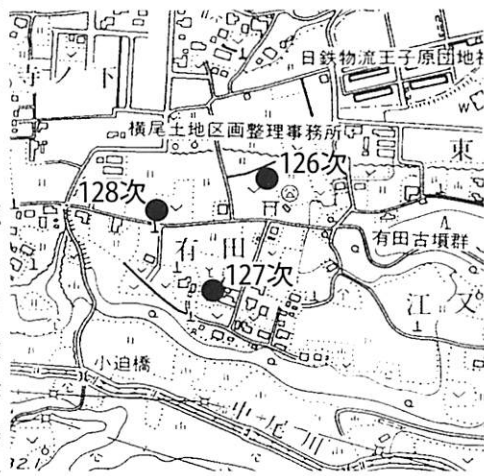
水田造成以前の遺構と耕作痕からなる畠跡と思われる遺構を確認した。水田造成以前の遺構は、1区に多く、井戸跡や溝状遺構が見られる。出土する遺物は近世の陶磁器や瓦質土器が多く占めるが、中国産青花と考えられる破片が見られることから、中世（戦国期）遺構の存在が考えられる。2区では、南北方向、東西方向に延びる耕作痕を検出し、畠跡と考えられる。遺物出土は僅少で、居住域が近接していないことが窺える。また、東西方向の溝状遺構を境に耕作痕の方位が変化することから、何らかの字境等の性格と考えられる。出土遺物には、弥生土器片が認められ、当該期の遺構が存在していたものと思われるが、畠造成段階に削平を受けた可能性がある。

第127次調査

調査地は、従来の調査所見から古代の建物群が集中して確認された地点に位置し、関連する遺構群の展開が予想された。結果、第118次調査と第125次調査で確認されている掘立柱建物跡群の延長と考えられる建物跡を10棟検出した。ほとんどが東西建物跡で、建物方位から4時期の変遷が考えられる。時期は古代から中世の範疇に捉えられる。この他、9世紀代に比定される土坑や建物方位と軸を同じにする柱穴群列・溝状遺構なども検出しており、横尾遺跡において当該時期の中心的な地区の1つであったと考えられる。

第128次調査

近世と中世の遺構を確認した。近世の遺構では、2区で2条の溝状遺構が検出され、南から弧を描き東へ延びる北西角部分にあたる。数回の掘り返しが認められ、遺構の床面付近に鉄分の沈着、酸化が見られる事から、滞水の痕跡と考えられ、区画溝の性格と想起される。1区では、東西に延びる溝状遺構を検出し、中世に比定できる瓦質土器片が出土している。溝状遺構は床面が平坦になって滞水等の痕跡もみられない。溝埋土からは古代の土器や須恵器片が多く出土し、当該期の遺構の存在が窺われる。（中西武尚・永松正大）



第52図 調査地点位置図



第53図 第127次調査区（上が北）



第54図 第127次調査建物群（西より）

XIII 横尾遺跡群第129・130・131次調査

調査面積 3250㎡ 210㎡ 500㎡

調査期間 07. 11. 05～08. 02. 25

地域 E

調査担当 中西 佐藤(孝) 若松 五十川

調査地は、横尾土地区画整理事業地内の南西部分にあたり、台地の東側に開析した2つの谷の先端付近に位置する。調査区は周辺工事等との兼ね合いで3地点に調査区を設定し、調査を実施した。調査の結果、弥生時代～近代にかけての遺構・遺物を検出した。以下、調査次ごとにその概要を記す。

第129次調査

第129次調査区は、調査の都合から129-1～3の3地点に分けて調査を実施している。調査区は16世紀の方形館跡と考えられる区画溝を確認した第79・81・83・112次調査地の南側に位置する。129-1・3次調査では調査区東側において、戦国期と考えられる南北方向の溝状遺構を二条確認している。溝状遺構は、新旧関係をもって検出され、古い段階のものは、東側にL字状に曲がり調査区外に展開する。新しい段階のものについても、L字状に曲がる付近で終息しており、この区画の北西域を示しているものと考えられる。このことから、北側の各調査次で確認された方形館跡とは別の方形館跡が展開していた可能性が考えられる。この他、溝状遺構に近接して、1×2間の南北棟建物(掘立柱建物跡)と同じく1×2間の東西棟建物(掘立柱建物跡)が検出され、東西棟のすぐ北側には東西方向の柱穴列が検出されており、区画溝周辺に造られた入口的な施設の可能性が考えられる。また、南北棟建物については、溝状遺構を覆うように検出しており、さらにその内部の溝状遺構からはいくつかの土坑状のプランを検出しており、トイレ施設の可能性が指摘できる。

第130次調査

調査地は、第129-1次調査区の西側、乙津川に向けて開口する開析谷の内1つの先端部付近に位置する。調査の結果、不定形の土坑群を確認した。土坑群は溝状に何度も掘られており、時間をおかずに埋められているような状態であった。灰白色粘土層まで掘り込まれていることなどから、これまでの周辺調査で確認されているような粘土採掘に伴う遺構の可能性が考えられる。出土遺物は埋め土内から完形に近いものが出土し、出土した遺物から弥生時代後期後葉～末頃に比定される。

第131次調査

調査地は、古代～中世の建物跡群が確認されている地区の北東部付近に位置する。

調査の結果、溝状遺構・土坑・不定形遺構等を検出した。調査区南端で検出した不定形遺構からは、古代に比定される多量の土師器が出土しており、以前の調査から確認されている建物群を主体とした地区がこの付近まで展開する可能性が指摘できる。(中西武尚)



第55図 調査地点位置図



第56図 第130次調査区(南より)

XIV 横尾遺跡群第132次調査

調査面積840m²

地域 E

調査期間 07. 12. 17～08. 02. 18

調査担当 長直信 五十川慎也

調査地は、大野川の分流・乙津川の左岸に沿って南北方向に広がる鶴崎台地の標高 30～31 m の中位段丘面上に立地し、乙津川に向けて開口する開析谷の南側緩斜面に位置する。古代に比定される道路状遺構や 16 世紀末の方形館跡にともなう溝を検出した横尾遺跡第 65 次、79 次、81 次、83 次調査地に隣接する。現在、谷頭部分は埋没しているが、遺跡の立地上調査区は北東側へ向ってゆるやかに傾斜を持つ。今回の調査の主要遺構のほぼ全てが調査区内で完結しないものであり、今後周辺の正式報告を行った上で、改めて総括すべきであることはいうまでもないが、調査で判明した事項と今後の課題についてまとめる。近世段階は、横尾遺跡全体で確認されている低位段丘面を区画する直線的な溝の一部を検出。溝は谷の方向へ向かって延びていく。18 世紀末頃に掘り返しが確認でき、掘り返した溝の南肩は拳大の礫により護岸されていた。中世段階は、調査地が 16 世紀末の方形館内部に当たるが、建物等の居館内部施設は確認できなかった。なお、中世後期に埋没した溝 132SD010 には流水状況は確認できず、区画的な機能をもって居館形成期に存在した可能性がある。また、これまでの調査の所見を総合すれば居館内部の西側半部は建物遺構が展開しないいわば「空閑地」として位置づけられる可能性が高まる。古代の段階は、周辺調査で確認されているピット列の延長部(132SX020)を確認した。ピットは群をなしており、複数にわたる補修や改変が行われている可能性があるため規格性の把握



第 57 図 調査地点位置図

が困難であるが、調査地点南側で西へ延びるラインと南へ延びるラインの 2 方向の存在が推定された。また、遺構は確認できなかったが、後世の遺構中より小田編年Ⅲ b 期頃に該当する須恵器が出土している。横尾遺跡のこれまでの調査・報告事例では 6 世紀から 8 世紀は遺構が欠落する時期といわれており、希少な出土例といえる。(長直信)



第 58 図 ピット列検出状況 (西より)

XV 野間 8 号墳

調査面積 6m²

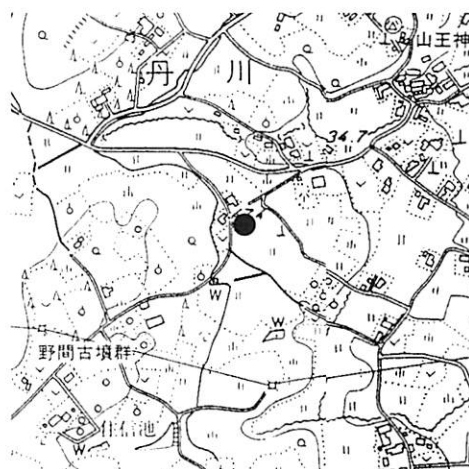
調査期間 07. 04. 25～07. 5. 25

地域 G

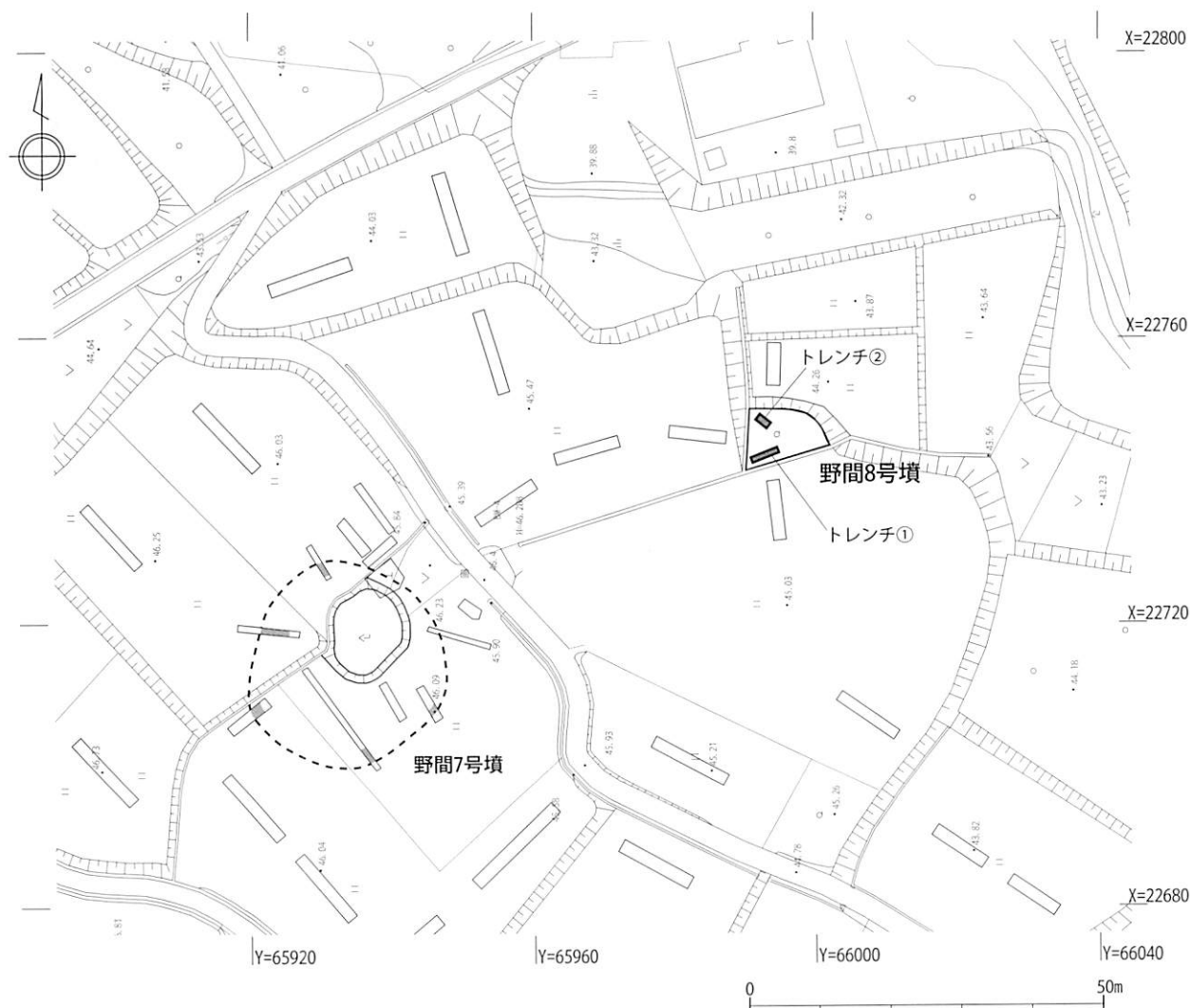
調査担当 永松正大 山本哲也

調査地は、丹生川左岸に広がる丹生台地、丹川丘陵上に点在する野間古墳群の1つであり、昭和23年に行なわれた小池原・野間 緊急発掘調査の野間古墳8号墳にあたる。8号墳は7号墳の東方50mに位置する。現状で8号墳は大きく削平されていることが想定される。

平成16年度から実施している県経営体育成基盤整備事業に伴い、調査地に里道敷設の計画が大分県振興局から提示され、大分市耕地林業課と大分市教育委員会文化財課の三者による協議を行い、遺跡確認調査を実施することとした。調査地は、現況北東側が大きく段造成により削平しており、また南～西側についても削平を受けている。調査地に試掘トレンチを2箇所（トレンチ1・2）設定した。調査にあたり、地権者との協議により、地下茎や木根に影響を与えないよう、また調査による廃土についても現状復旧できるよう調査を行うため、広



第 59 図 調査地点位置図



第 60 図 試掘トレンチ配置図 (1/1000)



第 61 図 野間 8 号墳近景 (西から)



第 62 図 試掘トレンチ① (西から)

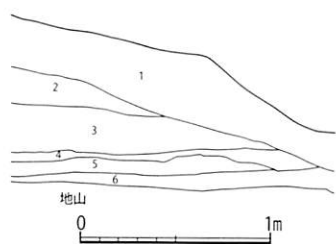


第 63 図 試掘トレンチ② (北西から)



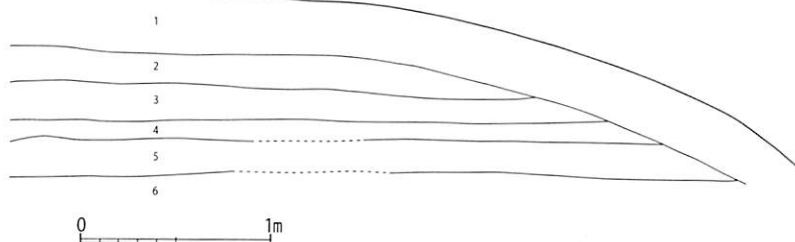
第 64 図 試掘トレンチ② 南西土層

トレンチ②南西壁



- 1 淡茶褐色土 表土 礫混じり
- 2 茶褐色粘質土 しまりがある
- 3 茶褐色粘質土 やや明るい しまりがある
- 4 茶褐色粘質土と黒褐色粘質土の混土層 (6:4) しまっている
- 5 黒褐色粘質土と茶褐色粘質土の混土層
- 6 茶褐色粘質土と黒褐色粘質土の混土層 (9:1) しまっている
- 7 地山 茶黄褐色粘質土

トレンチ①南壁



第 65 図 試掘トレンチ土層図 (1/40)

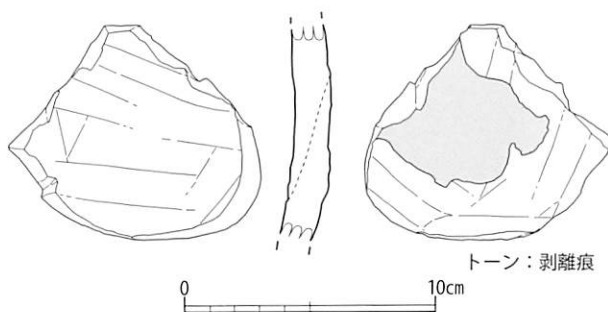
範囲の調査は実施せず、小規模な調査を行うこととした。同地点の調査では、平成 18 年度に西側に位置する野間古墳群 7 号墳とともに試掘調査を実施しており、本調査地の西側と南側に計 3 本の試掘トレンチを設定したが、周溝等を確認しておらず、今回の調査は墳丘部の確認を目的とした。試掘箇所は、小規模の伐採を行い、トレンチ 1 は頂部付近に 0.8 × 5m、トレンチ 2 は斜面地に 1 × 2m の試掘坑を設け、掘削については人力による表土からの掘削を実施した。トレンチ 2 は地山まで掘削したが、トレンチ 1 は木根が著しく生育しており、地山までの掘削には至らなかった。

調査の結果、トレンチ 2 では顕著な盛土構造が見られ、また同様な堆積がトレンチ 1 の頂部付近の試掘坑でも確認できた。トレンチ 2 の土層観察から、約 7 層に分層でき、第 1 層である表層は淡茶褐色土が覆う。第 2 ～ 7 層は墳丘を構築する盛土と考えられ、ほぼ水平に堆積している。土質はややしまりがあり、第 6 層を除きほぼ色調も近似する。また、葺石等は検出できておらず、また、流出した資料も見られなかった。トレンチ 2 からは、第 6 層から埴輪片 1 点を確認しており、円筒埴輪の体部と思われる。内面、外面ともにナデ調整を施す。胎土内に結晶片岩と石英を混入する。以上の調査結果から、調査地は古墳と判断した。また、頂部には 1.2 × 2+ α m の竪掘坑があり、現況石板等は見られないが、主体部であった可能性がある。

今回の試掘調査の結果を受け、県中部振興局と市耕地林業課と協議を行い、当調査地については工法変更により全面保存を行うこととした。(永松正大)



第 66 図 試掘トレンチ②南西壁遺物出土状況



第 67 図 試掘トレンチ出土円筒埴輪片 (1/3)

XVI 丹生遺跡群（第12地点）

調査面積 382m²

地域 G

調査期間 07.07.01～08.01.31

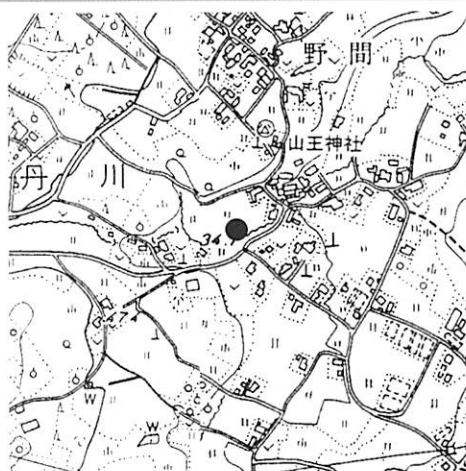
調査担当 永松正大 山本哲也

調査地は、大分市大字野間字宮友にあたり、北東方向に延びる丘陵の斜面部分に位置する。第12地点南西約150m先の丘陵上には野間古墳群が位置している。

現況は水田で、水田を含め概ね6層に分層できる。第2層（茶褐色粘質土）は近代以降の造成土である。第2層下の第3層（包含層、暗灰茶褐色土）、第4層（包含層、茶灰褐色粘質土）・第5層（包含層、灰黒褐色粘質土）・第6層（包含層、暗茶褐色粘質土）は古代、中世遺物を多く含む包含層である。これらの包含層は調査区中央の緩斜部分から低地を範囲に確認している。遺構面は、調査区北側では第2層下、緩斜部分から低地は第5層下で確認している。遺構は古代を中心とし、ピット・土坑のほか、緩斜部分と低地の境付近を中心に4基の集石遺構を検出している。掘立柱建物は1棟検出している。梁行1間、桁行3間+αの規模で、建物東側は調査区外に延びる。中世所産の土師質土器片が出土している。

包含層は中世を主体とする第2・4・5層、古代を主体とする第3層（SX003）に分かれる。土層観察から、これらの包含層は北方向から堆積し形成されたと考えられる。第3層では多種多様な古代土器が多く出土した。そのうち、全形を窺うことができる移動式竈は当時の生活を考えるうえで重要な資料である。土師器坏・蓋、須恵器の特徴から、第3層はおおむね9世紀前半～中頃を主体とするものと考えられる。集石遺構は緩斜部分と低地の境を中心に営まれている。古代の所産と考えられる。集石の立地状況から、小規模な護岸施設もしくはなんらかの祭祀が行われた跡であろうか。

本調査地はの古代遺構は集落域の一部分にあたるものと考えられる。第12地点は周辺の遺跡と時期的に符合しており、古代集落の様相を考えるうえで注目できる。（山本哲也）



第68図 調査地点位置図



第69図 第12地点全景空中写真



第70図 SX003 遺物出土状況

XVII 丹生川・坂ノ市条里跡（第11地点）

調査面積 290㎡
地域 G

調査期間 07.07.01～08.01.31
調査担当 永松正大 山本哲也

調査地は、大分市大字延命寺字光蓮寺に所在する。遺跡は丹生川上流域の沖積地にあり、丹生川左岸の低位段丘上にあたる。

発掘調査の結果、調査区を縦断する近現代の攪乱溝や攪乱坑がみられたが、中世と考えられるピット、掘立柱建物2棟、土坑を検出している。調査区中央よりやや南は遺構の希薄部分がみられるが、ほぼ全面に遺構が展開している。

掘立柱建物は2棟確認でき、東西方向に長軸をもつ。いずれの建物も遺物の出土はみられなかったが、その埋土から中世に位置付けられるものと考えられる。SB001は、梁行1間、桁行2間の小規模な建物で、SB002は建物の東側は調査区外に及ぶが、梁行は1間、桁行は3間の規模を有するものと考えられる。

出土遺物は少量であるが、おおむね中世を主体とするものである。出土遺物から、時期については、和泉型瓦器小皿、白磁碗、土師質土器土鍋の12世紀後半～末頃を上限とし、下限は瓦質土器から14～15世紀代と考えられる

本調査地では延命寺、光蓮寺の寺地名が残ることから、寺院関連遺構の発見が期待された。しかし今回の調査では、遺構・遺物とも少なく、寺院的な性格として考えることは困難である。遺跡の性格については、広義の中世集落跡として考えられ、対岸に位置する第9地点では、12～13世紀代の集落跡が確認されているが、第11地点周辺もこの時期の集落の広がりが示唆される。ただ第9・11地点を比較すると、第11地点は遺構密度、遺物量とも低調であるといえる。この違いを、階層差によるものかは明らかにしえないが、集落域が点々と散在した可能性が考えられる。

今回の調査により、丹生川上流域の中世集落の一様相を考えるうえで貴重な手掛かりを得ることができた。
(山本哲也)



第71図 調査地点位置図



第72図 第11地点全景



第73図 遺構完掘状況

XVIII 丹生川・坂ノ市条里跡（第13地点）

調査面積 1007㎡

調査期間 07. 07. 01～08. 01. 31

地域 G

調査担当 永松正大 山本哲也

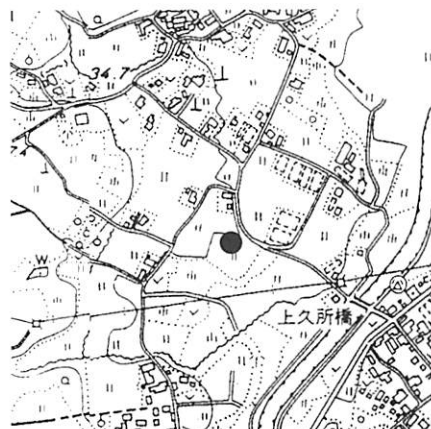
調査地は、大分市大字丹川字原にあたり、丹生川左岸、北東方向に伸びる標高約 30m の台地の先端部に位置している。台地東側と丹生川の間には沖積地が広がり、台地と沖積地の比高差は約 10m である。

第 13 地点の遺構は、柱穴のほか、掘立柱建物 7 棟（SB001～007）、柵跡 7 列（SA001～007）、溝状遺構 1 条（SD010）、土坑 6 基を検出している。これらの遺構は中世を主体とするものである。

掘立柱建物はおおむね梁行 2 間、桁行 4 間規模を主体とし、SB007 をのぞく他の建物は東西に長軸をもつ。柵跡はすべて南北に長軸をもつ。SD010 付近に位置する SA001～003・007 と、調査区南東に位置する SA004～006 のまとまりがみられる。SD010、建物との関連が注目される。溝跡（SD010）は調査区北側に位置し、調査区をほぼ直線的に横断する溝である。溝は、長さ 47 + α m、幅 2～8m、深さ 0.1～0.5m、断面逆台形の規模である。溝の北側では幅 8m の窪み部分がみられ、これを境として東西に分断している。溝は土層観察から複数段階の埋没過程が看取されるが、遺物の出土状況から大きな時期幅はないものと考えられる。「堀ノ内」の字名を北側に持つことや東西に分断する溝の性格から、入り口を有する屋敷などの区画性をもった溝と考えられる。遺物は古代土器の流れ込みがみられるが、14 世紀前半～中頃には埋まったものと考えられる。

土坑（SK005）は SD010 の北側にあたり、不整形を呈する土坑である。土師質土器がまとまって出土し、器形・法量から SD010 とほぼ同時期とみられる。遺物の出土状況から廃棄土坑であろう。

以上から本調査地の遺跡は 14 世紀代を中心に展開したとみられる。北側の字堀ノ内が示すように、第 13 地点は屋敷地に関連する遺構群の可能性が高いものである。遺跡東側の沖積地には 14～15 世紀代の第 6 地点が位置している。中世後半期の丹生川上流域における沖積地と台地の土地利用の検討が今後の課題であるといえる。（山本哲也）



第 74 図 調査地点位置図



第 75 図 第 13 地点全景空中写真



第 76 図 溝（SD010）および柵列

XIX 城原・里遺跡第11次調査

調査面積 250m²

調査期間 07. 11. 26～07. 12. 07

地域 G

調査担当 佐藤道文 奥村義貴

城原・里遺跡第11次は、昨年度実施した10次調査区の北約100m離れた地点にあり、7世紀末～8世紀後半の掘立柱建物群や道路状遺構などが確認された2・3次調査区（旧中安遺跡）の北西約100mの位置にあたる。今回の調査は、倉の確認及び古代の遺構の範囲を把握する目的で実施している。

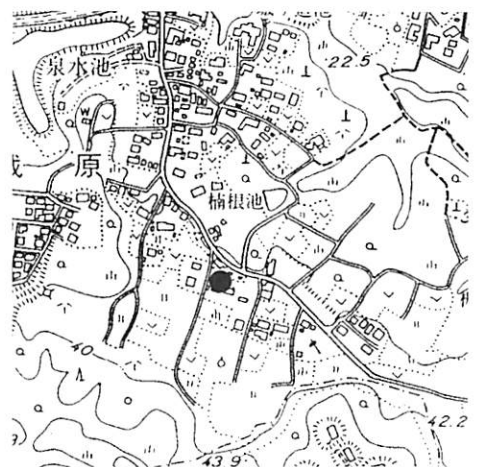
11次調査地は、私有地であったため、発掘調査の承諾をとり、得られた後草刈作業を行った。その後、調査区を設定し、掘削委託業務に要する測量と事前記録を作成した。

調査は、平成19年11月26日から機械掘削を開始し、平成19年12月7日に道具までの撤収を含め終了した。

今回の調査では、竪穴住居跡2基、竪穴遺構1基、柱穴列、溝状遺構、ピット群が発見されている。SH001は、4.8m×4.0mの規模を

有し、平面方形を呈す住居跡である。残存状況は悪く、検出段階でほぼ床面が表出していた。炉跡部分は焼土が堆積し、また床面が非常に硬く焼き締まった状態であった。柱穴は4本で構成されるが、小規模で浅いことから再検討を要する。出土遺物には土師器甕の他、小田編年IB期に該当すると思われる須恵器高坏の蓋がある。よって、SH001の時期もそこに置かれる。SH005は調査区の北東部で確認される。検出面から床面までの深さは0.2mあり、SH001に比べ良好である。床面には屋内土坑があり、底面直上において土師器甕、坏が出土した。その時期であるが、SH005とSH001は東側ラインを揃えるように配置されており、状況から同時期の住居跡と考えられる。柱穴列は4間分見つかっているが遺物が無いため時期は不明である。

11次調査において、7世紀～8世紀代の遺構・遺物は確認されなかった。しかし、SH001・005などの古墳時代の住居跡が、2・3次～本調査区まで展開していることは、遺跡が存在する台地頂部は官衙的遺構が形成される以前も、重要な拠点地域であったと考えられる。（佐藤道文）



第77図 調査地点位置図



第78図 調査区全景



第79図 SH005 遺物出土状況

付篇1 大分市池の平出土の土師器壺

掲載した土器は、平成 19 年 11 月 8 日に大分市池の平 1459 において畑耕作中に発見されたものである。共伴遺物はなく単独での出土である。

出土地は、南北に延びる鶴崎台地の先端付近の中央部分で、北方向に開析する小谷の西側斜面地にあたる。標高は約 40 m であり、周知の埋蔵文化財包蔵地とはなっていない。周辺には小池原貝塚の所在が知られているが、現在では近隣の宅地化が進み詳細な場所はわからない。西側の台地部は大規模団地の造成によりすでに旧地形は大きく改変されている。東側台地の高位の平坦地には、弥生時代の集落遺跡として著名な米竹遺跡や古代官衙関連遺跡と推定される地蔵原遺跡が存在する。

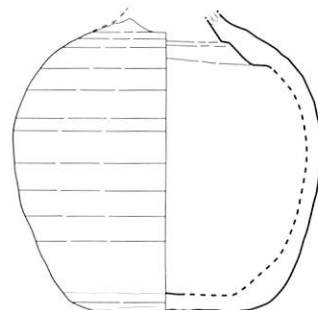
発見者からの聞き取りによると、出土状況に関しては、暗茶黒色の耕作土をおよそ 40cm 掘り下げた地点で壺を確認し、頸はすでに欠損しており、内部には土が詰まっていたという。遺物が持ち込まれた際にも壺内部には土が充満しており、にわかには土器と判断し難い状況であった。

出土遺物は土師質の壺形土器であり体部は完存するものの、肩部上位が欠損する。径 7.1 cm を測る底部は平底を呈する。外器面の調整は回転ナデであり、底面には回転ヘラ切り離しの後にナデによる調整が認められる。また、底部の周囲には手持によるヘラケズリが行われている。色調は外面が暗茶褐色～淡黒色、内面が暗茶色を呈し、胎土中には角閃石を内包する。

この壺の帰属年代については、胎土や焼成、調整などの状況から 9 世紀前後に比定される在地の土器に酷似するが、これまでの大分市内の発掘調査等では類似の資料は確認されていない。(坪根伸也)



第 80 図 発見地点位置図



第 82 図 出土遺物実測図 (1/4)



第 81 図 土器出土地 (中央の畑地)



第 83 図 出土遺物 (土師器壺)



第 84 図 出土遺物底部

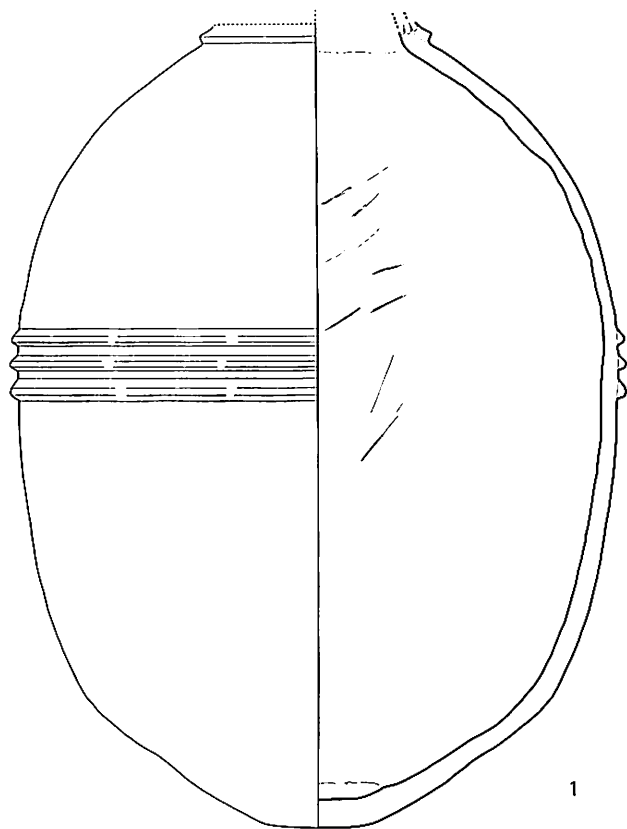
付篇2 大分市西寒多神社所蔵の土器群

本稿で報告する弥生土器、古式土師器は、西寒多神社に所蔵されている資料である。採集資料であるが、発見された年代、出土位置等については口碑も残されておらず、不明である。本資料が収蔵されていた西寒多神社宝物庫は一度火災による消失の憂き目にあっており、土器片にも火災に伴う二次的なススの付着が多く認められたが、にもかかわらず資料の残存状況は良好である。帰属年代はおおよそ弥生時代中期後葉から古墳時代前期に比定される。周辺には弥生時代から古墳時代の集落が複数所在しているため、これらの遺跡のいずれかから出土したものであろう。今後、接合可能資料の出土等によって、帰属が判明する可能性がある。

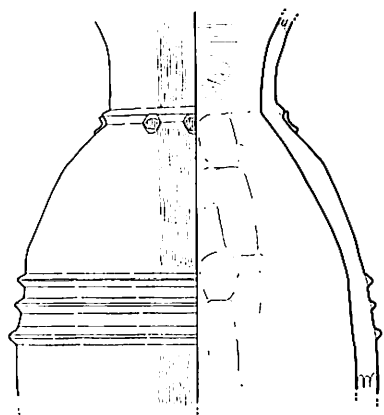


第 85 図 西寒多神社位置図 (1/25000)

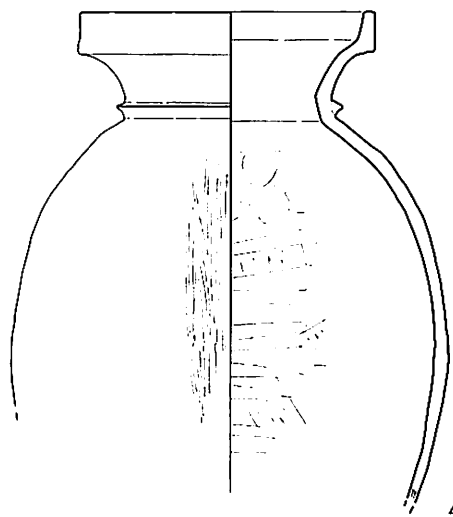
1 は、倒卵形の胴部を有する壺形土器である。外面は暗褐色、内面は赤褐色または黄褐色を呈する。頸部から上が欠損するが、複合口縁壺と考えられる。残存器高 42.5cm、胴部最大径 32.4cm、底径 4.0cm を計る。内外面ともに、丁寧なナデが施される。頸部に突帯を一条、胴部中央部に断面三角形の突帯が三条巡らせる。小さな平底で、比較的安定する。頸部突帯直上で割れ面が水平に存在し、偶然の欠損とは想定しがたい。2 はやや長頸の壺形土器である。口縁部が欠損する。色調は、内外面ともに黄褐色を呈す。残存器高 45.4cm、胴部最大径 29.8cm、底径 4.0cm である。頸部に突帯が一条巡らされ、工具による刻目が施されている。外面底部付近にはタタキ成形の痕跡が残るが、外面全面はタテハケ、内面全面にはヨコハケが観察される。3 は 1 と類似する器形の壺形土器である。外面は淡黄灰色、内面は淡黄褐色を呈す。胴部上半部と頸部下半部のみが残存する。残存器高 19.3cm、胴部最大径 19.0cm を計る。外面調整はタテハケを主とし、内面調整は、頸部にヨコハケ、胴部にユビオサエが施される。頸部突帯には浮文が二つずつ、5箇所施される。4 は受け口状の複合口縁壺である。色調は、内外面とも暗茶褐色～淡黒色を呈す。胴部下半部が欠損し、口径 15.5cm、残存器高 25.0cm、胴部最大径 23.0cm を計る。胴部内面にはヘラケズリ後、ヨコ方向のヘラ磨きが施され、胴部外面にはナデの後、縦方向のヘラ磨きが施される。口頸部には、内外面ともヨコナデが施される。5 は、ほぼ完形の直口壺である。外面は茶褐色～赤褐色、内面は黄褐色～赤褐色を呈す。器高 31.0cm、口径 14.2cm、胴部最大径 24.6cm を計る。胴部外面は下半部が調整不明であるが、上半部がタタキ成形される。胴部内面にはヨコハケが施される。また、器形は丸底である。6 は、小さな把手を有する器種不明土器である。大型器種ではないようで、たとえば鉢形土器の可能性が挙げられる。胎土は比較的精良である。色調は、外面がやや暗い灰褐色、内面が灰褐色を呈する。把手部で最大径を計るが、径 30.0cm、残存器高 7.0cm である。内外面とも丁寧にナデが施され、把手部裏面にはヨコハケが施される。図面では把手を上にした状態で図示したが、上下が反転する可能性がある。7 は、下城式土器甕の底部である。色調は内外面とも、暗い淡黄灰褐色を呈する。法量は、底径 6.0cm、残存器高 6.6cm を計る。外面にタテハケ、内面にナデが施される。8 は、壺形土器の頸部周辺の破片である。外面はやや暗い淡灰褐色、内面は淡暗褐色を呈する。頸部に断面三角形の突帯が一条巡らされる。胴部外面にはタテハケが施され、内面は全体にナデられる。頸部径 12.8cm、残存器高 7.2cm を計る。9 は長頸壺形土器の胴部から頸部までの資料である。外面は黒褐色、内面は暗茶褐色を呈す。胴部中央に焼成前穿孔が施される。外面全体に単位の細かいタテハケが施され、ナデ消されている。また、胴部内面には横方向の工具ナデが施される。底部はほとんど欠損しているが、安定した平底となるようである。10 は 9 と同じ器形の長頸壺形土器である。外面は黒褐色～茶褐色、内面は黒褐色～暗褐色を呈す。胴部最大径 21.4cm、頸部径 8.4-8.6cm、残存器高 22.4cm を計る。外面全体に単位の細かいタテハケ



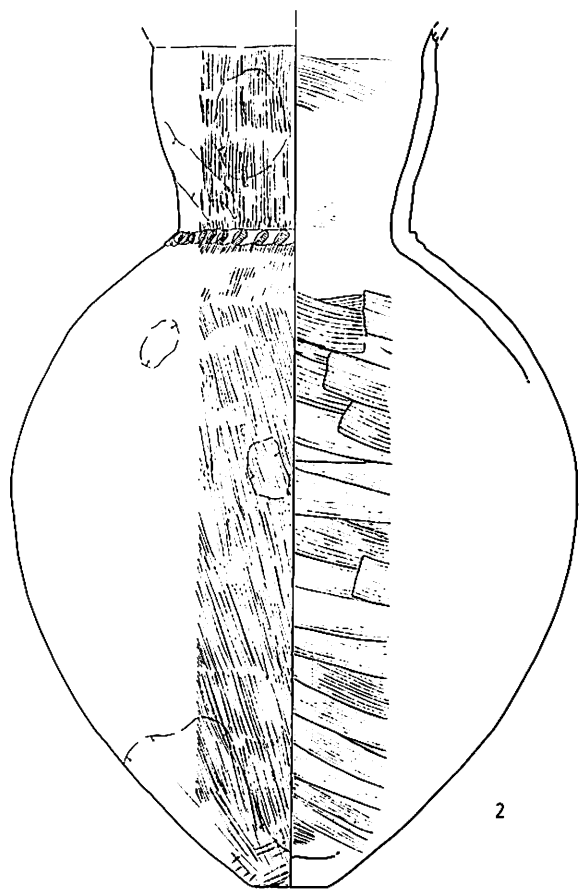
1



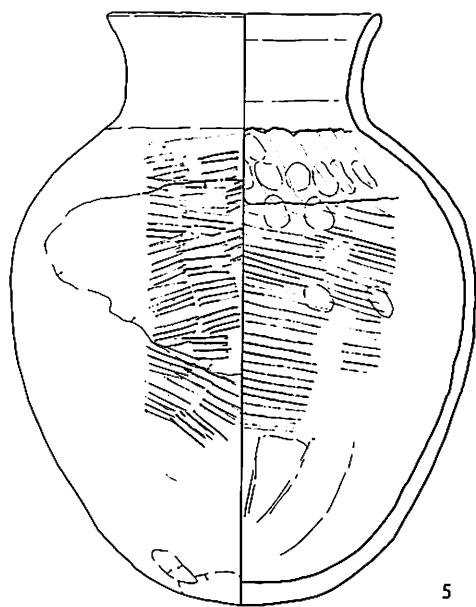
3



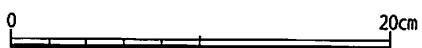
4



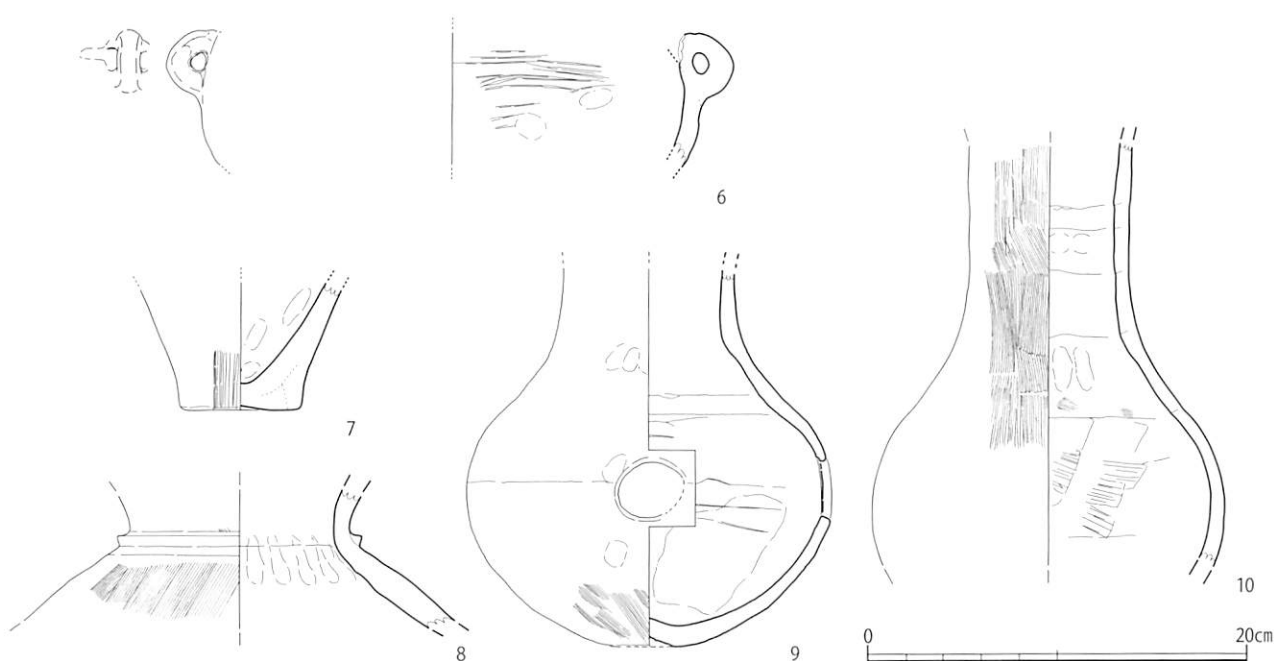
2



5



第 86 図 土器実測図 1 (1/4)



第 87 図 土器実測図 2 (1/4)

が施されている。胴部内面には横方向の工具ナデが施され、頸部内面には指オサエ痕が観察される。

上記の資料の帰属年代については、1~3 が弥生時代後期後葉、4 が古墳時代前期前葉、5 が古墳時代前期、6 が中期末から後期初頭頃、7 が弥生時代中期後葉から中期末、8 が弥生時代後期後葉、9、10 が中期末から後期初頭頃に位置づけられようか。ただし、本資料は大分平野の中期から後期の弥生土器の様相を念頭に置くと、イレギュラーな器形が多く、特に 2、6、9、10 については類例がほとんどない。このため、帰属年代については、今後の類例の増加によって前後する可能性がある。

当資料については、西寒田神社関係者諸氏のご好意によって大分市教育委員会文化財課が借り受け、今回、図示、報告が可能となった。末筆ではありますが、ご協力いただいた関係者の皆様には、心より感謝を申し上げます。

(古川匠)

付篇3 大分市碓山出土の弥生土器

1. 出土地点と出土状況 (第88図)

当該地は、碓山の西部に位置し、「碓山山頂遺跡」として周知されている。平成19年2月21日に、山側斜面の工事現場に土器の細片が露出している状況が地元市民により大分市教育委員会に通報がなされた。このため大分市教育委員会では、急遽埋蔵文化財立会調査を行うこととなった。現地で協議後、遺物出土状況を撮影し、取り上げを行なった。土器は山の谷部に堆積する礫を多く含む層の中に点在していた(第89図・第91図)。それぞれ出土した地点には明確な掘り込みプランは認められないことから、地崩れ等の作用により礫とともに周辺から流れ込んだものと考えられる。(佐藤道文)



第88図 位置図

2. 出土遺物について (第92図)

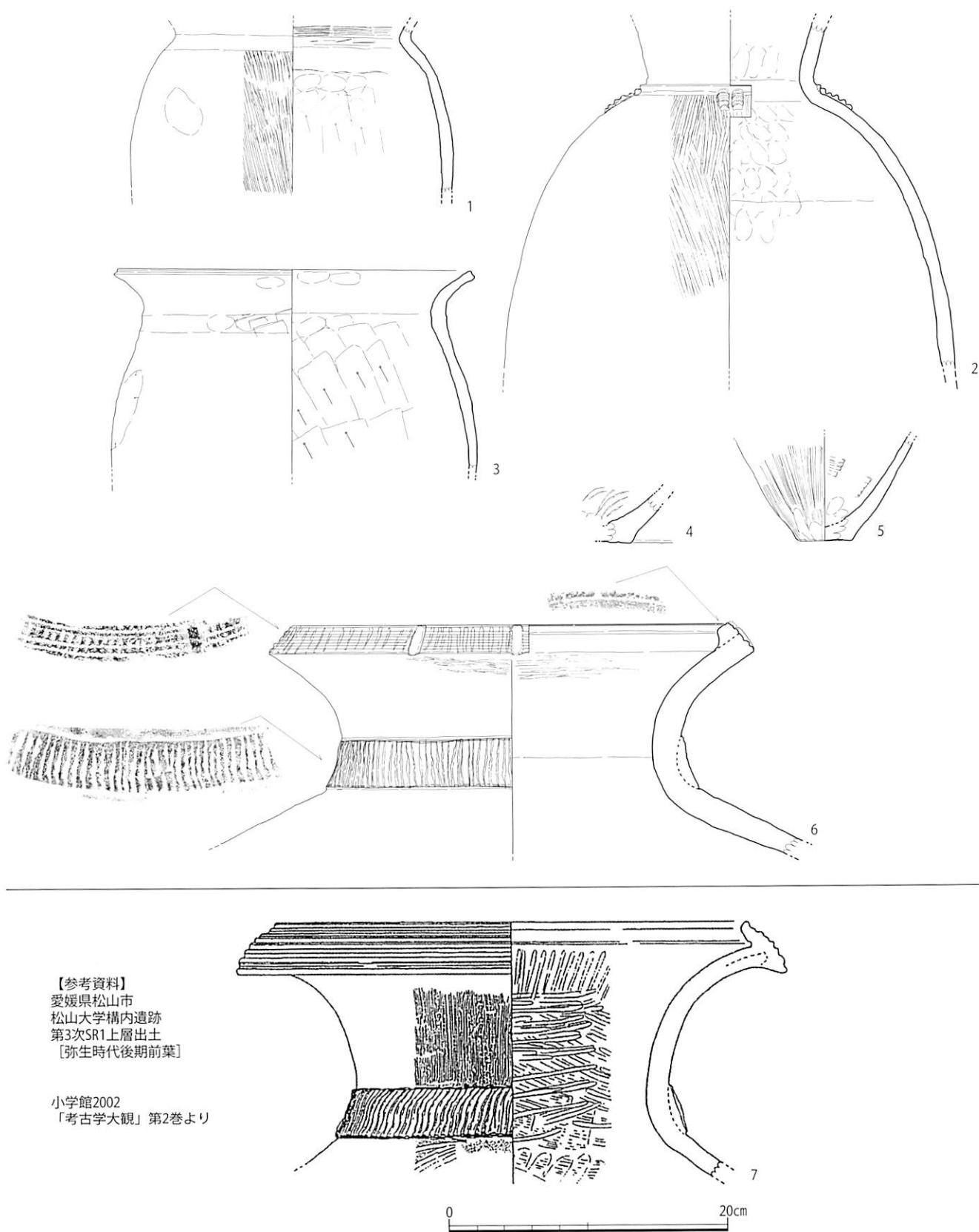
立会調査にて発見された遺物はすべて弥生時代後期の土器である。遺物の出土状況から、一括性は期待できないが、全体の組成としては2の安国寺式の壺のみ、やや時期的に下るものの、おおそ後期前葉の時期の所産である。

1は、甕。復元胴部最大径22.8cmを測る。色調は内外面淡橙白色。胎土はやや粗く、白色・赤色砂粒を0.5mmほど、金雲母・角閃石を少量含む。体部のみ1/7残存。内面頸部下段には接合痕跡が残り、以下には単位不明瞭の粗い削りが施される。外面にはタテハケが施され、体部には楕円形の黒斑がみられる。後期前葉～中葉か。2は、安国寺式の壺。色調は外面橙白色～淡黄白色、内面暗黄白色。やや密な胎土で、0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。外面は単位の粗いタテハケで平滑に仕上げられる。頸部下半には粘土組痕をナデ消したような指オサエ痕が明瞭に残る。体部上半部のみ完存する。頸部には突帯が巡り、肩部に2つ一組の縦長浮文が四方に貼付される。底部・口縁部を欠くため時期の絞りこみが困難であるが後期後半か。3は、甕。復元口径24.4cmを測る。色調は外面黄白色、内面淡白色。胎土はやや粗く0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。外面調整は摩滅のためかほとんど確認できないが、頸部にハケの入り痕が観察できるので、タテハケ調整か。外面には円形の黒斑が確認できる。口縁端部を肥厚させ、端部には沈線状の窪みをつくる。内面は下から上方向への粗い削りを施す。1/5が残る。4は、壺×甕の底部片。色調は外面淡黄白色。内面淡灰黒色。胎土は密で、0.5mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。底部のみ1/3程度が残る。5は、壺の底部片か。色調は外面暗灰橙色。内面淡黒茶色。胎土はやや粗く0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角

ハケ調整か。外面には円形の黒斑が確認できる。口縁端部を肥厚させ、端部には沈線状の窪みをつくる。内面は下から上方向への粗い削りを施す。1/5が残る。4は、壺×甕の底部片。色調は外面淡黄白色。内面淡灰黒色。胎土は密で、0.5mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角閃石を少量含む。底部のみ1/3程度が残る。5は、壺の底部片か。色調は外面暗灰橙色。内面淡黒茶色。胎土はやや粗く0.5mm～3.0mm程度の白色・黒色・赤色砂粒をやや多く、角



第89図 立会地点位置図



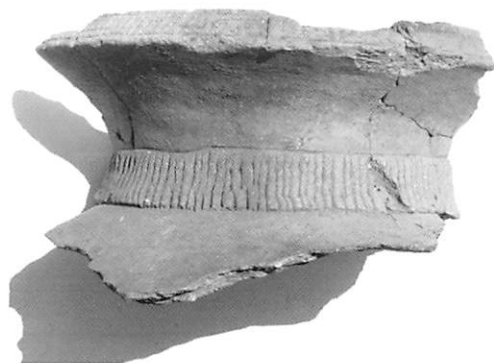
第 90 図 土器実測図 (1/4)

閃石を少量含む。底部はわずかに上げ底となる。内面には斜め方向のハケが、外面には縦方向のハケ調整が施される。6 は、瀬戸内系の大型壺の上半部片（第 92 図）。復元口径 31.0cm で、色調は外面暗橙色～淡黄白色。内面暗茶赤色。胎土は粗く 0.5 mm～ 5.0 mm 程度の白色・赤色砂粒を多く、雲母をごく少量含む。口縁部外面には以下に述べる「擬凹線文」を施し、端部には沈線を入れる。また、頸部の幅広突帯は工具により刻目が施されるが、刻みを刺突した際に付いた工具の痕が突帯下部に部分的に確認できる。体部外面は風化のため調整不明瞭であるが、横方向のミガキがわずかに確認できる。内面は、単位が把握しにくい、平滑な器面を作り出す横方向のミガキが施されていると考えられ、口縁部下部には比較的明瞭に確認できる。口縁部から肩部が 1/3 強残る。当資料のようないわゆる擬凹線文土器の出土は大分平野でも比較的珍しく、比較資料として松山平野で出土した 7 を参考としてあげておく。口縁端部の接合方法に違いがあるが、全体のプロポーシオンや頸部の幅広刻目突帯など類似する属性をもつ。幅広刻目突帯は後期前葉の豊後在地土器には見ることが出来ず、西部瀬戸内地域的な要素といえる。口縁端部外面には棒状工具により 4 条の沈線を巡らし（第 93 図）、「凹線文土器」を模していることから瀬戸内系土器の影響下にある。ただし、口縁端部には豊後の後期土器でみられる縦長の浮文（伊予地方では円形が多い）をもつことから一部には在地的要素が残る土器ともいえる。大分平野では、後期前葉を中心に「擬凹線文土器」が点的に出土することが知られており、西部瀬戸内地域との交流を考える上で重要な資料といえる。

（長直信）



第 91 図 瀬戸内壺出土状況（詳細）



第 92 図 瀬戸内系壺（第 90 図 6）



第 93 図 瀬戸内系壺口縁部

第5章

受贈図書目録

北海道	帯広市教育委員会		
	吉田 巖 資料集-20 帯広叢書 第54巻		2005
	吉田 巖 資料集-22 帯広叢書 第56巻		2006
	吉田 巖 資料集-23 帯広叢書 第57巻		2007
	財団法人 北海道埋蔵文化財センター		
秋田県	北海道埋蔵文化財センターだより 第18号		2007
	北海道埋蔵文化財センターだより 第19号		2007
	調査年報 20		2008
	国指定史跡 地蔵田遺跡環境整備事業報告書 市民と生徒による手づくり弥生っこ村		2007
宮城県	仙台市教育委員会		
	若林城跡 仙台市文化財調査報告書 第306集		2007
	仙台城跡7 仙台市文化財調査報告書 第309集		2007
	仙台市博物館		
山形県	市史せんだい vol.17		2007
	山形市教育委員会		
	梅野木前1遺跡発掘調査報告書 山形県山形市埋蔵文化財調査報告書 第28集		2007
	山形市埋蔵文化財調査年報 平成17年度		2007
福島県	いわき市教育委員会		
	玉山古墳 平成18年度範囲確認調査概報		2007
	根古屋遺跡・上野遺跡 いわき市埋蔵文化財調査報告 第118冊		2007
	白土城跡 いわき市埋蔵文化財調査報告第125冊		2008
	財団法人いわき市教育文化事業団		
	弘源寺貝塚 いわき市埋蔵文化財調査報告 第122冊		2007
	福島大学行政政策学類考古学研究室		
	市野間稲荷神社古墳1・上条古墳群2 福島大学考古学研究报告 第2集		2007
	郡山市教育委員会		
	市道高倉大善寺線道路改築事業関連 「田中遺跡」 第2次調査報告		2007
栃木県	宮ノ脇遺跡 第6次発掘調査報告		2007
	郡山市埋蔵文化財分布調査報告14		2007
	足利市教育委員会		
	平成17年度文化財保護年報 足利市埋蔵文化財調査報告書 第55集		2007
群馬県	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団		
	研究紀要25		2007
埼玉県	寄居町遺跡調査会		
	寄居町遺跡調査会報告 第28集	中小前田2遺跡(第3次・第6次・第8次)	2006
	寄居町遺跡調査会報告 第29集	赤浜牛無具利遺跡	2006
	寄居町遺跡調査会報告 第30集	金嶽遺跡	2006
	寄居町遺跡調査会報告 第31集	不動寺遺跡	2007
	国立歴史民俗博物館		
千葉県	国立歴史民俗博物館研究報告 第134集		2007
	国立歴史民俗博物館研究報告 第135集		2007
	国立歴史民俗博物館研究報告 第136集		2007
	財団法人山武郡市文化財センター		
	年報 No.17 平成12年度		2001
	年報 No.18 平成13年度		2002
	年報 No.22 平成17年度		2007
	小野山田遺跡群IV 一稲荷谷遺跡一 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第75集		2002
	長倉宮ノ前遺跡 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第92集		2007
	長倉鍛冶屋台遺跡 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第93集		2007
	四ツ塚遺跡・中島遺跡 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第94集		2007
	浅川山遺跡 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第95集		2007
	森城跡 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第96集		2007
	出戸遺跡 右京塚遺跡 半蔵遺跡 境遠谷津遺跡 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第97集		2007
	折戸遺跡(203地点) 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第98集		2007
	山田水呑遺跡(1030地点)・山田新田Ⅱ遺跡(1165-1地点) 財団法人山武郡市文化財センター発掘調査報告書 第99集		2007
	国立歴史民俗博物館研究報告 第137集		2007
	国立歴史民俗博物館研究報告 第138集 [共同研究]高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究		2007
	国立歴史民俗博物館年報3(2006年度)		2007
茨城県	筑波大学人文社会科学研究所 先史学・考古学コース		
	筑波大学 先史学・考古学研究 第18号		2007
	石岡市教育委員会		
	シンポジウム資料 国府・国衙・みち-常陸国府の現状と今後- 2000年		2000
神奈川県	常陸国衙跡-石岡小学校温水プール建設事業に伴う調査- 2001年		2001
	市内遺跡調査報告書 第2集		2006
	石岡市片野城跡 NTTドコモ移動無線基地局建設に伴う発掘調査報告書		2006
	柿園池下遺跡 発掘調査報告書		2007
	神奈川県逗子市教育委員会		
東京都	国指定史跡名越切通保存管理計画策定報告書		2001
	国指定史跡名越切通崩落対策工事報告書		2007
	長柄松山 平成18年度国指定史跡長柄松山古墳群の発掘調査		2007
	神奈川県逗子市 埋蔵文化財緊急調査報告書5		2007
	文化庁		
東京都	月刊文化財 平成19年1月		2006
	月刊文化財 平成19年4月		2007
	月刊文化財 平成19年5月		2007
	月刊文化財 平成19年6月		2007
	月刊文化財 平成19年7月		2007
	月刊文化財 平成19年8月		2007
	月刊文化財 平成19年9月		2007

	月刊文化財 平成19年10月	2007
	月刊文化財 平成19年12月	2007
	月刊文化財 平成20年1月	2007
	月刊文化財 平成20年2月	2008
	月刊文化財 平成20年3月	2008
	文化財月報 平成19年5月号	2007
	文化財月報 平成19年6月号	2007
	文化庁月報 平成19年7月号	2007
	文化庁月報 平成19年8月号	2007
	文化庁月報 平成19年10月号	2007
	文化庁月報 平成19年9月号	2007
	文化庁月報 平成19年11月号	2007
	文化庁月報 平成19年12月号	2007
	文化庁月報 平成20年1月号	2008
	文化庁月報 平成20年2月号	2008
	文化庁月報 平成20年3月号	2008
学校法人上智大学・加藤建設株式会社	東京都千代田区 尾張藩麹町邸跡Ⅲ 上智大新6号館(仮称)建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	2006
	新井欣弥	
	匠明	2004
愛知学院大学文学部歴史学科		
	上県2号窯跡第1次発掘調査概要報告書 愛知学院大学考古学発掘調査報告 4	2007
府中市教育委員会・府中市遺跡調査会		
	武蔵国府の調査33 昭和50～60年度府中市内発掘調査概報	2006
	武蔵国府の調査34 平成13年度府中市内発掘調査概報	2006
昭和女子大学国際文化研究所		
	国際文化研究紀要 Vol.11 2006	2007
㈱ジャパン通信センター		
	文化財発掘出土情報 2007.1	2006
	文化財発掘出土情報 2007.2	2007
	文化財発掘出土情報 2007.3	2007
	文化財発掘出土情報 2007.4	2007
	文化財発掘出土情報 2007.5	2007
	文化財発掘出土情報 2007.6	2007
	文化財発掘出土情報 2007.7	2007
	文化財発掘出土情報 2007.8	2007
	文化財発掘出土情報 2007.10	2007
	文化財発掘出土情報 2007.11	2007
	文化財発掘出土情報 2007.12	2007
株式会社 武蔵文化財研究所		
	武蔵国府関連遺跡調査報告 (仮称)府中市府中町2丁目計画地区のマンション建設に伴う埋蔵文化財調査報告	2007
㈱同成社		
	重要文化財 西都原古墳群出土 埴輪・子持家・船 東京国立博物館所蔵 重要考古学術調査報告書	2005
東京都埋蔵文化財センター		
	研究論集XⅢ	2007
	たまのよこやま70	2007
株式会社 吉川弘文館		
	信長のおもてなし 中世食べもの百科	2007
財団法人 日本城郭協会		
	日本100名城公式ガイドブック	2007
至文堂		
	日本の美術 第498号 縄文土器 後期	2007
世田谷区立郷土資料館		
	1945-54 写真で見る戦後復興期の世田谷 平成19年度特別展	2007
	旧彦根藩世田谷館願書留二	2008
国分寺市遺跡調査会		
	花沢西遺跡発掘調査概報Ⅰ 野村不動産株式会社共同住宅建設に伴う調査	2007
社団法人 日本ユネスコ協会連盟		
	「ユネスコ世界遺産年報2008(no. 13)」の贈呈について	2007
富山県	射水市教育委員会	
	赤田Ⅰ遺跡発掘調査概要(2) 個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査	2006
	本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(3) 個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査	2007
	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所	
	とやま発掘だより 平成18年度 発掘調査速報	2007
砺波市教育委員会		
	久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ 平成17年度 一般国道359号砺波東バイパス建設工事に先立つ埋蔵文化財調査報告書	2007
石川県	小松市教育委員会	
	小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ	2007
	額見町遺跡Ⅱ (B地区及びC地区一部区域の調査)	2007
	千木野遺跡	1997
	小松市埋蔵文化財調査だより No.17	2007
野々市町教育委員会		
	富樫館跡	2007
	三納ニシヨサ遺跡(第1・2・4・6・7次調査) 三納アラムヤ遺跡(第3次調査) 藤平田ナカシギ遺跡(第1～3次調査)	2007
福井県	福井県あわら市教育委員会	
	南福越遺跡 あわら市埋蔵文化財調査報告 第1集	2007
	南越前町教育委員会事務局	
	史跡 柚山城跡Ⅲ 南越前町埋蔵文化財調査報告 第2集	2007
	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	
	『年報20』平成16年度	2006
	福井県埋蔵文化財調査報告 第83集 石山城跡	2005
	福井県埋蔵文化財調査報告 第84集 南伊夜山銅鐸出土地	2005
	福井県埋蔵文化財調査報告 第91集 衣掛山古墳群	2006
	福井県埋蔵文化財調査報告 第92集 芳春寺山中世墓群	2006
	福井県埋蔵文化財調査報告 第94集 東古市縄手遺跡	2007
	福井県埋蔵文化財調査報告 第95集 藤巻館遺跡	2007
	福井県埋蔵文化財調査報告 第96集 大塩向山遺跡・山腰遺跡	2007
	福井県埋蔵文化財調査報告 第97集 栗住波谷口遺跡	2007
	福井県埋蔵文化財調査報告 第98集 岳ノ谷窯遺跡	2007

	福井県埋蔵文化財調査報告 第99集 大日山5号墳	2007
	第22回 福井県発掘調査報告会資料	2007
長野県	株式会社 郷土出版社	
	大分・由布の歴史	2007
	海部・大野・竹田の歴史	2007
山梨県	柿西甲府住宅・甲府市教育委員会・(財)山梨文化財研究所	
	朝気遺跡(第34次)	2006
	甲府市教育委員会	
	甲府市内遺跡Ⅳ	2007
岐阜県	岐阜市教育委員会	
	平成17・18年度岐阜市 市内遺跡発掘調査報告書	2006
	大垣市教育委員会	
	米野遺跡 大垣市埋蔵文化財調査報告書 第17集	2007
	大垣市埋蔵文化財調査概要 平成17年度 大垣市文化財調査報告書 第44集	2007
	関市教育委員会	
	弥勒寺東遺跡 関市文化財調査報告 第21号	1999
	関市埋蔵文化財発掘調査報告書 関市文化財調査報告 第22号	2006
	(財)岐阜市教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所	
	船来山古墳群 (財)岐阜市教育文化振興事業団報告書 第16集	2007
	美濃市教育委員会	
	野田遺跡・丹洞遺跡	2008
	渡来川遺跡	2008
静岡県	袋井市教育委員会	
	袋井市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ	2006
	袋井市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ	2007
	平成17年度 掛之上遺跡 袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 15・16・17	2006
	平成18年度 掛之上遺跡 袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 18・19・20	2008
愛知県	愛知県教育委員会	
	愛知県文化財年報(平成17年度)	2007
	愛知県埋蔵文化財年報(平成18年度)	
	H19年度 弥生時代「ものづくり」体験事業報告書	2008
	愛知学院大学文学部歴史学科	
	愛知県田原市宮西遺跡の発掘記録 愛知学院大学考古学発掘調査報告 3	2007
	名古屋大学文学部研究科考古学研究室	
	名古屋大学文学部研究論集 考古学抜刷 第22集	2007
	豊田市教育委員会	
	秋葉遺跡・酒吞ジュリナ遺跡 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第28集	2007
	明蓮1〜4号窯跡 豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集	2007
	平成17年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書	2007
	一猿投窯の発見者一本多静雄コレクション	2007
	豊田市教育委員会・岡崎市教育委員会	
	地下に埋もれた縄文の森 矢作川河床埋没林調査報告書	2007
	地下に埋もれた縄文の森(パンフレット) 矢作川河床埋没林の調査	2007
	豊田市郷土資料館	
	豊田市郷土資料館だより No.60	2007
	豊川市教育委員会	
	白鳥前遺跡 豊川用水二期事業西部幹線併設水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
	豊川市内遺跡発掘調査概報Ⅹ 史跡三河国分寺跡整備基本構想策定に伴う発掘調査概報Ⅰ	2008
	南山大学人類学博物館	
	南山大学人類学博物館年報 2006年度	2007
	名古屋市民見晴台考古資料館	
	名古屋市民見晴台考古資料館 年報24 2006(平成18)年度事業報告	2007
	名古屋市民見晴台考古資料館研究紀要 第9号	2007
	名古屋市教育委員会	
	朝日遺跡発掘調査報告書 第3次平田西部雨水幹線築造工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2003
	名古屋城跡山下門跡発掘調査報告書 西区樋ノ口町地内400号配水管布設工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2004
	平成18年度 鳴海城跡発掘調査報告書 藤和不動産株式会社マンション建築工事にかかる埋蔵文化財発掘調査	2006
	中丸町遺跡発掘調査報告書 スーパーマーケット建設にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
	平手町遺跡発掘調査報告書	2006
	埋蔵文化財調査報告書 55 名古屋市文化財調査報告 70	2007
	埋蔵文化財調査報告書 56 名古屋市文化財調査報告 71	2007
	高蔵遺跡第54次発掘調査報告書	2007
	瑞穂遺跡第9次発掘調査報告書	2007
	H-115号窯発掘調査報告	2007
	国史跡 白鳥塚古墳 第1次〜第3次範囲確認調査 概要報告書	2007
	大久手池周辺古墳群 平成18年度「歴史の里(仮称)」計画地内埋蔵文化財範囲確認調査報告	2007
	平手町遺跡 西部医療センター中央病院(仮称)整備事業用地における第3次発掘調査報告書	2007
	堅三蔵通遺跡発掘調査報告書 マンション建設工事にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
三重県	津市埋蔵文化財センター	
	まいぶん津	2006
	今徳城跡第1次発掘調査報告 津市埋蔵文化財調査報告書 4	2007
	中山下経塚発掘調査報告書 津市埋蔵文化財調査報告書 5	2007
	多気北畠氏遺跡発掘調査報告 津市埋蔵文化財調査報告書 6	2007
	山の脇遺跡発掘調査報告 津市埋蔵文化財調査報告書 7	2007
	まいぶん津 第2号 津市埋蔵文化財センター情報	2007
	三重県埋蔵文化財センター	
	みえ 第41号 三重県埋蔵文化財センター通信	2007
	上樵ノ木古墳群・谷山古墳・正知浦古墳群・正知浦遺跡 三重県埋蔵文化財調査報告書 100-1	1992
	小津遺跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 115-22	2007
	舞出北遺跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 115-23	2007
	三石代遺跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 279	2007
	山添遺跡(第4次)発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 280	2007
	替田遺跡(第5〜第8次)発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 281	2007
	荒木・西明寺地内遺跡群発掘調査報告一附編 小泉氏館跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 282	2007
	上後瀬遺跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 283	2007
	小牧北遺跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 284	2007
	中新田遺跡(第2次)発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 285	2007
	琵琶垣内遺跡(第3次)発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 286	2007
	岡田向遺跡・本田氏館跡発掘調査報告 三重県埋蔵文化財調査報告書 287	2007

	一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報18	2007
	一般国道42号松坂多気バイパス埋蔵文化財発掘調査概報11	2007
	伊賀の考古資料1 研究概要16-3	2007
	伊賀の考古資料2 研究概要16-4	2007
四日市市教育委員会	久留倍遺跡2 四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書 39	2007
三重県埋蔵文化財センター	研究紀要 第16-1号 中世特集	2007
	三重の古墳発掘大図鑑 第26回 三重県埋蔵文化財展	2007
松坂市教育委員会	2005年度松坂市埋蔵文化財発掘調査報告	2006
志摩町教育委員会	谷古墳群 志摩町文化財調査報告書第27集	2007
	志摩町所在被災史料目録 志摩町文化財調査報告書第29集	2008
滋賀県	大津市教育委員会	
	大津市埋蔵文化財調査年報 平成16(2004)年度	2006
	大津市埋蔵文化財調査年報 平成17(2005)年度	2007
	大津市埋蔵文化財調査年報 平成18年度	2007
	東近江市教育委員会	
	百済寺遺跡発掘調査報告書 東近江市文化財調査報告書 第2集	2007
	東近江市文化財調査報告書 第3集 一市内遺跡の調査一 東近江市文化財調査報告書 第3集	2007
	東近江市遺跡分布地図 東近江市文化財調査報告書 第4集	2007
	東近江市埋蔵文化財調査報告書第5集	2007
	東近江市埋蔵文化財調査報告書第6集	2007
	東近江市埋蔵文化財調査報告書第7集	2007
	愛知川町史編集委員会	
	近江愛知川の歴史 第一巻	2005
	近江愛知川の歴史 第四巻	2007
	滋賀県安土城郭調査研究所	
	特別史跡安土城跡発掘調査報告16 安土山北麓越南面の調査	2007
	特別史跡安土城跡後環境整備事業概要報告書XIV 大手口周辺西側	2007
	特別史跡安土城跡後環境整備事業概要報告書XV 大手口周辺東西石崖南側	2007
	安土城・織田信長関連文書調査報告17 石寺区有文書目録・光善寺文書目録	2007
	滋賀県安土城郭調査研究所年報 2006年度	2007
	研究紀要 第13号	2008
京都府	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
	京都府埋蔵文化財情報 第102号	2007
	京都府埋蔵文化財情報 第103号	2007
	京都府埋蔵文化財情報	2007
	城陽市教育委員会	
	城陽市埋蔵文化財調査報告書 城陽市埋蔵文化財調査報告書 第54集	2007
	同志社大学歴史資料館	
	同志社大学構内遺跡発掘調査報告書(2003・2005年度) 同志社大学歴史資料館調査研究報告 第7集	2007
	同志社大学歴史資料館 館報 第10号	2007
	財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター	
	長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第47集	2007
	長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成18年度	2008
	長岡京跡右京第913次発掘調査報告 長岡京市埋蔵文化財調査報告書 第48集	2008
	(財)今日庵 茶道資料館	
	特別展覧会 四百年忌 千利休展	
	平成二年秋季特別展 遺跡出土の朝鮮王朝陶磁 名碗と考古学	1990
大阪府	貝塚市教育委員会	
	貝塚市遺跡群発掘調査概要 29 貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告書 第71集	2007
	豊中市教育委員会	
	文化財ニュース 豊中 No.34	
	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成18年度(2006年度) 豊中市文化財調査報告書 第59集	2006
	高槻市立文化財調査センター	
	史跡・安満遺跡保存管理計画書	2007
	關鷗山古墳石槨 画像・環境調査報告書(&デジタル版) 高槻市文化財調査報告書 第25冊	2007
	嶋上遺跡群31 高槻市文化財調査概要 34	2007
	史跡・今城塚古墳 平成17年度 第9次規模確認調査	2007
	古代の匠に挑戦! 石棺復元体験への手引き 一竜山石編一	2007
	八尾市教育委員会	
	八尾市内遺跡平成18年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告 55	2007
	八尾市立しおんじやま古墳学習館 講演会記録集1 八尾市文化財紀要 12	2007
	大阪市立大学日本史研究室	
	大阪市帝塚山古墳の測量調査 「市大日本史」 第4号抜刷	2001
	東阪本町合同調査報告 和泉市坂本寺跡出土の軒瓦 「市大日本史」 第5号抜刷	2002
	桜井茶臼山古墳の研究 大阪市立大学考古学研究报告 第2冊	2005
	柏原市教育委員会	
	玉手山7号墳の発掘調査 玉手山2・3号墳の測量調査 「玉手山古墳群の研究Ⅱ一墳丘編一」抜刷	2002
	玉手山7号墳の発掘調査 柏原市文化財概報 2002-II	2003
	大阪大学大学院文学研究科考古学研究室	
	大谷3号窯 一篠窯跡群北部域の調査一	2006
	須恵器生産における古代から中世への変質過程の研究 2003～2006年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書	2007
	大阪大学埋蔵文化財調査委員会	
	待兼山遺跡VI 大阪大学豊中地区・待兼山周辺修景整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2008
	熊取町教育委員会	
	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・X X I 熊取町埋蔵文化財調査報告書 第48集	2007
	財団法人 大阪市文化財協会	
	遠里小野遺跡発掘調査報告 I 杉本町団地建替に伴う発掘調査報告書	2006
	長原遺跡発掘調査報告 X V	2006
	瓜破遺跡発掘調査報告 V 大和川改修事業に伴う発掘調査報告書	2007
	長原遺跡東部地区発掘調査報告 X 2004年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書	2007
	難波大道発掘調査報告 (仮称)阿倍野学園建設工事に伴う発掘調査報告書	2007
	大坂城跡Ⅷ	2007
	長原遺跡東部地区発掘調査報告 IX 2005年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書	2008
	堺市教育委員会	
	平成17年度市内遺跡立会調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第112冊	2007

	大久保遺跡発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第113冊	2007
	太井遺跡発掘調査概要報告 黒山遺跡発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第114冊	2007
	真福寺遺跡発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第115冊	2007
	堺環濠都市遺跡(SK7945)発掘調査概要報告 堺市埋蔵文化財調査概要報告 第116冊	2007
	大阪府教育委員会文化財保護課	
	国重要文化財指定記念 修羅 文化財あれこれブックレット№2	2007
	大阪府教育委員会文化財調査年報11	2007
兵庫県	赤穂市教育委員会	
	赤穂ことば 第二集 赤穂市文化財調査報告書 65	2006
	姫路市教育委員会	
	特別史跡姫路城跡石垣修理工事報告書(8) 喜多門跡土橋石垣・同東方石垣	2007
	特別史跡姫路城跡一学校法人淳心学院整備事業に伴う発掘調査報告書一	2007
	城下町の考古学一地面の下の世界遺産一	2007
	大手前大学史学研究所	
	馬立遺跡発掘調査報告書 大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究報告 第4号	2007
	弥生土器集成と編年 一播磨編一 大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター研究報告 第5号	2007
	近江町教育委員会	
	定納古墳群 近江町文化財調査報告書 第28集	2005
	三木市教育委員会	
	シクノ谷峯構付城跡・高木大塚城跡 三木市文化研究資料 第19集	2007
	芦屋市教育委員会	
	会下山から邪馬台国へ 一高地性集落の謎と激動の弥生社会一 会下山遺跡発掘50周年事業	2006
	会下山から邪馬台国へ 一高地性集落の謎と激動の弥生社会一(記録集) 会下山遺跡発掘50周年事業記録集 歴史フォーラム	2007
	平成12年度国庫補助事業 芦屋市内遺跡発掘調査概要報告書 芦屋市文化財調査報告 第65集	2007
	打出小槌遺跡(第41地点)発掘調査報告書 芦屋市文化財調査報告 第66集	2007
	月若遺跡発掘調査報告書 第83地点 芦屋市文化財調査報告 第68集	2007
	加東市教育委員会	
	文化財年報 ～2005年度～	2007
	尼崎市教育委員会	
	尼崎市内遺跡 発掘調査等 尼崎市文化財調査報告 第36集	2006
	尼崎市埋蔵文化財調査年報 平成8年度(2)・9年度・10年度(1) 尼崎城跡第43・46次調査概要	2007
	遺跡分布地図及び手引き 尼崎市埋蔵文化財	2007
	神戸市教育委員会	
	生田遺跡第4次発掘調査概要 中山手地区再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書	2006
	西郷古酒蔵群／大石東遺跡 発掘調査報告書 一第4次調査一	2007
	平成16年度 神戸市埋蔵文化財年報	2007
	神戸市埋蔵文化財分布図	2007
	ガイドブック 史跡 西求女塚古墳	2007
	NPO法人 妙見山麓遺跡調査会	
	神出IV(CD-R) 神出古窯址群に関連する遺跡群の調査	1988
	栄・木幡遺跡(CD-R) 土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
	神崎市教育委員会	
	八子六本黒木遺跡18区 神崎市埋蔵文化財調査報告書 第4集	2008
奈良県	帝塚山大学考古学研究所	
	帝塚山大学考古学研究所研究報告 IX	2007
	田原本町教育委員会	
	田原本町文化財調査年報15 2005年度	2006
	田原本の墳輪 田原本の遺跡5	2007
	ミュージアムコレクション Vol.1 唐古・鍵考古学ミュージアム	2007
	平成19年度春季企画展「太安万侶のふるさと」 多周辺の遺跡と文化財	2007
	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 飛鳥資料館	
	キトラ古墳壁画四神玄武	2007
	「とき」を撮す 一発掘調査と写真一 平成19年度夏期企画展	
	重要文化財指定記念 奇偉荘蔵 山田寺 秋季特別企画展	2007
	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター	
	動物考古学の手引き	2006
	埋蔵文化財ニュース 126号	2007
	埋蔵文化財ニュース 127号	2007
	埋蔵文化財ニュース 128号	2007
	埋蔵文化財ニュース 129号	2007
	奈良文化財研究所	
	飛鳥の考古学2007	2007
	財団法人 由良大和古代文化研究協会	
	研究紀要 第11集	2007
	研究紀要 第12集	2007
	財団法人桜井市文化財協会	
	平成18年度発掘調査速報展 平成19年度夏季企画展	2007
	桜井市埋蔵文化財 2000年度発掘調査報告書 3	2001
	桜井公園遺跡群 桜井市内埋蔵文化財2002年度発掘調査報告書 4	2007
	天理大学文学部歴史文化学科考古学・民俗学専攻	
	古事 天理大学考古学・民俗学研究室紀要 第11冊	2007
	斑鳩町教育委員会	
	斑鳩町内遺跡発掘調査概報 平成4年度 斑鳩町文化財調査報告 第1集	2007
	斑鳩町内遺跡発掘調査概報 平成13年度 斑鳩町文化財調査報告 第2集	2007
	王寺町教育委員会	
	片岡王寺跡第2次・舟戸・西岡遺跡第4次 一2004年度発掘調査報告書一 王寺町文化財調査報告書 第7集	2007
	静香苑環境施設組合	
	静香苑建設事業に伴う香滝・葉井遺跡発掘調査報告書	2007
	(財)元興寺文化財研究所	
	川上村白屋地区文化財民俗調査報告書	2007
	元興寺文化財研究所創立40周年記念論文集	2007
	ヤマ・サト・マチの民間信仰 一具現化された民衆の心一 元興寺総合蔵庫 2006年度秋季特別展展示図録	2006
	寺院を中心とした中世都市形成に関する基礎的研究 平成15～17年度 科学研究費補助金 若手研究B	2006
	元興寺文化財研究 No.89	2006
	東大寺の版木 (財)大和 cultura 財保存会援助事業による	2007
	東アジアにおける自然の模倣(造り物)に関する研究	2006
	平城京左京三条四坊十二坪 平成18年度発掘調査報告書	2007
	元興寺文化財研究所研究報告2006	2007

桜井市教育委員会	
桜井市平成17年度国庫補助による発掘調査報告書 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第27集	2006
纏向遺跡発掘調査報告書 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第28集	2007
桜井市 国史跡 珠城山古墳 桜井市立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 29集	2007
平成19年度秋季特別展 ヤマト王権はいかにして始まったか ～王権成立の地 纏向～ 桜井市立埋蔵文化財センター展示図録 第32冊	2007
奈良大学文学部文化財学科	
文化財学報 第25集	2007
奈良県立民俗博物館学芸課	
奈良県立民俗博物館研究紀要 第20号	2004
奈良県立民俗博物館研究紀要 第21号	2005
奈良県立民俗博物館研究紀要 第22号	2006
奈良県立橿原考古学研究所	
青陵 第121号	2007
青陵 第122号	2007
青陵 第123号	2007
小原滝遺跡 奈良県文化財調査報告書 第118集	2007
ドント垣内古墳群 奈良県文化財調査報告書 第119集	2007
曲川遺跡Ⅱ 奈良県文化財調査報告書 第120集	2007
横田アンバ遺跡 奈良県文化財調査報告書 第121集	2007
極楽寺ヒビキ遺跡 奈良県文化財調査報告書 第122集	2007
平城京左京条一坊五・十二・十三坪 奈良県文化財調査報告書 第126集	2008
マバカ古墳周辺の調査 奈良県立橿原考古学研究所調査報告書 第99冊	2007
四条シナノ遺跡 奈良県立橿原考古学研究所調査報告書 第100冊	2007
平城京左京四条四坊・四条五坊 奈良県立橿原考古学研究所調査報告書 第101冊	2007
奈良県遺跡調査概報 2006年 第一分冊	2007
奈良県遺跡調査概報 2006年 第二分冊	2007
橿原考古学研究所年報 33(2006)	2007
考古学論攷 第30冊	2007
小宮谷遺跡群 菟田野町埋蔵文化財調査報告 第1集	2005
伴堂古田遺跡 三宅町文化財調査報告書 第1集	2006
和歌山県有田川町教育委員会	
平成18年度 有田川町埋蔵文化財調査年報 和歌山県有田川町文化財調査報告書 第2集	2007
和歌山市教育委員会	
和歌山市内遺跡発掘調査概報 平成17年度	2007
岩出市教育委員会	
岩出市内遺跡発掘調査概報 平成17年度 根来寺遺跡の調査	2006
荒田遺跡発掘調査概報 市道堀口1号線新設改良工事に伴う発掘調査	2007
財団法人和歌山市都市整備公社	
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報 平成17年度	2005
乙益重隆先生古希記念論文集刊行会事務局	
九州上代文化論集 乙益重隆先生古希記念論文集刊行会	1996
島根県 島根県津和野町教育委員会	
津和野町内遺跡発掘調査報告書2 津和野町埋蔵文化財報告書 第2集	2007
御茶屋床上遺跡 津和野町埋蔵文化財報告書 第3集	2007
津和野町遺跡地区	2007
陶晴賢本陣跡 津和野町埋蔵文化財報告書 第5集	2007
津和野町内遺跡発掘調査報告書3	2008
島根県浜田市教育委員会	
浜田市遺跡詳細分布調査 一周布地区Ⅰー 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書	2007
浜田城跡(庭園跡の調査1) 御便殿取得活用に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
安来市教育委員会	
史跡荒島古墳群・仲仙寺古墳群 整備事業報告書	2007
庄登遺跡 安来市埋蔵文化財調査報告書 第40集	2007
土居成遺跡発掘調査報告書	2007
経塚鼻遺跡	2007
丹部落合遺跡は靴調査報告書 伯太町埋蔵文化財調査報告書 第7集	2007
出雲市教育委員会	
河下台場遺跡 河下港港湾改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
築山遺跡Ⅱ 県道今市古志線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
西谷横穴墓群第2支群発掘調査報告書	2007
舊栗コミュニティセンター・幼稚園等複合施設建設事業に伴う 門前遺跡発掘調査報告書	2007
出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 上島古墳出土遺物・日御碕神社境内遺跡・鷲降道	2007
平田市教育委員会	
源代遺跡2 平田市埋蔵文化財調査報告書 第5集	2007
山根垣古墳・西郷庵寺 平田市埋蔵文化財調査報告書 第6集	2007
木舟窯跡群 平田市埋蔵文化財調査報告書 第13集	2007
広瀬町教育委員会	
史跡富田城跡 環境整備事業報告書	2007
経負坂古墳群 一般県道草野・横田線(東比田工区)特別県単事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
史跡富田城跡 環境整備事業報告書Ⅱ	2007
伯太町教育委員会	
シアケ遺跡発掘調査報告書 伯太町埋蔵文化財調査報告書 第4集	2007
益田市教育委員会	
広戸A遺跡調査報告書 益田市四見町埋蔵文化財調査報告書 第50集	2007
平内田遺跡調査報告書 益田市四見町埋蔵文化財調査報告書 第51集	2007
広戸B遺跡調査報告書 益田市四見町埋蔵文化財調査報告書 第52集	2007
下都茂原遺跡 益美2期地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書	2007
酒屋原遺跡 益美地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書	2007
森下遺跡 島根県美濃郡都町埋蔵文化財調査報告書Ⅲ	2007
平田遺跡発掘調査報告書 益田市中吉田平田土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
国土交通省中国地方整備局 島根県教育委員会	
原田遺跡(3) 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書10	2008
家の後Ⅱ遺跡2 北原本郷遺跡2尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書9	2008
『浜寄・地方遺跡』ⅠH・ⅠI・2B・2D・2E各区の調査 一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書4	2008
余小路遺跡・小畑遺跡・一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8	2008
島根県埋蔵文化財調査センター	
山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区(vol.2) 国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ	2008

	年報	2008
	水海のほとり	2008
	石見路の言伝	2008
	史跡山代郷北新造院	2008
	山持遺跡・里方本郷遺跡の調査	2008
	古代出雲の郷	2008
	おろちのいぶき	2008
岡山県	島根県教育委員会	
	史跡山代郷北新造院	2008
	平成18年度詳細分布調査に伴う遺跡範囲確認調査報告書「中祖遺跡範囲確認調査報告書」	2008
	山持遺跡Vol.3 国道341号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V	2008
	東前田遺跡・大谷口遺跡 仲嶺遺跡・金ノ谷遺跡1～3区	
	国道431号道路改築事業(川津バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ	2008
岡山県	岡山県教育委員会	
	中町B遺跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 204	2007
	下町陣屋跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 205	2007
	津島遺跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 206	2007
	鹿田遺跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 207	2007
	百間川兼基遺跡4 百間川沢田遺跡5 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 208	2007
	総社遺跡 金井戸遺跡 北溝手遺跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 209	2007
	鹿田遺跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 210	2007
	塩奈森井先遺跡 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 211	2007
	津島遺跡7 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 212	2007
	岡山県古代吉備文化財センター	
	所報吉備 第42号	2007
	発掘／高島のむかしⅢ 都市計画道路竹田升田線街路内の埋蔵文化財	2007
	倉敷市教育委員会	
	横内北窓跡群1号 下庄遺跡 上東遺跡 倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告 第12集	2007
	岡山市教育委員会	
	岡山市埋蔵文化財センター年報6 平成17(2005)年度	2007
	東岡山遺跡 中世後半から近世に連続する集落遺跡の発掘調査報告	2007
	彦崎貝塚2 範囲確認調査報告書	2007
	神宮寺山古墳 網浜茶臼山古墳	2007
	鹿田遺跡 ドコモ中国東古松ビル新築工事に伴う発掘調査	2007
	南方(済生会)遺跡2 介護老人保健施設たちばな苑建設に伴う発掘調査	2007
	岡山県埋蔵文化財報告 37	2007
広島県	財団法人広島市文化財団	
	広島城遺跡西白島地点 ー広島市中区西白島町所在ー	2007
	三谷遺跡 ー広島市安芸区中野東三丁目・中ノ東町所在ー	2007
	段之原山遺跡 ー広島市安芸区上瀬野町所在ー	2007
	広島城跡太田川河川事務所地点 ー広島市中区八丁堀所在ー	2007
	南部山遺跡発掘調査報告書 ー広島市安佐南区上安所在ー	2007
	研究連絡誌Ⅲ	2007
	(財)広島県教育事業団	
	ひろしまの遺跡 第99号	2007
	ひろしまの遺跡 第100号	2007
	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)	2008
	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(5)	2008
	中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(6)	2008
	近森遺跡 県営経営体育成基盤整備事業 西伊尾地区に係る発掘調査報告書	2008
	広島大学大学院文学研究科	
	帝釈峡遺跡群発掘調査年報ⅩⅩⅠ	2007
福山市	福山市教育委員会	
	広島県史跡 二子塚古墳発掘調査報告書	2007
	福山市内遺跡発掘調査概要Ⅰ	2007
	財団法人 東広島市教育文化振興事業団	
	西本5号遺跡発掘調査報告書	2007
	御土居遺跡発掘調査報告書Ⅱ	2007
	三永水源地震跡群詳細分布調査報告書	2007
	史跡安芸国分寺跡発掘調査報告書Ⅸ	2007
	阿岐のまほろば Vol.35	2007
	阿岐のまほろば Vol.36	2007
北広島町	北広島町教育委員会	
	史跡吉川氏城館跡 吉川元春館跡整備事業報告書	2008
山口県	山口大学埋蔵文化財資料館	
	山口大学埋蔵文化財資料館年報 ー平成16年度ー 山口大学埋蔵文化財資料館年報 2	2007
	てらこや埋文 2006 冬 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第3号	2007
	てらこや埋文 2006 春 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第4号	2007
	てらこや埋文 2006 夏 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第5号	2007
	てらこや埋文 2006 秋 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第6号	2007
	てらこや埋文 2007 冬 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第7号	2007
	てらこや埋文 2007 春 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第8号	2007
	古墳の世界 ー山口県の古墳を探るー 山口大学埋蔵文化財資料館 第21回 企画展図録	2007
	山口大学の遺跡 ー吉田遺跡展ー 山口大学埋蔵文化財資料館 平成18年度 常設展図録	2007
	稲作到来 ー弥生人のつくった とった たべたー 山口大学埋蔵文化財資料館 創立30周年 記念特別展図録	2007
	山口県埋蔵文化財センター	
	田ノ浦遺跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第59集	2007
	下村遺跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第60集	2007
	柳下遺跡・今市遺跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第61集	2007
	真尾猪の山遺跡 山口県埋蔵文化財センター調査報告 第62集	2007
	陶垣 第20号 山口県埋蔵文化財センター年報 ー平成18年度ー	2007
	山口県教育委員会	
	長州藩銭座跡 山口県埋蔵文化財調査報告 第189集	2007
	下関市立考古博物館	
	研究紀要 第11号	2007
	下関市立考古博物館年報12 ー平成18年度ー	2007
	「あやらぎ」17号 下関市立考古博物館だより	2007
	木の文化 ーハレとケの世界ー	2007

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	
『わがまち、サイトへ豊北の遺跡最前線！〜』 平成19年度土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム企画展示図録	2007
山口市教育委員会	
山口市埋蔵文化財年報 6 平成17(2005)年度	2007
善生寺庭園 山口市埋蔵文化財調査報告 第95集	2007
神郷大塚遺跡Ⅳ 山口市埋蔵文化財調査報告 第96集	2007
中込田遺跡Ⅳ 山口市埋蔵文化財調査報告 第97集	2007
陶窯跡群Ⅱ 山口市埋蔵文化財調査報告 第98集	2007
防府市教育委員会	
平成17年度防府市内遺跡発掘調査概要	2008
防府市有形文化財調査報告 松崎地区(2)	2008
防府市有形文化財調査報告 松崎地区(3)	2008
高知県 高知大学文学部考古学研究室	
大元神社古墳発掘調査報告書 高知大学考古学調査研究報告 第4冊	2007
高知市教育委員会	
尾戸窯跡 高知市文化財調査報告書 第30集	2007
(財)高知県文化財埋蔵文化財センター	
比江庵寺跡Ⅲ 高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第97集	2007
加茂ハイタノボ遺跡Ⅱ 高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第98集	2007
高知県埋蔵文化財センター年報 第16号 2006年度	2007
徳島県 徳島市教育委員会	
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要17	2007
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター	
立江馬潤遺跡 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第64集	2007
西洲津遺跡 久米山遺跡群 一諏訪神社御旅所地区一 高松市埋蔵文化財調査報告書 第67集	2007
観音寺遺跡Ⅱ(観音寺遺跡木器編) 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第68集	2007
徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.17 平成17(2005)年度	2007
香川県 高松市教育委員会	
奥の坊遺跡群Ⅴ(奥の坊遺跡Ⅰ・Ⅱ区) 高松市埋蔵文化財調査報告書 第97集	2006
高松城跡(寿町一丁目) 高松市埋蔵文化財調査報告書 第99集	2007
諏訪神社遺跡 久米山遺跡群 一諏訪神社御旅所地区一 高松市埋蔵文化財調査報告書 第100集	2007
高松市内遺跡発掘調査概報 高松市埋蔵文化財調査報告書 第101集	2007
特別史跡讃岐国分寺跡 如意輪時窯跡 国分中西遺跡 鬼子山遺跡 高松市埋蔵文化財調査報告書 第102集	2007
白山神社古墳 高松市埋蔵文化財調査報告書 第103集	2007
高松城跡(寿町二丁目地区) 高松市埋蔵文化財調査報告書 第104集	2007
日暮・松林遺跡 高松市埋蔵文化財調査報告 第105集	2007
平石上2号墳 石舟池古墳群 高松市埋蔵文化財調査報告 第106集	2007
屋島寺 高松市埋蔵文化財調査報告 第107集	2007
奥の坊遺跡群Ⅵ(奥の坊遺跡Ⅴ区) 高松市埋蔵文化財調査報告 第108集	2007
石垣基礎調査報告書 史跡高松城跡整備報告書 第1分冊	2008
石垣基礎調査報告書 史跡高松城跡整備報告書 第2分冊	2008
愛媛県 松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	
松山大学構内遺跡Ⅳ 一第6次調査地一 松山市文化財調査報告書 第115集	2007
鶴が峠遺跡Ⅰ 松山市文化財調査報告書 第116集	2007
大峰ヶ台遺跡 一10次調査一 松山市文化財調査報告書 第119集	2007
(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	
高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡2次 埋蔵文化財発掘調査報告書 第132集	2007
蓼原遺跡Ⅰ・2次 埋蔵文化財発掘調査報告書 第133集	2007
熱田城跡 柿の木西法寺遺跡 長松寺城跡 埋蔵文化財発掘調査報告書 第134集	2007
角ヶ谷城跡2次 埋蔵文化財発掘調査報告書 第135集	2007
郷桜井堀遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書 第136集	2007
郷桜井堀遺跡2次 埋蔵文化財発掘調査報告書 第137集	2007
阿方頭Ⅶ遺跡・阿方頭Ⅷ遺跡・阿方頭Ⅸ遺跡・阿方頭Ⅹ遺跡・阿方頭ⅩⅠ遺跡・阿方頭ⅩⅡ遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書 第138集	2007
別名端谷Ⅰ遺跡・別名端谷Ⅱ遺跡・別名成ルノ谷遺跡・別名寺谷Ⅰ遺跡・別名寺谷Ⅱ遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書 第139集	2007
愛比売(えひめ) 一平成18(2006)年度年報一	2007
紀要愛媛 第7号 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター研究紀要	2007
第4回 四国地区埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ」 遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波	2007
鬼北町教育委員会	
等妙寺旧境内 埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集	2007
今治市教育委員会	
史跡 能島城跡 一平成13・14年度保存整備事業報告書一 今治市埋蔵文化財調査報告書 第81集	2007
史跡 能島城跡 一平成15・16年度岩礁ビット調査報告書一 今治市埋蔵文化財調査報告書 第82集	2007
市内遺跡試掘確認調査報告書ⅩⅢ 今治市埋蔵文化財調査報告書 第83集	2007
市内遺跡試掘確認調査報告書ⅩⅣ 今治市埋蔵文化財調査報告書 第84集	2007
史跡 能島城跡 一平成17年度船だまり調査報告書一 今治市埋蔵文化財調査報告書 第85集	2007
高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡 今治市埋蔵文化財調査報告書 第86集	2007
松山市教育委員会	
史跡久米官衙遺跡群調査報告書2 松山市文化財調査報告書 第114集	2007
東野森ノ木遺跡Ⅰ・2・3・4次調査地、樽味立添遺跡3次調査地、樽味高木遺跡7・8・9・11次調査地、樽味四反地遺跡7・8・9・11次調査、枝松遺跡6次調査地 松山市文化財調査報告書 第117集	2007
南梅本上方遺跡1次・2次調査地、南梅本長広遺跡1次・2次調査地 松山市文化財調査報告書 第118集	2007
中村地区の遺跡 松山市文化財調査報告書 第120集	2007
愛媛大学 埋蔵文化財調査室	
文教遺跡Ⅴ一文教遺跡18次調査報告一	2008
愛媛大学埋蔵文化財調査室年報一2004年度一	2008
愛媛大学埋蔵文化財調査室年報一2005年度一	2008
福岡県 粕屋町教育委員会	
阿恵原口遺跡 粕屋町文化財調査報告書 第21集	2004
戸原堀ノ内遺跡第2地点 粕屋町文化財調査報告書 第25集	2007
柳川市教育委員会	
磯島フケ遺跡 柳川市文化財調査報告書 第1集	2006
小郡市教育委員会	
津古牟田遺跡4 小郡市文化財調査報告書 第184集	2003
ふるさと小郡のあゆみ	2007
八坂末安遺跡 小郡市文化財調査報告書 第215集	2007
三沢北中尾遺跡8・9 小郡市文化財調査報告書 第217集	2007
松崎宿北溝口・南溝口 小郡市文化財調査報告書 第218集	2007

三沢南崎遺跡	小郡市文化財調査報告書 第220集	2007
大保毎々遺跡	小郡市文化財調査報告書 第223集	2007
福童町遺跡4・6	福童東内畑遺跡 小郡市文化財調査報告書 第226集	2007
井上小松山遺跡3・4	小郡市文化財調査報告書 第227集	2007
干潟下鶴遺跡	小郡市文化財調査報告書 第231集	2007
三沢北中尾遺跡11A地点	小郡市文化財調査報告書 第232集	2007
直方市教育委員会		
感田野添西遺跡	直方市文化財調査報告書 第31集	2006
惣用遺跡	直方市文化財調査報告書 第32集	2006
領野和田遺跡	直方市文化財調査報告書 第33集	2006
下境餅米遺跡	直方市文化財調査報告書 第34集	2007
刈田町教育委員会		
城南遺跡Ⅰ地区	刈田町文化財調査報告書 第37集	2007
神護遺跡Ⅰ地区(古川遺跡)	刈田町文化財調査報告書 第38集	2007
南原遺跡群E地区	刈田町文化財調査報告書 第39集	2007
瑞穂の国の成立Ⅰ	ー豊前地方出土青銅器ー 2007年秋の特別展図録	2007
大野城市教育委員会		
牛頭梅頭遺跡群Ⅰ	大野城市文化財調査報告書 第60集	2007
仲島本間尺・唐土遺跡	大野城市文化財調査報告書 第72集	2007
牛頭小田浦窯跡群Ⅱ	大野城市文化財調査報告書 第73集	2007
大野城市の文化財	第39集	2007
九州大学総合研究博物館		
九州大学総合研究博物館ニュース (No.8)		2007
九州大学総合研究博物館研究報告 第5号		2007
東峰村教育委員会		
岩尾神社遺跡	東峰村文化財調査報告書 第1集	2007
久留米市教育委員会		
久留米市埋蔵文化財年報 Vol.3 平成16・17年度版		2007
久留米城外郭遺跡 第10次調査	久留米市文化財調査報告書 第234集	2006
筑後国府跡 -第210次調査報告書-	久留米市文化財調査報告書 第235集	2006
京限侍屋敷遺跡 -第6次調査-	久留米市文化財調査報告書 第236集	2006
上青木北大門遺跡	久留米市文化財調査報告書 第237集	2006
櫛原侍屋敷遺跡 -第7次調査-	久留米市文化財調査報告書 第238集	2006
篠田遺跡 -第3次調査-	久留米市文化財調査報告書 第239集	2006
水洗遺跡 第4次調査	久留米市文化財調査報告書 第240集	2006
久留米市埋蔵文化財調査集報Ⅳ	久留米市文化財調査報告書 第241集	2006
十間屋敷遺跡 第2次調査	久留米市文化財調査報告書 第242集	2007
二本木遺跡群Ⅳ	久留米市文化財調査報告書 第243集	2007
日渡遺跡Ⅴ -白川遺跡第5次調査-	久留米市文化財調査報告書 第244集	2007
南蔵西遺跡 -第6次調査-	久留米市文化財調査報告書 第245集	2007
善導寺境内遺跡 第1・2次調査概要報告書	久留米市文化財調査報告書 第246集	2007
九州新幹線「鹿児島ルート」鉄道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	久留米市文化財調査報告書 第247集	2007
平成18年度 久留米市内遺跡群	久留米市文化財調査報告書 第248集	2007
筑後国府跡・国分寺跡 -平成18年度発掘調査報告・概要報告-	久留米市文化財調査報告書 第249集	2007
筑後国三潯郡衙跡Ⅲ	久留米市文化財調査報告書 第250集	2007
筑後国府通信 第4号		2007
久留米市埋蔵文化財センター		
まいぶん久留米 第6号		2007
北九州市立自然史・歴史博物館		
北九州市立自然史・歴史博物館研究報告B類(歴史)第4号		2007
添田町教育委員会		
津野遺跡群	添田町埋蔵文化財調査報告 第5集	2007
嘉麻市教育委員会		
臼井家古墳群	嘉麻市文化財調査報告書 Ⅰ	2007
碓井町教育委員会		
御塚古墳	碓井町文化財調査報告書 第5集	2002
筑紫野市教育委員会		
永岡岸元遺跡	筑紫野市文化財調査報告書 第91集	2007
大刀洗町教育委員会		
史跡下高橋遺跡Ⅴ	大刀洗町文化財調査報告書 第30集	2005
下高橋架崎遺跡3・鶴木半十畑遺跡・鶴木高橋堺遺跡・高橋木ノ間遺跡	大刀洗町文化財調査報告書 第38集	2007
山隈中西又原遺跡3・高橋又原遺跡	大刀洗町文化財調査報告書 第39集	2007
遺跡下高橋官衙遺跡周辺遺跡4(下高橋上野遺跡7次調査)	大刀洗町文化財調査報告書 第40集	2007
下高橋遺跡Ⅵ	大刀洗町文化財調査報告書 第41集	2007
下高橋遺跡Ⅶ	大刀洗町文化財調査報告書 第42集	2007
富多西屋敷遺跡	大刀洗町文化財調査報告書 第43集	2007
行橋市教育委員会		
福童豊後塚遺跡Ⅰ	ー第1次発掘調査報告書ー 行橋市文化財調査報告書 第34集	2007
行橋市の文化財		2007
福岡大学文学部考古学研究室		
豊前・小ギバ窯跡の調査	福岡大学考古学研究室研究調査報告 第5冊	2007
福岡大学考古資料集成 Ⅰ	福岡大学考古学研究室研究調査報告 第6冊	2007
百済集落の研究	平成17・18年度科学研究費補助金(基礎研究(C))研究成果報告書	2007
大牟田市教育委員会		
平成17年度大牟田市市内遺跡発掘調査報告書	大牟田市文化財報告書 第60集	2007
大牟田市遺跡等分布地図	大牟田市文化財報告書 第59集	2007
大宰府市教育委員会		
大宰府条坊跡31	大宰府市の文化財 第89集	2006
大宰府条坊跡32	大宰府市の文化財 第90集	2007
幸ノ元井堰	大宰府市の文化財 第91集	2007
佐野地区遺跡群23	大宰府市の文化財 第93集	2007
大宰府・国分地区遺跡群2	大宰府市の文化財 第94集	2007
穂波町教育委員会		
忠隈古墳群Ⅱ	穂波町文化財調査報告書 第13集	2001
中屋古墳群Ⅱ	穂波町文化財調査報告書 第14集	2005
颯田町教育委員会		
井尻遺跡	小久保・勤貫遺跡 颯田町文化財調査報告書 第9集	2004
猪ノ尻・高木遺跡	島奥遺跡 颯田町文化財調査報告書 第10集	2006
下村遺跡	颯田町文化財調査報告書 第11集	2006

財団法人 北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室		
蛭住古立遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第360集	2007
蛭住稲国遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第361集	2007
小倉城三ノ丸跡第3地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第362集	2007
大門遺跡第3地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第363集	2007
黒崎城跡2	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第364集	2007
緑遺跡1区・2区	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第365集	2007
長野尾登遺跡第4地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第366集	2007
横代風呂屋遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第367集	2007
北方遺跡第10・11次調査	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第368集	2007
石田・岡屋敷遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第369集	2007
小倉城桜町口門跡・大門遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第370集	2007
長野尾登遺跡第2地点(K区)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第371集	2007
大手町遺跡(小倉城外堀跡)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第372集	2007
原町別院遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第373集	2007
中島遺跡2(第2次調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第374集	2007
黒崎城跡3	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第375集	2007
黒崎城跡4(6・7区)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第376集	2007
黒崎城跡5	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第377集	2007
畠山遺跡(E地点)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第378集	2007
長野尾倉遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第379集	2007
紅梅(A)遺跡4(第5次調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書 第380集	2007
研究紀要 ー第21号ー		2007
埋蔵文化財調査室年報23		2007
福岡県教育委員会		
東蒲池大内曲り遺跡	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第2集	2007
矢加部町屋敷遺跡Ⅰ	有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第3集	2007
菩提遺跡Ⅱ	一般国道201号仲哀改良工事関係埋蔵文化財調査報告書 2	2007
山門北池遺跡	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告書 第6集	2007
小川柳ノ内遺跡Ⅰ	九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告書 第7集	2007
九州歴史資料館		
九歴だより No.24		2006
九歴だより No.25		2007
九州歴史資料館 研究論集 32		2007
九州歴史資料館年報(平成18年度)		2007
前原市教育委員会		
三雲・井原遺跡 ー屋敷・下西地区ー	前原市文化財調査報告書 第90集	2006
池田井田遺跡	前原市文化財調査報告書 第91集	2006
三雲・井原遺跡	前原市文化財調査報告書 第92集	2006
酒地頭給遺跡Ⅰ	前原市文化財調査報告書 第93集	2006
国指定史跡 怡土城跡	前原市文化財調査報告書 第94集	2006
神在藤家住宅(2)	前原市文化財調査報告書 第95集	2006
酒地頭給遺跡Ⅱ	前原市文化財調査報告書 第96集	2007
伊都国歴史博物館		
伊都国歴史博物館紀要 創刊号		2006
伊都国歴史博物館紀要 第2号		2007
伊都国歴史博物館年報 ー平成16年度ー		2007
伊都国歴史博物館年報2 ー平成17年度ー		2007
赤村教育委員会		
本河内遺跡群Ⅰ	赤村文化財調査報告書 第2集	2007
粕屋町教育委員会		
原町原遺跡	粕屋町文化財調査報告書 第26集	2007
行橋市歴史資料館		
豊前地域の横穴墓ー竹並遺跡からのメッセージー	平成19年度特別展	2007
筑後市教育委員会		
真山遺跡Ⅱ	筑後市文化財調査報告書 第74集	2007
井田古屋敷遺跡	筑後市文化財調査報告書 第75集	2007
野町納楽遺跡	筑後市文化財調査報告書 第76集	2007
狐塚遺跡	筑後市文化財調査報告書 第77集	2007
一条小原遺跡	筑後市文化財調査報告書 第78集	2007
筑後市内遺跡群	筑後市文化財調査報告書 第79集	2007
前津井ノヤマ遺跡	筑後市文化財調査報告書 第80集	2007
蔵数立野遺跡	筑後市文化財調査報告書 第81集	2007
蔵数大谷遺跡	筑後市文化財調査報告書 第82集	2007
九州国立博物館		
鳥と魚のうたー鶴龍山のやきもの		2006
エイサー！ハーリー！ きゅうーはくの絵本③沖繩の祭り		2006
はらの なかの はらっぱで きゅうーはくの絵本④針聞書		2006
ぞくぞく ぞぞぞ きゅうーはくの絵本⑤化物絵巻		2007
特別展 未来への贈りもの 中国泰山石経と浄土教美術		2007
日本のやきもの		2007
親鸞聖人750回大遠忌記念 本願寺展 親鸞と仏教伝来の道		2007
朝鮮白磁ー純白・乳白・青白の器		2007
飯塚市教育委員会		
鳥尾遺跡Ⅱ	飯塚市文化財調査報告書 第32集	2007
北九州市教育委員会		
高見遺跡(第4地点)	北九州市文化財調査報告書 第111集	2007
水町遺跡	北九州市文化財調査報告書 第112集	2007
荒神森古墳2 ー第2次・3次・4次調査ー	北九州市文化財調査報告書 第113集	2007
室町遺跡第9地点・鍛冶町遺跡	北九州市文化財調査報告書 第114集	2007
那珂川町教育委員会		
那珂川町文化財調査報告書第69集「龍頭遺跡群Ⅱ」		2007
那珂川町文化財調査報告書第70集「裂田溝Ⅱ」		2007
福津市教育委員会		
福津市文化財調査報告書 第1集『宮司大ヒタイ遺跡 第4時調査』		2006
津屋崎町教育委員会		
津屋崎町文化財調査報告書 第22集『渡唐舟遺跡』		2005

宗像市教育委員会	『桜京古墳』宗像市文化財調査報告書 第58集	2007
	『田野瀬戸古墳』宗像市文化財調査報告書 第59集	2007
方城町教育委員会	伊方小学校遺跡(第二・三地点) 宝珠遺跡 方城町文化財調査報告書第4集	1997
	伊方古墳 野添遺跡群 方城岩屋磨崖 方城町文化財調査報告書第5集	1999
	伊方方丸古墳 方城町文化財調査報告書第6集	2003
	金山遺跡 県営農地環境整備事業(畑地区)関係埋蔵文化財調査報告第1集・方城町文化財調査報告書第8集	2005
	出口遺跡・長浦遺跡 県営農地環境整備事業(畑地区)関係埋蔵文化財調査報告第2集・方城町文化財調査報告書第9集	2006
	県指定史跡 伊方古墳 方城町文化財調査報告書第1集	2007
九州大学総合研究博物館	九州大学総合研究博物館研究報告第6号	2007
	九州大学総合研究博物館年報第2号	2007
	2007年度九州大学総合研究博物館概要	2007
遠賀町教育委員会	「尾崎・天神遺跡Ⅴ、金丸遺跡Ⅱ」 遠賀町文化財調査報告書第18集	2007
福岡市埋蔵文化財センター	福岡市埋蔵文化財センター年報 第26号	2008
飯塚市教育委員会	狩場・一ツ家・古賀ノ下・東光・椎木浦遺跡 飯塚市文化財調査報告書 第34集	2008
福岡市教育委員会	福岡城跡保存整備基本構想	2008
佐賀県 佐賀県教育庁文化課	佐賀県文化財年報12(2005年度)	2007
鹿島市教育委員会	浜町皿山窯跡 鹿島市文化財調査報告書 第16集	2007
	天神遺跡 鹿島市文化財調査報告書 第17集	2007
佐賀県教育委員会	戦場古墳群 佐賀県文化財調査報告書 第140集	1999
	柚比遺跡群4 分析編 佐賀県文化財調査報告書 第158集	2003
	中原遺跡Ⅰ 佐賀県文化財調査報告書 第168集	2007
	幸津遺跡 佐賀県文化財調査報告書 第169集	2007
	東畑瀬遺跡Ⅰ・大野遺跡Ⅰ 佐賀県文化財調査報告書 第170集	2007
	佐賀県内遺跡確認調査報告書25 佐賀県文化財調査報告書 第171集	2007
	特別史跡 名護屋城跡並びに陣跡7 名護屋城跡山里口石垣修理報告書 佐賀県文化財調査報告書第111集	1992
唐津市教育委員会	唐津市内遺跡確認調査(23) 唐津市文化財調査報告書 第133集	2007
	葉山尻支石墓群／葉山尻古墳2号墳／森田支石墓／瀬戸口支石墓 唐津市文化財調査報告書 第134集	2007
	汐入遺跡(2) 唐津市文化財調査報告書 第135集	2007
	荒平遺跡 唐津市文化財調査報告書 第136集	2007
	道納屋窯跡 唐津市文化財調査報告書 第137集	2007
	平松窯跡 唐津市文化財調査報告書 第138集	2007
	星賀城塞群Ⅱ 唐津市文化財調査報告書 第139集	2007
	呼子町内遺跡発掘調査 唐津市文化財調査報告書 第140集	2007
佐賀市教育委員会	佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 ー2002～2004年度ー 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第11集	2007
	佐賀藩海軍所跡 ー2区の調査ー 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第12集	2007
	西中野遺跡Ⅰ ー6～8区の調査ー 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第13集	2007
	藤木三本杉遺跡Ⅱ ー4・5区の調査ー 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第14集	2007
	西中野遺跡Ⅱ ー3区の調査ー 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第15集	2007
	大串遺跡 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第16集	2007
	村徳永遺跡 ー20区の調査ー 佐賀市埋蔵文化財調査報告書 第17集	2007
久保田町教育委員会	上恒安遺跡4区 久保田町文化財調査報告書 第2集	1997
	上恒安遺跡5区 久保田町文化財調査報告書 第7集	2007
	上恒安遺跡3区 久保田町文化財調査報告書 第8集	2007
小城市教育委員会	小城市の建造物	2006
	久蘇遺跡(6～19区) 小城市文化財調査報告書 第3集	2007
	久蘇遺跡 小城市文化財調査報告書 第4集	2007
	柿樋瀬遺跡 小城市文化財調査報告書 第5集	2007
	牛津乙宮社日記 3 小城市文化財調査報告書 第6集	2007
小城市立歴史資料館・小城市立中林梧竹記念館	調査研究報告書第2集 平成17年度事業報告	2007
武雄市教育委員会	武雄市の文化財	2007
長崎県 松浦市教育委員会	松浦市内遺跡確認調査(1) 松浦市文化財調査報告書 第1集	2007
長崎県壱岐市教育委員会	特別史跡 原の辻遺跡 壱岐市文化財調査報告書 第10集	2007
	天手長男神社遺跡 原の辻遺跡 カラカミ遺跡 壱岐市文化財調査報告書 第11集	2007
大村市教育委員会	市内遺跡発掘調査概報 1 大村市文化財調査報告書 第30集	2007
	国史跡大村藩大村家墓所保存管理計画書	2007
諫早市教育委員会	下峰原高場遺跡 諫早市埋蔵文化財調査協議会報告書 第4集	2002
	尾和谷城跡 諫早市文化財調査報告書 第16集	2004
	小野堀口遺跡 諫早市文化財調査報告書 第17集	2005
	風舘岳支石墓群 諫早市文化財調査報告書 第19集	2006
	諫早市文化財調査年報Ⅰ(平成9年度～平成17年度) 諫早市文化財調査報告書 第20集	2007
熊本県 氷川町教育委員会	大野館古墳 氷川町文化財調査報告書 第1集	2007
八代市立博物館未来の森ミュージアム	松井文庫所蔵古文書調査報告書 十二	2007
宇土市教育委員会	宇土城跡(西岡台) 宇土市埋蔵文化財調査報告書 第29集	2007
八代市教育委員会	上日置女夫木遺跡 八代市文化財調査報告書 第26集	2005
	用七遺跡 八代市文化財調査報告書 第27集	2005

大分県	熊本大学文学部考古学研究室	
	阿蘇における旧石器文化の研究 熊本大学文学部考古学研究室研究報告 第2集	2007
	考古学研究室報告 第42集	2007
	歴史公園鞠智城・温故創生館	
	鞠智城跡 第28次調査報告	2007
	植木町教育委員会	
	石川遺跡(第1分冊・第2分冊) 植木町文化財調査報告書 第14集	2002
	熊本大学埋蔵文化財調査室	
	熊本大学埋蔵文化財調査室年報 12	2007
	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅲ 熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第3集	2007
	山鹿市教育委員会	
	市内遺跡確認調査 山鹿市立博物館調査報告書 第11集	1991
	中皆本遺跡 中古閑地区県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の概要	2007
	隈部館跡Ⅲ 山鹿市文化財調査報告 第1集	2006
	方保田東原遺跡(7) 山鹿市文化財調査報告 第2集	2006
	中皆本遺跡 山鹿市文化財調査報告 第3集	2007
	方保田東原遺跡(8) 山鹿市文化財調査報告 第4集	2007
	方保田神社裏古墳 山鹿市文化財調査報告 第5集	2007
	相良村教育委員会	
	入口遺跡 相良村文化財調査報告 第6集	2007
	合志市教育委員会	
	陣ノ内遺跡 熊本市合志市文化財調査報告書 第1集	2007
	菊鹿町教育委員会	
	隈部館跡Ⅱ 菊鹿町文化財調査報告 第11集	2005
大分県	大分県立歴史博物館	
	大分県立歴史博物館 研究紀要 8	2007
	豊後国国東郷3 国東半島荘園村落遺跡群明細分布調査概報	2007
	大分発掘ものがたり～よみがえる郷土の歴史～	2007
	大分県立歴史博物館年報	2007
	大分県立先哲史資料	
	史料館研究紀要 第11号	2006
	収蔵史料目録 5	2007
	坂ノ市地区郷土史愛好会	
	白水郎(あま) 第24号 坂ノ市地区郷土史愛好会会報	2007
	別府市教育委員会	
	春木芳元遺跡 春木芳元遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
	春木芳元遺跡古寺地区 春木芳元遺跡埋蔵文化財発掘調査報告	2007
	宇佐市教育委員会	
	辻平遺跡Ⅱ区 国道10号南宇佐地区歩道設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
	瓦塚遺跡 宇佐地区遺跡群発掘調査報告書 Ⅱ	2006
	宇佐地区遺跡群発掘調査概報15 平成14～18年度調査の概報	2007
	中津市教育委員会	
	沖代地区条里跡 手渡地区・紫地区・尻門地区 東浜遺跡 大新田四番通地区 是則株瀬地区 大貞馬場池地区 中津城下町遺跡 豊後町地区・殿町地区 中津城(VI) 中津市文化財調査報告 第42集	2007
	九重町教育委員会	
	九重町歴史資料館年報	2007
	平家山 九重町文化財調査報告 第31輯	2007
	竹田市教育委員会	
	埋蔵文化財発掘調査報告書 国道502号改良工事に伴う 南方家屋敷跡 県道竹田玉来線改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書	2004
	市用遺跡 平原遺跡 経営体育成基盤整備事業(竹田北部地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2006
	城下町遺跡(田代家武家屋敷跡) 都市計画道路竹田玉来線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
	竹田地区遺跡群 岡本地区 久住南部地区 下坂田地区 小高野地区 城原北部地区 太田地区	2007
	史跡 岡城跡 平成18年度史跡岡城跡保存修理事業報告書	2007
	国道502号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2008
	日田市教育委員会	
	祝原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第61集	2005
	大肥中村遺跡Ⅰ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第62集	2006
	大肥下河内遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第63集	2006
	大肥祝原遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第64集	2006
	高野遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第65集	2006
	大肥遺跡Ⅱ Ⅰ-B・C区の調査の記録Ⅰ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第66集	2006
	大肥遺跡Ⅲ Ⅰ-A・2区の調査概要Ⅰ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第67集	2006
	一丁田遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第68集	2006
	尾漕2号墳 日田市埋蔵文化財調査報告書 第69集	2006
	徳瀬遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第71集	2006
	中川原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第72集	2006
	長者原遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第73集	2006
	大波羅遺跡4次 日田市埋蔵文化財調査報告書 第74集	2007
	慈眼山遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第75集	2007
	上井手遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第76集	2007
	求来里平島遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第77集	2007
	長者原遺跡Ⅱ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第78集	2007
	葛原遺跡Ⅲ Ⅰ-F・H・I区の調査報告Ⅰ 日田市埋蔵文化財調査報告書 第79集	2007
	瀧ヶ本遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書 第80集	2007
	祇園原遺跡Ⅱ(弥生・古墳時代遺構編) 日田市埋蔵文化財調査報告書 第81集	2007
	日田市埋蔵文化財年報 平成17年度(2005年度)	2007
大分県	大分県埋蔵文化財センター	
	大分県埋蔵文化財年報15(平成17年度のまとめ)	2007
	一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)	
	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第12集	2007
	一般国道57号中九州横断道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)	
	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第13集	2007
	岡遺跡群 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第14集	2007
	豊後府内6 中世大友府内町跡第10次調査区 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第15集	2007
	豊後府内7 一・中世大友府内町跡第20次調査区 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第16集	2007
	北小枇把遺跡・野田遺跡 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第17集	2007
	古庄屋遺跡Ⅱ 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第18集	2007

	市用遺跡 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第19集	2007
	岡遺跡群 上辻遺跡発掘調査報告書 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第20集	2007
	岩金遺跡 発掘調査報告書 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第21集	2007
	大分県内遺跡発掘調査概報10	2007
宮崎県	大分市横尾遺跡検討委員会	
	横尾遺跡保存整備方針・活用基本構想案報告書	2008
宮崎県	西都市教育委員会	
	西都原地区遺跡・日向国分寺跡 西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第49集	2007
	堂々嶋遺跡、上妻遺跡、童子丸遺跡、石貫遺跡 西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第50集	2007
	都於郡城跡 西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第51集	2007
	西都原古墳研究所・年報 第23号 平成18年度	2007
延岡市教育委員会	御堂原遺跡(第2次) 携帯電話無線基地局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
	市内遺跡 平成18年度市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007
高鍋町教育委員会	高鍋町埋蔵文化財調査報告書 第14集 町内遺跡発掘調査報告書 ～持田遺跡確認調査2・持田古墳群古墳範囲確認調査5～	2007
高城町教育委員会	牧ノ原遺跡群 高城町文化財調査報告書第20集	2005
綾町教育委員会	梅ヶ野遺跡 綾町埋蔵文化財調査報告書第7集	2004
	椎屋遺跡 綾町埋蔵文化財調査報告書第8集	2005
	綾町内遺跡Ⅴ 綾町埋蔵文化財調査報告書第9集	2005
	小平谷第1遺跡 綾町埋蔵文化財調査報告書第10集	2006
	綾町内遺跡Ⅵ 綾町埋蔵文化財調査報告書第11集	2007
	小平谷第1遺跡 綾町埋蔵文化財調査報告書第12集	2007
都城市教育委員会	梅北北原遺跡 都城市文化財調査報告書 第83集	2007
	早馬遺跡 都城市文化財調査報告書 第84集	2008
	都城市文化財調査報告書 第85集	2008
	加治屋B遺跡(平安時代・中世編) 都城市文化財調査報告書 第86集	2008
	平田遺跡 A地点・B地点・C地点 都城市文化財調査報告書 第87集	2008
	鍋前第5遺跡 県営中山間地域総合整備事業高崎地区に伴う発掘調査報告書	2008
えびの市教育委員会	北岡松地区遺跡群 えびの市埋蔵文化財調査報告書 第46集	2008
	66kv大霧えびの線新設並びに関連工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 えびの市埋蔵文化財調査報告書47集	2008
	えびの市の城館跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書 第45集	2008
鹿児島県	指宿市教育委員会	
	橋牟礼川遺跡Ⅵ 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集	1994
	橋牟礼川遺跡Ⅹ1 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集	1996
	平成17年度市内遺跡確認調査報告書(敷領遺跡・南迫田遺跡・新番所後遺跡) 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 第39集	2006
	株式会社ニシムタ店舗建設に伴う発掘調査報告書 新番所後遺跡 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 第40集	2007
	平成18年度市内遺跡確認調査報告書(敷領遺跡・慶園遺跡) 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書 第41集	2007
	指宿市考古博物館	
	博物館年報・紀要 第6号 平成15・16年度	2005
	博物館年報・紀要 第7号 平成17・18年度	2007
	出水市教育委員会	
鹿児島県	柴引a遺跡 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(15)	2006
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	堂平窯跡(第1～3分冊) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (106)	2006
	前原遺跡(第1～2分冊) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (107)	2007
	室園遺跡A地点 古殿諏訪陣跡 折戸平遺跡 山神迫遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (108)	2007
	山ノ田遺跡B地点 蔵野B遺跡 松ヶ尾遺跡 谷ヶ迫遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (109)	2007
	仁田尾中A・B遺跡(第1～3分冊) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (110)	2007
	魚見ヶ原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (111)	2007
	諏訪牟田遺跡 諏訪前遺跡 南原内堀遺跡 加治屋堀遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (112)	2007
	上水流遺跡1 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (113)	2007
	中原山野遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (114)	2007
	前山遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (115)	2007
	上山路山遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (116)	2007
	市堀遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (117)	2007
	安茶ヶ原遺跡 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (118)	2007
	金峰町教育委員会	
	芝原b遺跡 金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書 (21)	2005
	南さつま市教育委員会	
	二頭遺跡・花抜園墓地 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)	2006
	春ノ山遺跡 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書 (2)	2007
	松坂原遺跡・入道ヶ野遺跡 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書 (3)	2007
	出原遺跡・有村遺跡・小園原遺跡・瀬戸口遺跡 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書 (4)	2007
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	
	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区 鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第2集	2006
	鹿児島大学構内遺跡郡元団地Q-10区 鹿児島大学構内遺跡郡元団地K・L-5・6区 鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書 第3集	2007
	野田町教育委員会	
	大島遺跡 野田町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)	2006
	出水市教育委員会	
	市内遺跡(上場遺跡他)発掘調査等報告書 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書 (16)	2007
	大久保遺跡跡・大久保B遺跡 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書 (17)	2007
	野田島遺跡 出水市埋蔵文化財発掘調査報告書 (18)	2007
	川辺町教育委員会	
	土器衛遺跡 川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)	2007
	背野平遺跡 川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 (9)	2007
	荒多遺跡・上桑持野遺跡 川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 (10)	2007
	津フジ遺跡 川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 (11)	2007
	九玉遺跡 塘池上遺跡 川辺町埋蔵文化財発掘調査報告書 (12)	2007
	南種子町教育委員会	
	広田遺跡 南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(15)	2007
	霧島市教育委員会	
	真田原遺跡 農免農道整備事業(霧島中央地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2008

沖縄県	曾於市教育委員会 曾於市埋蔵文化財センター	
	元屋敷遺跡 曾於市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	2008
	片蓋下遺跡 曾於市埋蔵文化財発掘調査報告書(6)	2008
	南さつま市教育委員会	
	上床城跡 南さつま市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	2008
沖縄県	うるま市教育委員会	
	市内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成17年度 うるま市文化財調査報告書 第2集	2007
	具志川グスクⅠ 発掘調査報告概報 うるま市文化財調査報告書 第4集	2007



文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(ますぐみ)のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

(昭和41年5月26日決定)

大分市埋蔵文化財調査年報 19

2008

発行日

平成 20年 12月 26日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-0025 (097)534-6111
